

OMRON

# リモート電源制御装置 RC3008

取扱説明書  
詳細版



このたびは、「オムロン リモート電源制御装置 (RC3008)」をご購入いただきありがとうございます。

本装置は、ネットワーク経由でシステム機器の制御／管理をする電源制御装置です。8個のAC100V電源コンセントを個別に遠隔制御／管理でき、各コンセントごとの消費電力量 (CO2排出量) を測定することもできます。年間スケジュールで動作するスケジューラーとしてもご利用できます。

本書では、本装置を安全にご使用いただくために必要な事項が記載されています。ご使用前に、必ず本書をご一読いただきますようお願いいたします。この説明書は必要な時にいつでも読めるように、本機の設置場所近くに保管し、ご利用ください。

## 用途について

本機はOA機器に使用することを目的に設計・製造されています。以下のような、きわめて高い信頼性や安全性が要求される用途には使用しないでください。

- ・人命に直接関わる医療用機器
  - ・人身の損傷に至る可能性のある用途 (航空機、船舶、鉄道、エレベータなどの運行、運転、制御などに直接関連する用途)
  - ・車載、船舶など常に振動が加わる可能性がある用途
  - ・故障すると社会的、公共的に重大な損害や影響を与える可能性のある用途 (主要な電子計算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなど)
  - ・これらに準ずる機器
- 特に信頼性の要求される重要なシステム等への使用に際しては、オムロン電子機器カスタマサポートセンタへご相談ください。

## 免責事項について

当社製品の使用に起因する事故であっても、装置・接続機器・ソフトウェアの異常、故障に対する損害、その他二次的な損害を含むすべての損害の補償には応じかねます。

## 商標について

Microsoft Windowsは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。  
Apple、Macintosh、Mac OSは米国Apple Computer, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。  
Adobe、およびReaderは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標または登録商標です。  
その他、本取扱説明書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。  
本文中の各社の登録商標または商標には、TM、®マークは表示しておりません。

## 著作権について

この製品には、OpenSSL Toolkitで使用するために OpenSSL プロジェクトにより開発されたソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/>)。

Copyright (c) 1998-2010 The OpenSSL Project. All rights reserved.



**警告**

この表示を無視して、間違った取り扱いをした場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、間違った取り扱いをした場合、人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。  
物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットに関わる拡大損害を示しています。



**禁止行為（してはいけないこと）を示しています。**



**強制行為（必ずしなければいけないこと）を示しています。**

なお、注意に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性もあります。  
いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

**警告**

	<p>本製品を分解したり、改造したりしないこと。 ・感電、火災、故障のおそれがあります。</p>		<p>雷のときは、本製品およびケーブルに触れないこと。 ・感電のおそれがあります。</p>
	<p>本製品に水などの液体をかけたり、異物を入れないこと。 ・感電や火災のおそれがあります。万一、本製品に液体がかかったり、異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電子機器修理センタ (TEL : 03-3436-7213) にご連絡ください。</p>		<p>本製品から煙、異臭、異常音が発生した場合は、入力電源プラグをコンセントから抜き、本製品に接続している機器を取り外すこと。 ・感電や火災のおそれがあります。直ちにご使用を停止し、修理、点検のため、電子機器修理センタ (TEL : 03-3436-7213) にご連絡ください。</p>
	<p>下記の環境では、使用、保管しないこと。 ・室外 ・周囲温度が0℃よりも低い／温度が50度よりも高い場所 ・湿度が20%よりも低い／湿度が85%よりも高い場所 ・結露がある場所 ・急激な温度変化が起きる場所 ・ほこりが多い場所 ・静電気が発生しやすい場所 ・腐食性のガスが発生する場所 ・水などがかかりやすい場所 ・振動や衝撃が加わるような不安定な場所 ・油煙が当たる場所 ・直射日光が当たる場所 ・製品周囲に発熱する器具や燃えやすい物がある場所 ・周囲に置いてある物との間に適切な空間がない場所 ・本製品の故障や破損などによって、発煙、発火、感電のおそれがあります。</p>		<p>極めて高い安全性や信頼性が要求される用途（医療機器や安全装置など）には使用しないこと。 本商品はパソコン周辺機器と接続する用途に設計されています。医療機器や安全装置など人命に直接関わる機器の電源制御に使用しないでください。 ・人が死亡または重傷を負うおそれがあります。</p>
			<p>電源ケーブルを傷つけないこと。 ・感電、火災のおそれがあります。</p>
			<p>コンセント1～8には、出力合計（3000W）を超える機器を接続しないこと。 ・火災や故障のおそれがあります。</p>

 **警告**

	<p>本製品を設置、移動するときは電源プラグを抜くこと。 ・感電のおそれがあります。</p>		<p>梱包のポリ袋などは、小さいお子様の手の届くところに置かないこと。 ・小さいお子様がかぶったり、飲みこんだりすると、呼吸を妨げるおそれがあります。</p>
	<p>使用中の本製品を布で覆ったり、包んだりしないこと。 ・熱がこもり、火災のおそれがあります。</p>		<p>本製品を逆さまに設置しないこと。 ・故障や火災の原因となるおそれがあります。</p>
	<p>本製品を積み重ねたり、密着させて使用しないこと。 ・故障や火災のおそれがあります。</p>		<p>電源プラグは確実に根元まで差し込むこと。また、電源プラグとコンセントの間のほこりは定期的（半年に1回程度）に取り除くこと。 ・電源プラグの間にほこりが付着し、電源が短絡して発煙、発火、火災のおそれがあります。</p>
	<p>落下させたり、強いショックを与えた場合は使用を中止すること。 ・そのまま使用すると、重大な事故につながるおそれがあります。 販売店または電子機器修理センタ（TEL：03-3436-7213）に点検を依頼してください。</p>		<p>必ずアース接続すること。 3P-2P変換アダプタをご使用の場合、アース接続は必ず電源プラグをコンセントに接続する前におこなってください。アース接続を外すときには、必ず電源プラグをコンセントから抜いてからおこなってください。 ・アース接続しないで使用すると、感電のおそれがあります。</p>
	<p>ぬれた手で本製品を操作したり電源プラグを抜き差ししないこと。 ・感電のおそれがあります。</p>		
	<p>電源ケーブルはプラグ部分をもってコンセントから抜くこと。 ・プラグが傷んで感電や火災のおそれがあります。</p>		<p>インタフェースコネクタには適合する回線のコネクタ以外のものを絶対に差し込まないこと。 ・感電や故障のおそれがあります。</p>
	<p>電源プラグは、AC100V 15Aのコンセント（商用電源）に直接接続すること。 ・発熱、火災のおそれがあります。</p>		<p>本製品は日本国以外で使用しないこと。 ・感電、故障、火災のおそれがあります。 本製品の仕様は国内向けです。海外ではご利用になれません。</p>
	<p>使用中の本製品を布で覆ったり、包んだりしないこと。 ・熱がこもり、火災のおそれがあります。</p>		<p>These products are designed for use in Japan only and cannot be used in any other countries.</p>
	<p>小さなお子様の手に届くところには設置しないこと。 ・ケガや事故の原因となる事があります。</p>		<p>同梱されている全ての付属品は、本機を使用する場合に限り使用できるものです。他の機器には使用しないでください。 ・ケガや火災、故障のおそれがあります。</p>
	<p>本製品のお手入れは入力プラグをコンセントより抜いてからおこなってください。 ・感電のおそれがあります。</p>		

## ⚠ 注意

	電源が入っている状態で本製品に長時間(1分以上)触れないこと。		本製品をぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に設置しないこと。 また、強い衝撃や振動の加わる場所で使用しないこと。 ・落下によるケガや破損、故障のおそれがあります
	電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないこと。		ラジオやテレビジョン受信機のそばで使用しないこと。 ・ラジオやテレビジョン受信機に雑音が入る場合
	配線工事は正しくおこなうこと。 正しい配線工事をおこなわないと正常な通信がおこなえないだけでなく、本装置の故障にもつながります		ケーブル処理に必要な空間をとること。 ・本装置を並べて使用する場合でも、それぞれに必要な空間を設けてください。
	本製品のお手入れは、乾いた柔らかい布で拭いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布に台所用中性洗剤をしみこませて固く絞ってから拭き、最後に乾いた柔らかい布でからぶきしてください。 ・揮発性の有機溶剤、薬品、化学ぞうきんなどを使用すると、変質、変色、場合によっては、破損する		CD-ROMは下記を守って使用してください。 ・表面に傷をつけないでください。 ・読み取り面を触らないでください。 ・折り曲げないでください。 ・高湿高温、直射日光のあたる場所、ほこりの中で保管しないでください。 データが読み取れなくなるおそれがあります。
	本製品の上に乗らないでください。		本機をコイル、モータ等の誘導性の機器に使用する時は、必ず事前に確認の動作をおこなってからご使用ください。 ・機器の種類によっては突入電流などの影響で本機が正常に動作しない(ヒューズ溶断など)場合
	データ通信をおこなう際には、あらかじめデータのバックアップを取るなどの処置をおこなってください。 ・回線や本製品の障害によりデータを消失するお		

## お願い

・廃棄時は、各地方自治体などで決められた分別収集方法に従ってください。  
間違った廃棄処分をすると、有害物質が発生し、環境や人体に影響を与えるおそれがあります。

・セキュリティの確保について

ネットワーク上に設置された本装置をWEBブラウザ、TELNETによって設定制御する場合、通信内容は平文でネットワーク上を流れますので、SSLやSNMPv3を使用するか、お客様の責任でVPNなどの手段によってセキュリティを確保してください。

はじめに	1
安全にご使用いただくために	2
目次	5
第1章 お使いになる前に	7
1-1 梱包内容	8
1-2 各部の名称と働き	9
1-3 DIPスイッチの設定	10
1-4 LED表示について	10
第2章 設置・接続	11
2-1 設置・接続時のご注意、お願い	12
2-2 設置・取り付け	12
2-3 接続方法	14
第3章 設定制御方法	15
第4章 本体IPアドレスの設定	18
4-1 10BASE-Tポートを使ったLAN接続による設定変更	19
4-1-1 設定制御用パソコンの設定を本体のIPアドレスにあわせて変更する	20
4-1-2 本体に新しいIPアドレスを設定する	23
4-1-3 設定制御用パソコンの設定を本体の新しいIPアドレスにあわせて変更する	25
4-1-4 設定制御用パソコンのIPアドレス設定を元に戻す	26
4-2 COMポートを使ったシリアル接続による設定変更	28
4-2-1 ハイパーターミナルの起動～接続	28
4-2-2 ハイパーターミナルを使った本体IPアドレス設定	30
第5章 WEBブラウザによる設定制御	31
5-1 設定制御用パソコンのネットワークを設定する	32
5-2 ログイン	34
5-3 状況表示項目	35
5-3-1 簡易情報表示	35
5-3-2 監視状態表示	36
5-3-3 イベントログ表示	37
5-3-4 ログ表示	39
5-4 制御項目	41
5-4-1 電源制御	41
5-4-2 仮想コンセント制御	42
5-5 設定項目	43
5-5-1 基本設定	43
5-5-2 詳細設定	47
5-5-3 セキュリティ設定	50
5-5-4 UPS連動設定	52
5-5-5 通信設定	54
5-5-6 監視設定	62
5-5-6-1 PINGによる死活監視	62

5-5-6-2 POPサーバー監視	64
5-5-6-3 温度による電源制御	65
5-5-6-4 電流監視	67
5-5-7 スケジュール設定	70
5-5-8 システム情報	75
5-5-9 PING送信	76
5-5-10 CPUリセット	77
第6章 TELNETによる設定制御	78
6-1 設定制御用パソコンのネットワーク設定	79
6-2 TELNET接続による制御	81
第7章 ターミナルソフトによる設定制御	88
7-1 設定制御用パソコンのCOMポート設定とコマンド制御	89
7-2 モデム経由によるコマンド制御	95
7-3 モデム接続時のRC3008シリアルポート設定	96
7-4 モデム経由によるコマンド制御	96
第8章 メールによる制御	97
メールによる制御接続例	98
第9章 ログイン機能の設定・表示	101
9-1 TELNETまたはターミナルソフトによる設定・表示	102
9-2 ログ制御変数のビット構成	103
9-3 ログ表示コマンド	103
9-4 ログの表示形式	104
9-5 記録ログ一覧表	104
第10章 PPPoEの使用	105
10-1 PPPoEについて	106
10-2 設定について	106
10-3 制御について	106
10-4 動作について	107
第11章 困ったときには？	110
付録	116
付録1 変数一覧表	117
付録2 ログ変数一覧表	124
付録3 仕様一覧表	126
修理・お問い合わせ	127

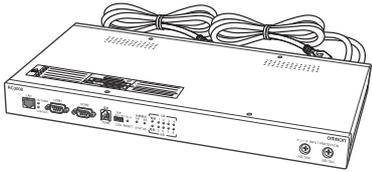
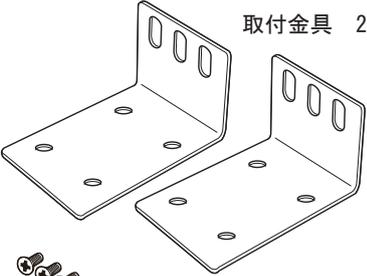
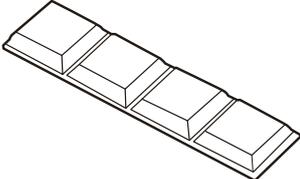
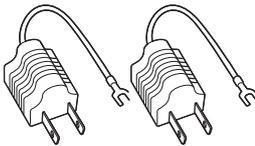
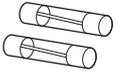
取扱説明書 詳細版

第1章

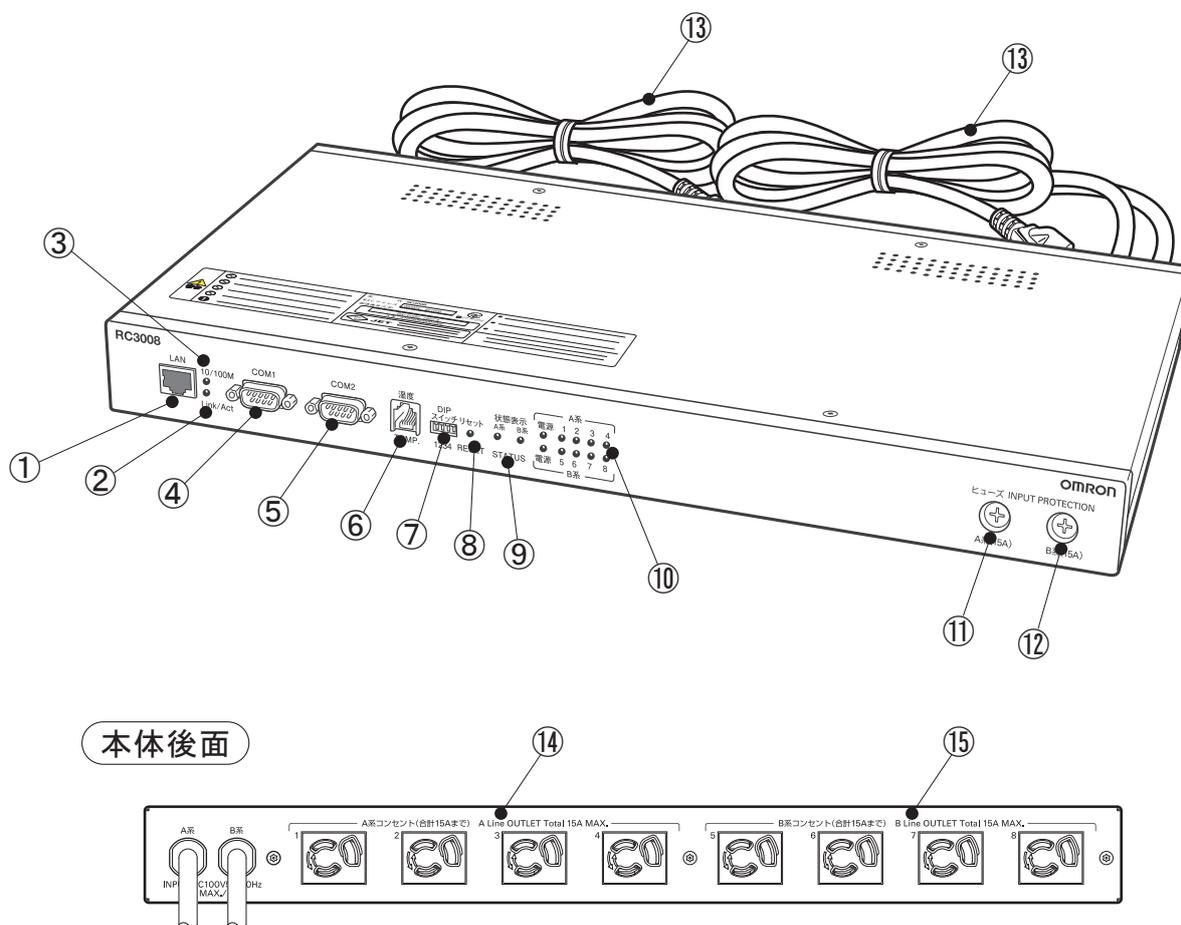
お使いになる前に

## 1-1 梱包内容

本製品には、それぞれ以下のものが同梱されています。本製品をお使いになる前に、すべて揃っていることを確認してください。

<p>■RC3008本体 1台</p> 	<p>■ご使用になる前に 1部 保証書/ご愛用登録カード 1部</p>  <p>修理の際に必要となります。大切に保管してください。</p>	<p>■CD-ROM 1枚</p>  <p>CD-ROMの中には、取扱説明書（PDF形式）および電力モニターユーティリティが入っています。ご覧になる場合は、PDF閲覧ソフトAdobe Readerが必要になります。</p>
<p>■取付金具・ネジ</p> <p>取付金具 2枚</p>  <p>ネジ (M3×6mm) 8本</p> 	<p>■ゴム足 4個</p> 	<p>■3P-2P変換プラグ 2個</p>  <p>本体の電源プラグを接続するコンセントが、2極アース端子付きの場合に使用します。</p>
<p>■予備ヒューズ 2個</p>  <p>予備のヒューズです。 (指定ヒューズ：125V 15A 6Φ30mm)</p>		

## 1-2 各部の名称と働き



①LAN	LANポートです。制御用パソコンと接続して本体の設定制御をおこないます。また、ネットワーク機器の監視をおこないます。接続には市販のLANケーブル(8芯RJ-45コネクタクロス)を使用します。
②10/100M LED	100BASE-TXでリンク時点灯、10BASE-Tでリンク時消灯
③Link/Act LED	リンク時点灯、データ受信時消灯(連続データでは点滅)
④COM1	シリアル通信ポートです。制御用のパソコンやモデムと接続して本体の設定制御をおこないます。UPSと接続してUPSをコントロールや、UPSの状態取得を行います。また本体を工場出荷の状態に戻すため本シリアル通信ポートを使用します。
⑤COM2	拡張用シリアル通信ポートです。別の1台のRC3008と連携して電源を制御する時等に使用します。
⑥温度 TEMP.	オプションの温度センサ(形式:RCTS)を接続し、温度による電源制御をおこないます。 ※電話線など温度センサ以外のものを接続しないでください。故障や火災のおそれがあります。
⑦DIPスイッチ	初期設定時に使用します。詳細はP9 1-3「DIPスイッチの設定」を参照してください。
⑧リセットRESET	電源出力(コンセント1~8)を維持したまま本製品を再起動します。
⑨状態表示 STATUS LED	
⑩電源 LED	
⑪アウトレット出力LED	アウトレット1~8の電源出力状態を表示します。
⑫ブレーカー	電気回路に異常電流が流れた時などに、自動的に回路を遮断して機器の故障やショートによる火災などを防ぎます。電源の入力を再開する時にボタンを押します。
⑬電源コンセント	商用電源、UPSなどに接続します。
⑭A系コンセント	A系統の抜け防止機構付きAC電源出力コンセントです。電源ON/OFF制御をする機器の電源プラグを接続します。
⑮B系コンセント	B系統の抜け防止機構付きAC電源出力コンセントです。電源ON/OFF制御をする機器の電源プラグを接続します。

## 1-3 DIPスイッチの設定

### 注 意

- DIPスイッチを操作するときは、本体のコンセントから全接続機器の電源プラグを取り外してください。
- DIPスイッチ操作また設定終了後は、必ず、本体前面のリセットスイッチを押してください。誤動作するおそれがあります。
- 本体設定の初期化方法については、第11章「困ったときには？」の「工場出荷状態へ戻す」を参照ください。

### ■モードDIPスイッチの機能

モード	DIPスイッチ状態			
	1	2	3	4
運転モード	OFF	OFF	OFF	OFF
中継モード	ON	ON	OFF	OFF
メンテモード	OFF	OFF	ON	OFF
初期化モード	ON	OFF	ON	OFF
UPSモード	ON	OFF	OFF	OFF

## 1-4 LED表示について

LED	LED点灯状態	状態
10/100M LED	点灯	100BASE-TXでリンク時
	消灯	10BASE-Tでリンク時
Link/Act LED	点灯	リンク時
	消灯	データ受信時（連続データでは点滅）
状態表示 STATUS LED	点灯	レギュレータ、死活監視リポート回数、POP接続監視正常時
	点滅	レギュレータ、死活監視リポート回数、POP接続監視異常時
	緑	電流警報正常時
	橙	電流警報注意時
	赤	電流警報異常時
電源 LED	点灯	入力電源供給時
	消灯	入力電源未供給時
アウトレット出力LED 1~8	点灯	電源出力時
	消灯	電源未出力時

取扱説明書 詳細版

第2章

設置・接続

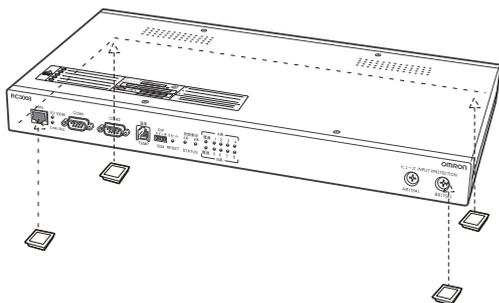
## 2-1 設置・接続時のご注意、お願い

本体の設置および他機器を本体に接続する場合は、P. 2～P. 4に記載されている「安全にご使用いただくために」の項をよくお読みください。

## 2-2 設置・取り付け

### (1) ゴム足の取り付け

本体を台の上に設置する場合はゴム足を取り付けて下さい。

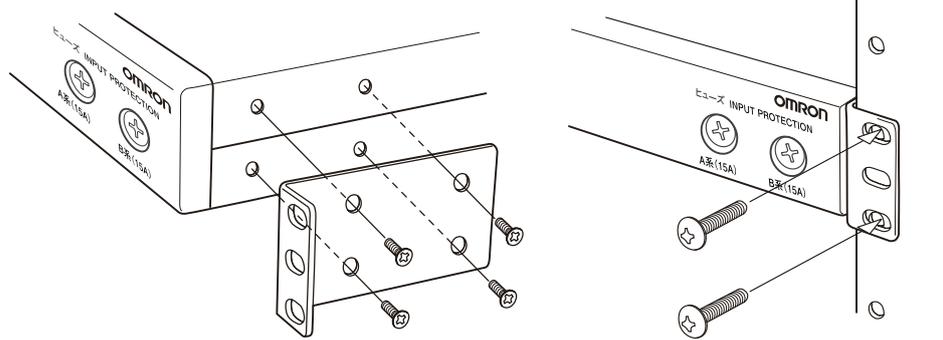


### 注意

●本体を逆さまに設置しないでください。本体内部に熱がこもり、故障や火災のおそれがあります。

### (2) 付属の取付金具を使いラックに固定する場合

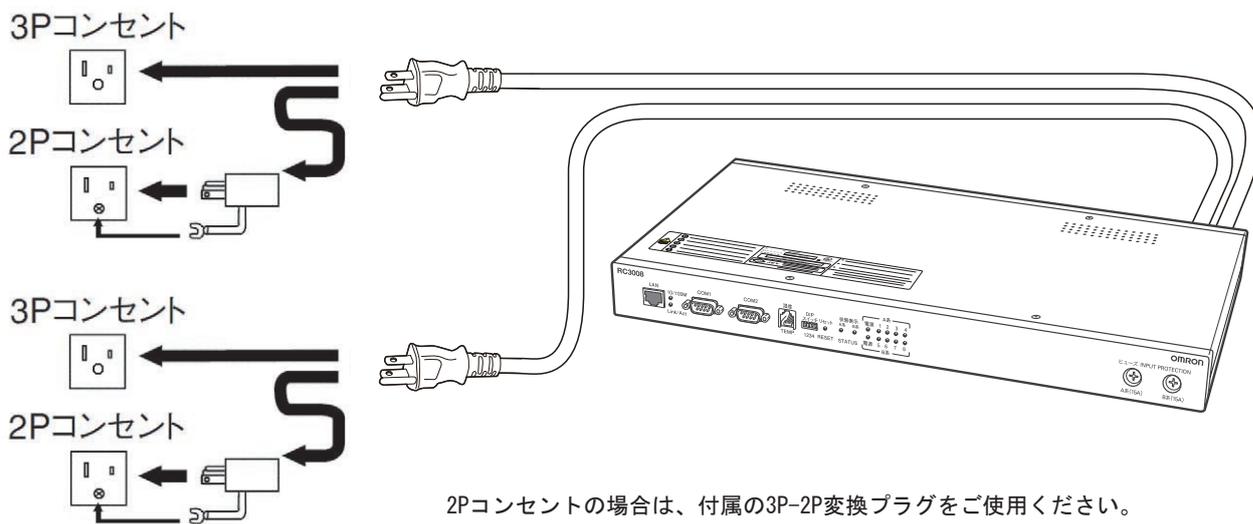
- 1) 本体よりゴム脚を取り外します。
- 2) 本体に同梱のネジ8本でラック・マウント用金具を取り付けます。
- 3) ラック・キャビネットに本体を取り付けます。



### 注意

- 本体を逆さまに設置しないでください。火災や故障の原因となります。
- 本体に取付金具を取り付けるネジは、付属のものをご利用ください。
- 異なるサイズのネジを使用すると、感電、火災、故障の原因となります。
- 本体が落下しないよう、十分な強度のあるものに取り付けてください。
- 付属の取付金具は19インチEIAラック用金具です。

(3) 本体の電源コードをコンセントに接続します



2Pコンセントの場合は、付属の3P-2P変換プラグをご使用ください。  
3P-2P変換プラグのアース線を、コンセントのアース端子に接続してください。

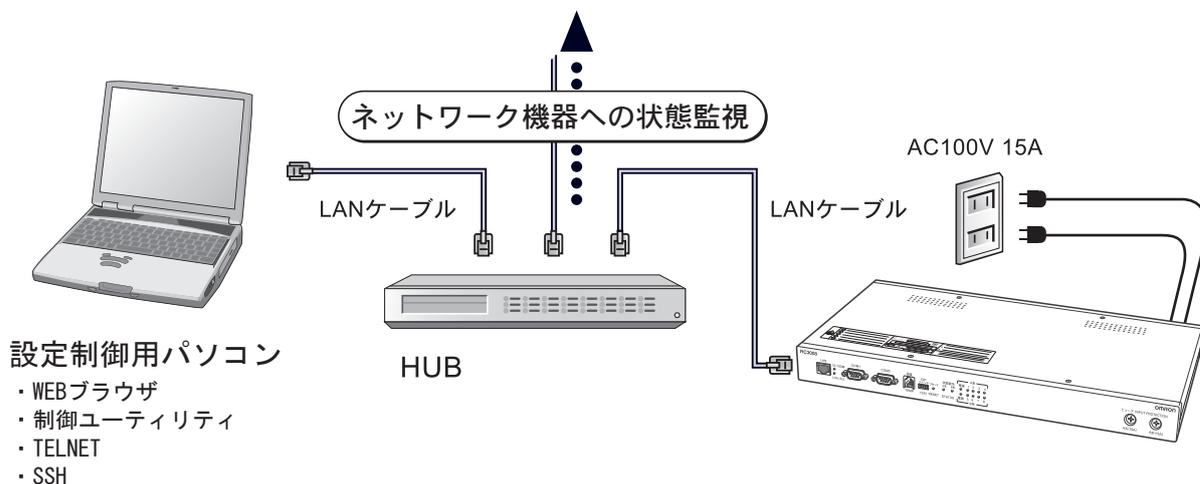
**注 意**

- 各電源プラグはAC100V15A以上の電流容量のあるコンセント（商用電源）に直接差し込んでください。
- ほこりが多い場所、水などがかかりやすい場所には設置しないでください。詳細はP2～P4「安全にご使用いただくために」の項をご参照ください。

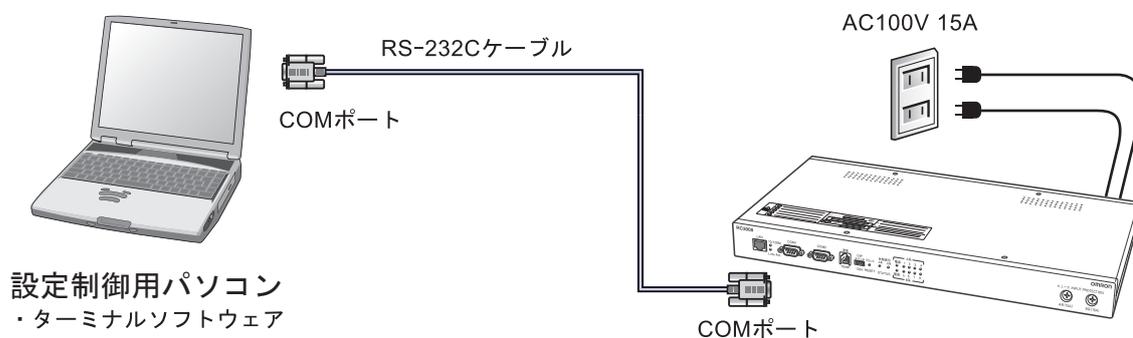
## 2-3 接続方法

本体とパソコンの接続方法は、●LANポート接続 ●COMポート接続があります。

### LANポートとの接続



### COMポートとの接続



#### 注意

- 接続方法によって、利用できる設定・制御方法が異なります。詳細については第3章「設定制御方法」をご参照ください。
- 設定時、通信内容のセキュリティ確保はSSH通信をご利用ください。

取扱説明書 詳細版

第3章

設定制御方法

本機は100BASE-TX LANケーブルまたはRS-232Cケーブルを介してパソコンと接続することによって、8個のAC100V電源を個別に設定制御する事が可能です。

設定制御には以下のようなソフトウェアが利用できます。

●WEBブラウザ（第5章「WEBブラウザによる設定制御」をご参照ください）

お手持ちのパソコンにインストールされているWEBブラウザを用いて、簡単に本体の設定制御ができます。

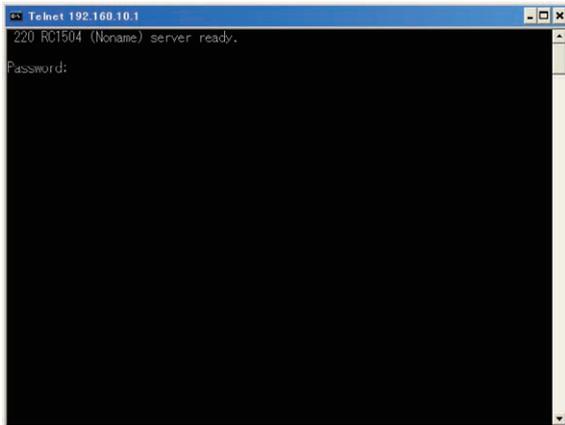
WEBブラウザはJavaScriptとフレームに対応したものがが必要です。

設定制御用パソコンと本体は市販のLANケーブルで接続します。



**●TELNET** （第7章「TELNETによる設定制御」をご参照ください）

TELNETクライアントソフトウェアを用いて、本体の設定制御ができます。  
WEBブラウザ、制御ユーティリティと比較して、より詳細な設定制御ができます。  
設定制御用パソコンと本体は市販のLANケーブルで接続します。

**●ターミナルソフト**（第8章「ターミナルソフトウェアによる設定制御」をご参照ください）

ターミナルソフトウェアを用いて、本体の設定制御ができます。  
WEBブラウザ、制御ユーティリティと比較して、より詳細な設定制御ができます。  
設定制御用パソコンと本体はRS-232Cケーブルで接続します。



お客様の目的に応じた設定制御手段で本体の設定制御をおこなってください。

取扱説明書 詳細版

## 第4章

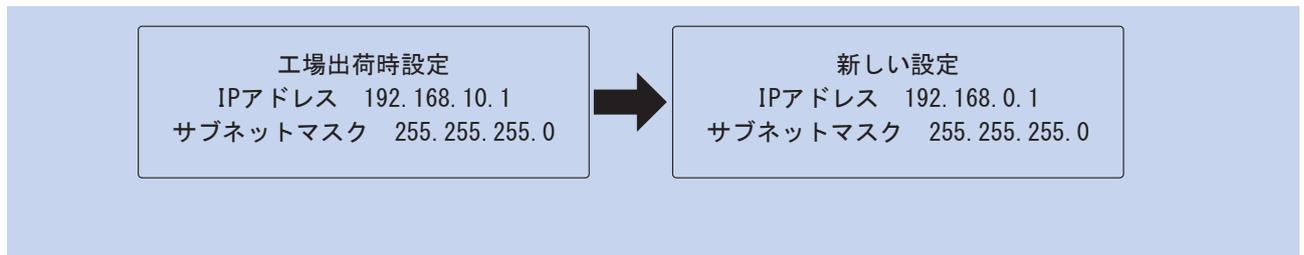
## 本体IPアドレスの設定

本体のIPアドレスとサブネットマスクは、工場出荷状態で、  
IPアドレス 192.168.10.1  
サブネットマスク 255.255.255.0  
に設定されています。  
本体のIPアドレスとサブネットマスクを変更する必要がない  
場合は、本章は読み飛ばしてください。

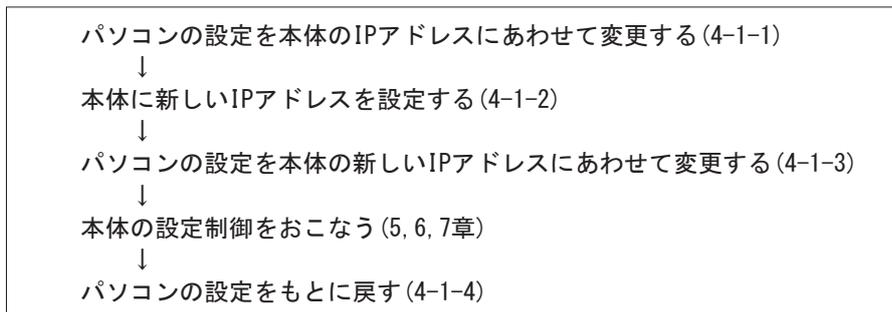
本体をネットワークに接続し、WEBブラウザ、制御ユーティリティ、TELNETを用いて設定制御をしたり、PING監視をおこなうためには、本体のIPアドレスをネットワークに合わせる必要があります。  
 本体のIPアドレスは、100BASE-TXポートを使ったLAN接続と、COMポートを使ったシリアル接続の2つの方法で設定変更可能です。

## 4-1 LAN接続による設定変更

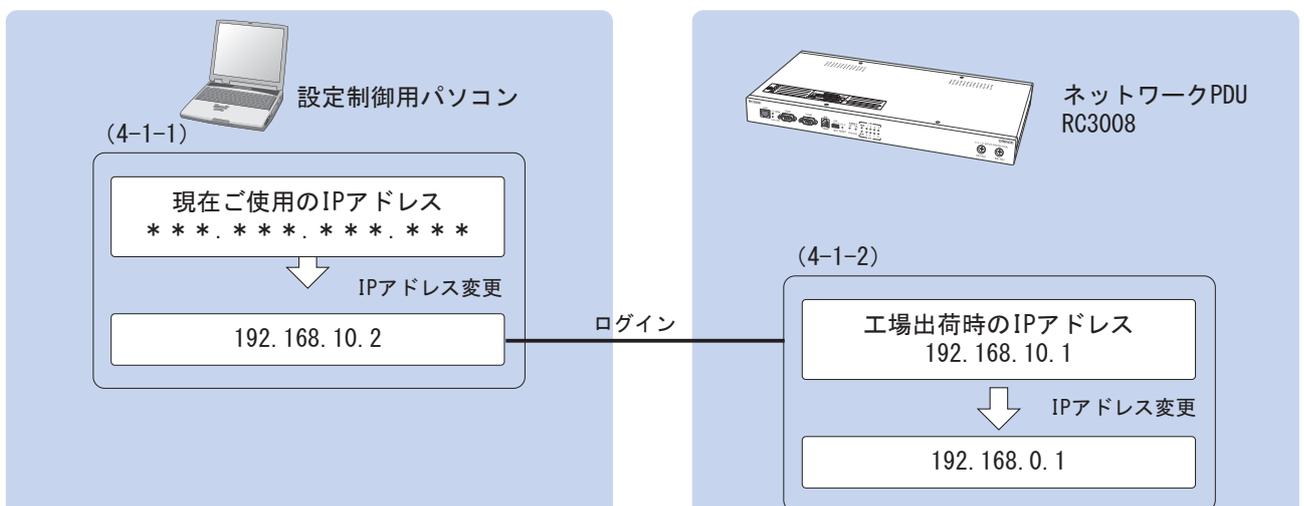
以下にWEBブラウザを用いて、本体のIPアドレスを工場出荷時の設定から新しいIPアドレス192.168.0.1、サブネットマスク255.255.255.0へ設定変更する場合の例を示します。

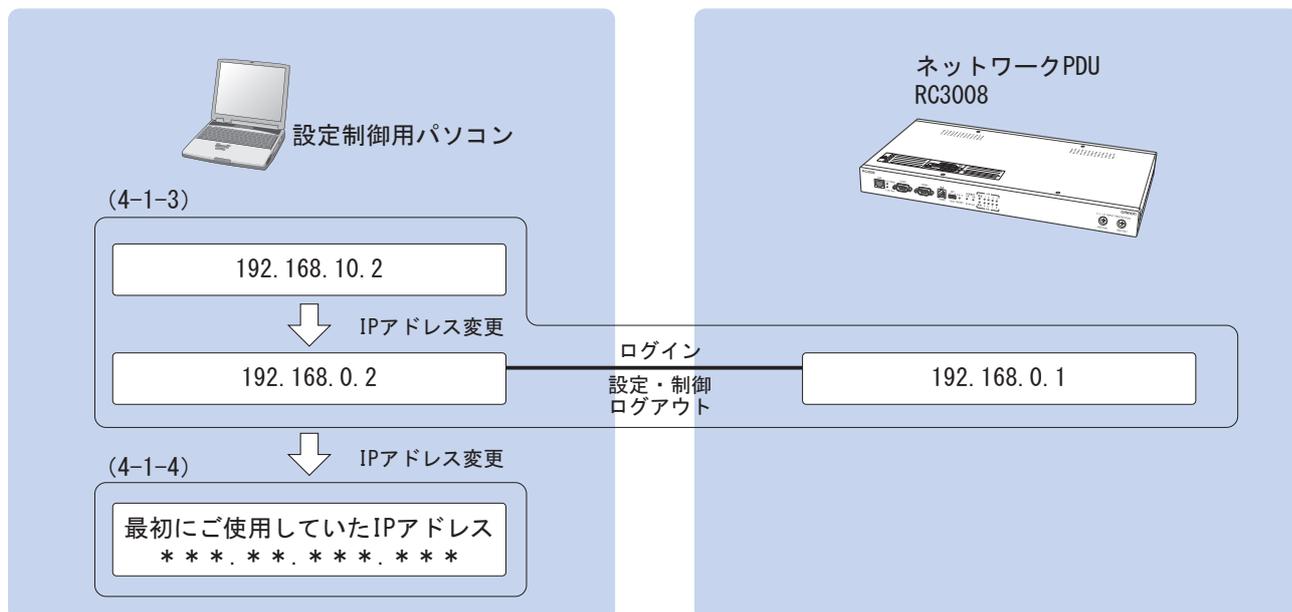


パソコンを使って本体のIPアドレスを変更します。  
 以下のような流れになります。



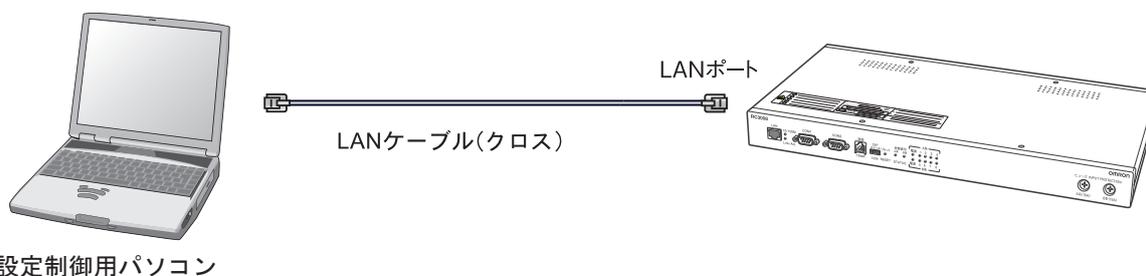
以下に本体IPアドレスを工場出荷時設定から 192.168.0.1、サブネットマスクを255.255.255.0に設定変更する場合を説明します。





#### 4-1-1 設定制御用パソコンの設定を本体のIPアドレスにあわせて変更する

- (1) 本体と設定制御用パソコンをLANケーブル（クロス）で接続します。  
(LANケーブルは本製品には添付されておりません。市販のものをお使いください)



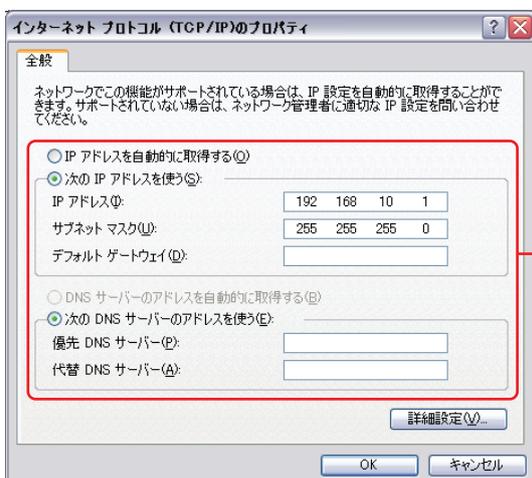
- (2) [スタート] ボタンをクリックして、[接続] → [すべての接続の表示] をクリックします。
- (3) 次に [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択してください。
- (4) コンポーネントの一覧で [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていることを確認してください。



(5) [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択した後、[プロパティ] をクリックしてください。



(6) 設定制御用パソコンのインターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティを控えておいてください。

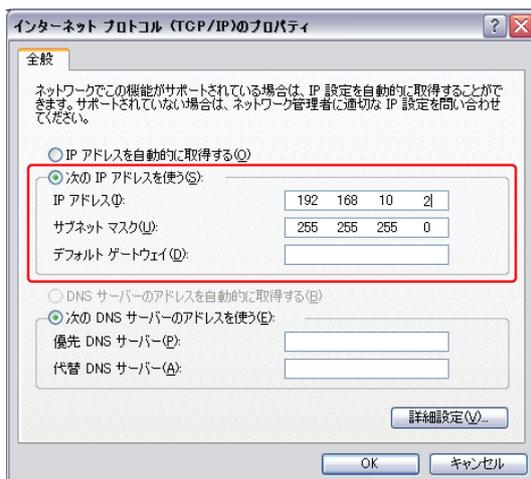


この内容を控えておいてください。

- (7) [次のIPアドレスを使う] をチェックしてください。IPアドレス欄、サブネットマスク欄を以下の通りに設定して [OK] をクリックします。

IPアドレス : 192. 168. 10. 2

サブネットマスク : 255. 255. 255. 0

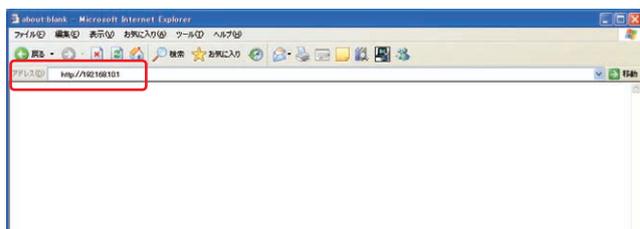


- (8) 設定後、OKをクリックしてローカルエリア接続のプロパティを閉じます。

### 4-1-2 本体に新しいIPアドレスを設定する

- (1) WEBブラウザを起動します。アドレス欄に本体の工場出荷時IPアドレス192.168.10.1を入力し [リターン] キーを押します。

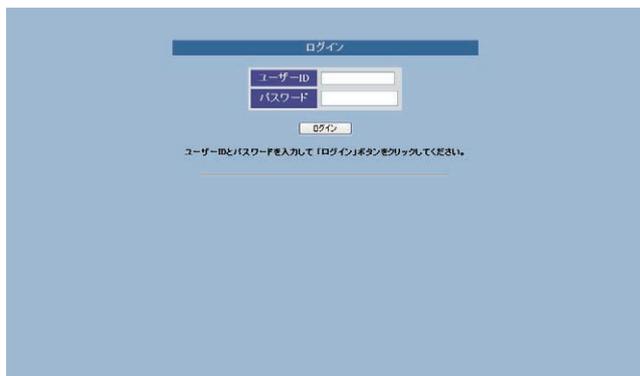
http://192.168.10.1



- (2) ログイン画面でユーザIDとパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

ユーザID : admin (工場出荷時設定)

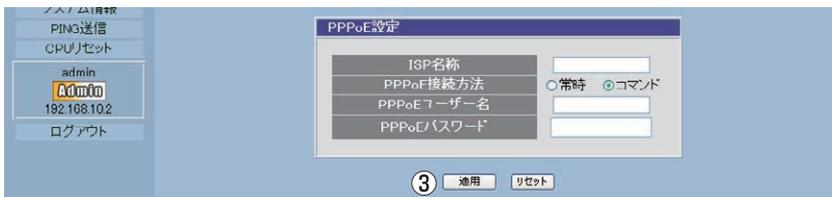
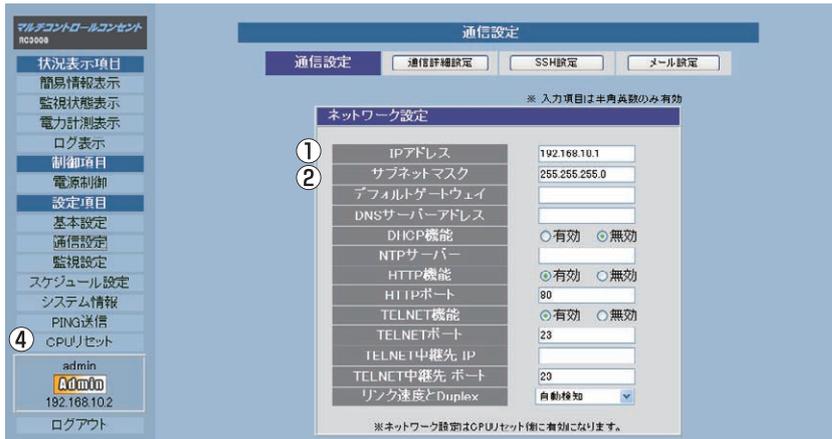
パスワード : magic (工場出荷時設定)



- (3) ログインに成功すると簡易状態表示画面が表示されます。画面左にあるメニューリストの [通信設定] ボタンをクリックしてください。



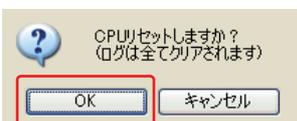
- (4) 本体のIPアドレスを新しいIPアドレスに変更します。
- ① IPアドレス欄に、新しいIPアドレス192.168.0.1 を入力します。
  - ② サブネットマスク欄に、255.255.255.0 を入力します。
  - ③ [適用ボタン] をクリックします。
- ※ネットワーク設定は [CPUリセット] 後に有効となります。
- ④ 画面左にあるメニューリストの [CPUリセット] ボタンをクリックします。



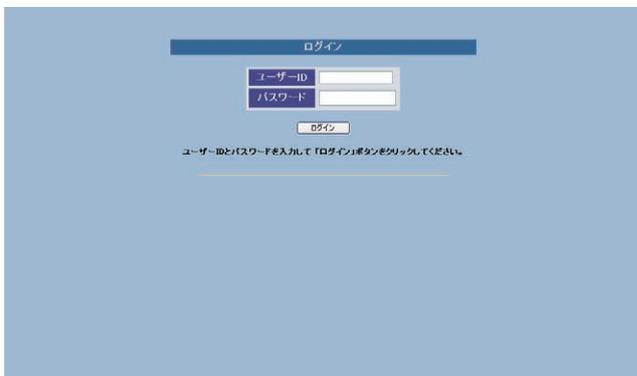
- (5) [CPUリセット] ボタンをクリックします。



- (6) 下記の確認画面が表示されますので、[OK] ボタンをクリックします。



- (7) 本体の新しいIPアドレス192.168.0.1が有効になり、設定制御用パソコンとの接続が切断されログイン画面に戻ります。



#### 4-1-3 設定制御用パソコンの設定を本体の新しいIPアドレスにあわせて変更する

- (1) [スタート] ボタンをクリックして、[接続] → [すべての接続の表示] をクリックします。
- (2) 次に [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択してください。
- (3) [全般] タブをクリックし、コンポーネントの一覧で [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていることを確認してください。



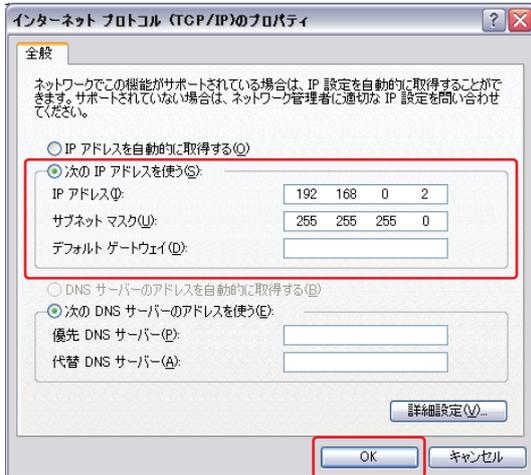
- (4) [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択した後、[プロパティ] をクリックしてください。



- (5) [次のIPアドレスを使う] を選択し、IPアドレス欄、サブネットマスク欄を以下のに設定して [OK] ボタンをクリックします。

IPアドレス : 192.168.0.2

サブネットマスク : 255.255.255.0



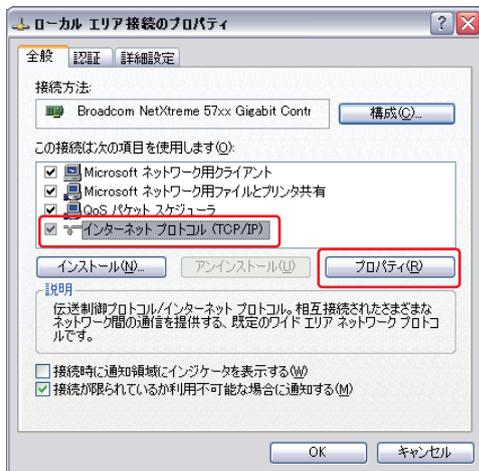
- (6) WEBブラウザ（第5章）、制御ユーティリティ（第6章）、TELNET（第7章）により本体の設定制御をおこないます。

#### 4-1-4 設定制御用パソコンのIPアドレス設定を元に戻す

- (1) [スタート] ボタンをクリックして、[接続] → [すべての接続の表示] をクリックします。
- (2) 次に [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択してください。
- (3) [全般] タブをクリックし、コンポーネントの一覧で [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていることを確認してください。



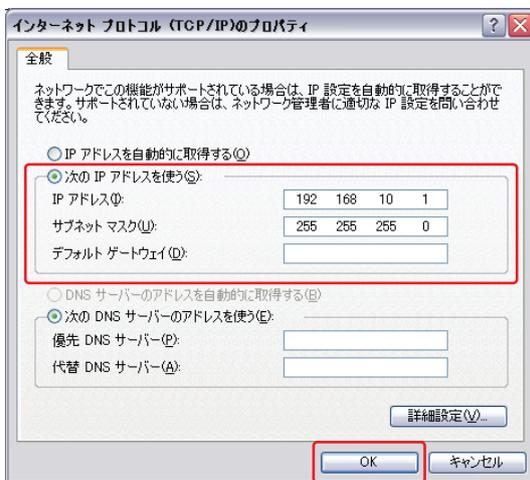
- (4) [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択した後、[プロパティ] をクリックしてください。



- (5) [次のIPアドレスを使う] をチェックしてください。IPアドレス欄、サブネットマスク欄を4-1-1 (6) で控えをとった設定に戻して [OK] をクリックします。

IPアドレス : 192.168.10.1

サブネットマスク : 255.255.255.0



- (6) 設定後、OKをクリックしてローカルエリア接続のプロパティを閉じます。

## 注意

●本体に設定したIPアドレスを忘れると、WEBブラウザ、TELNETを用いて接続できなくなります。この場合は、第8章「ターミナルソフトによる設定制御」で本体IPアドレスを確認もしくは設定し直すか、第12章「困ったときには？」の「工場出荷状態へ戻す」で本体IPアドレスを工場出荷状態へ戻します。工場出荷状態へ戻した場合には、IPアドレス以外の設定も全て工場出荷時の初期値（付録1）となります。

## 4-2 COMポートを使ったシリアル接続による設定変更

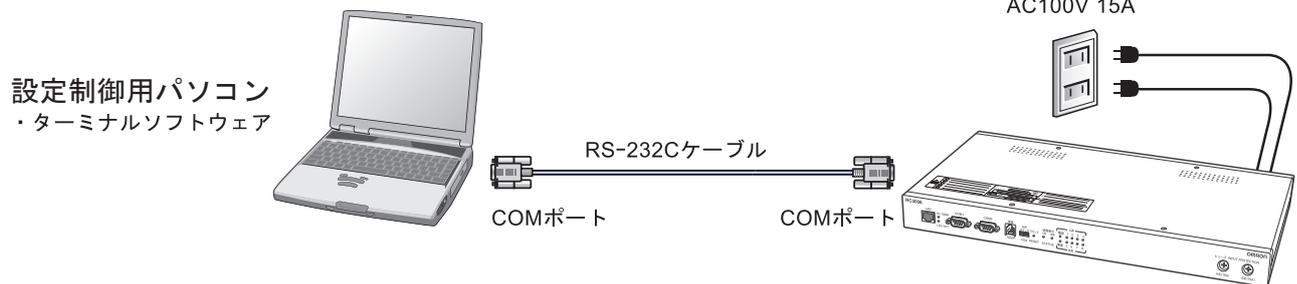
本体には工場出荷時に以下のIPアドレスが設定されています。

IPアドレス 192.168.10.1  
サブネットマスク 255.255.255.0

以下にハイパーターミナルを用いて192.168.0.1、サブネットマスクを255.255.255.0で設定する場合を説明します。

### 4-2-1 ハイパーターミナルの起動～接続

(1) 本体と設定用パソコンをシリアル接続ケーブルで接続します。



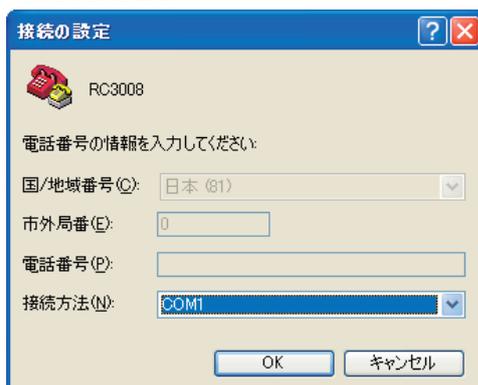
- (2) 「スタート」をクリックして、「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をダブルクリックします。
- (3) 「接続の設定」画面が表示されるので、「名前」に任意の名称を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

接続の設定画面1



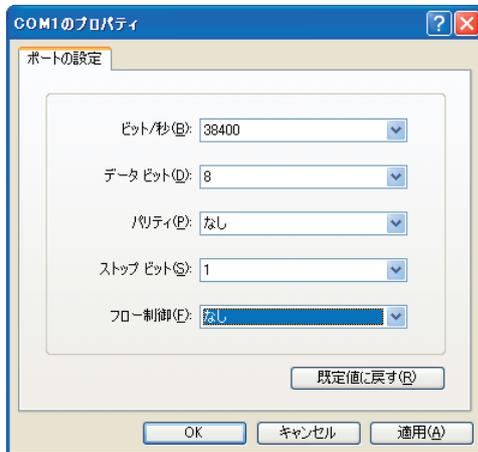
- (4) 「接続方法」に、シリアル接続ケーブルをつないだCOMポート名を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

接続の設定画面2



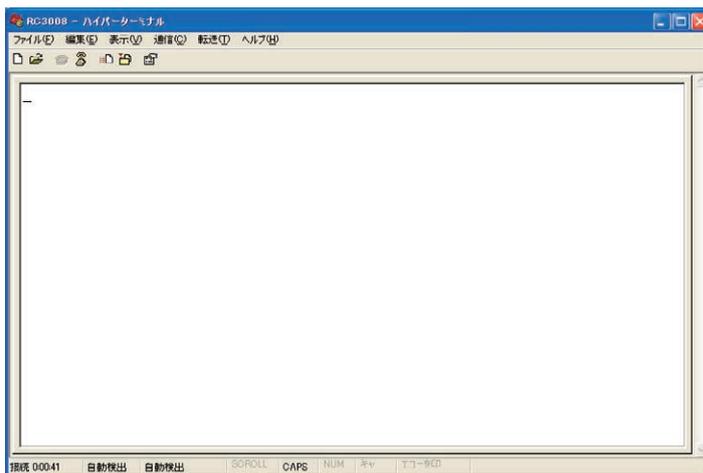
(5) 「COMポートのプロパティ」画面が表示されます。下記のように設定してください。

COMポートのプロパティ画面



① ビット/秒	38400
② データビット	8
③ パリティ	なし
④ ストップビット	1
⑤ フロー制御	なし

(6) 設定後、[OK] ボタンをクリックすると下記の画面が表示され、本体に接続されます。



## 4-2-2 ハイパーターミナルを使った本体IPアドレス設定

- ①ターミナル画面上で、以下のように入力します。

```
. ipAdEntAddr=192.168.0.1
```

[Enter] キーを押して、本体のIPアドレスを設定します。

- ②ターミナル画面上で、以下のように入力します。

```
. ipAdEntNetMask=255.255.255.0
```

[Enter] キーを押して、本体のサブネットマスクを設定します。

(実際の設定時には、本体を設置するネットワークに適したサブネットマスクを設定してください。)

- ③設定を本体に保存するためにターミナル画面上で、以下のように入力します。

```
write
```

[Enter] キーを押して、設定を本体に保存します。

- ④CPUリセットにより、設定を本体に反映させます。

ターミナル画面上で、以下のように入力します。

```
cpureset
```

[Enter] キーを押します。本体のCPUがリセットされ、設定を本体に反映させます。

- ⑤ターミナル画面上で以下のように入力し、IPアドレスが変更されていることを確認します。

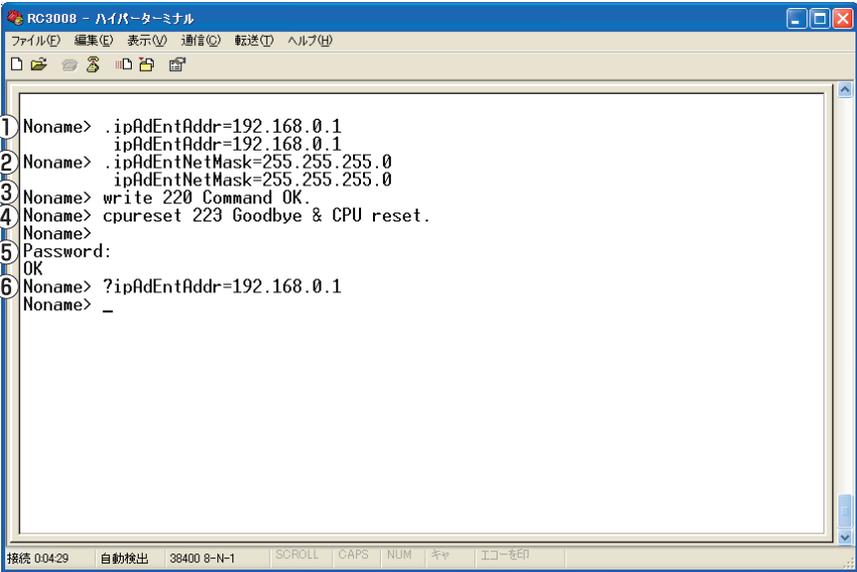
```
?ipAdEntAddr
```

[Enter] キーを押します。

- ⑥パスワードを入力します。

[Enter]キーを押すと、パスワードの入力を要求されますのでパスワードを入力し[Enter]を押します。

パスワード: magic (工場出荷時設定)



```
RG3008 - ハイパーターミナル
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 通信(C) 転送(T) ヘルプ(H)
[Icons]
① Noname> . ipAdEntAddr=192.168.0.1
   ipAdEntAddr=192.168.0.1
② Noname> . ipAdEntNetMask=255.255.255.0
   ipAdEntNetMask=255.255.255.0
③ Noname> write 220 Command OK.
④ Noname> cpureset 223 Goodbye & CPU reset.
   Noname>
⑤ Password:
   OK
⑥ Noname> ?ipAdEntAddr=192.168.0.1
   Noname> _
接続 00429 自動検出 38400 8-N-1 | SCROLL | CAPS | NUM | キャ | エコーを印
```

取扱説明書 詳細版

## 第5章

## WEBブラウザによる設定制御

## 5-1 設定制御用パソコンのネットワークを設定する

本体のIPアドレスにあわせて設定制御に使用するパソコンの設定を変更します。

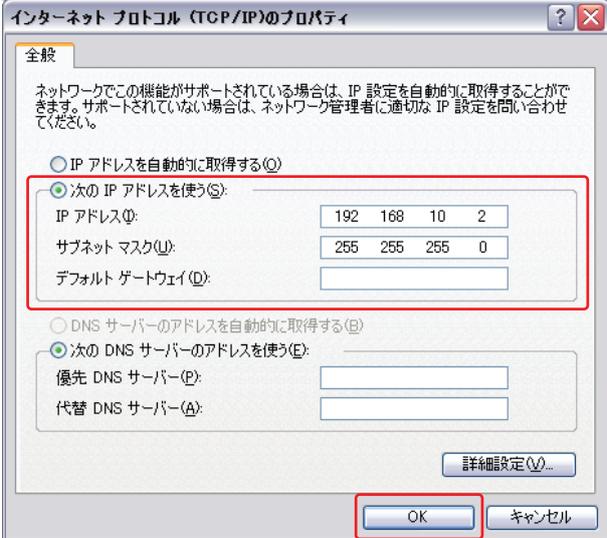
次回からは、5-2「ログイン」から操作してください。

本例では、本体のIPアドレスが192.168.10.1、サブネットマスクを255.255.255.0に設定されているものとします。

(4章で本体のIPアドレスを変更した場合は、変更されたIPアドレスに読み替えてください)

### ●Windows XPでの設定

1	<p>[スタート] ボタンをクリックして、[接続] → [すべての接続の表示] をクリックします。</p>
2	<p>次に [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択してください。</p> <div data-bbox="389 792 1449 943" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p><b>注 意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [ローカルエリア接続] がない場合は、LANカード (アダプタ) がインストールされていません。LANカード (アダプタ) をインストールしてから、この操作をおこなってください。</li> </ul> </div>
3	<p>[全般] タブをクリックし、コンポーネントの一覧で [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていることを確認してください。</p> <div data-bbox="389 1106 1449 1317" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p><b>注 意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていない場合は、チェックしてください。</li> <li>● [インターネットプロトコル (TCP/IP)] が表示されていない場合は、[インストール] をクリックしてTCP/IPをインストールしてください。</li> </ul> </div> <div data-bbox="389 1375 938 1912" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> </div>

<p>4</p>	<p>[インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択した後、[プロパティ] をクリックしてください。</p> 
<p>5</p>	<p>設定制御に使用するパソコンの設定を後からもとに戻す必要がある場合は、パソコンもとの設定を控えておいてください。パソコンの設定をもとに戻す手順は4-1-4「パソコンの設定を元に戻す」を参考にしてください。</p>
<p>6</p>	<p>[次のIPアドレスを使う] をチェックしてください。IPアドレス欄、サブネットマスク欄を以下の通りに設定して [OK] をクリックします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>IPアドレス : 192. 168. 10. 2              ネットマスク : 255. 255. 255. 0</p> </div> 
<p>7</p>	<p>設定後、OKをクリックしてローカルエリア接続のプロパティを閉じます。</p>

## 5-2 ログイン

インターネット経由でアクセスする場合は、通信機器の設定が必要です。

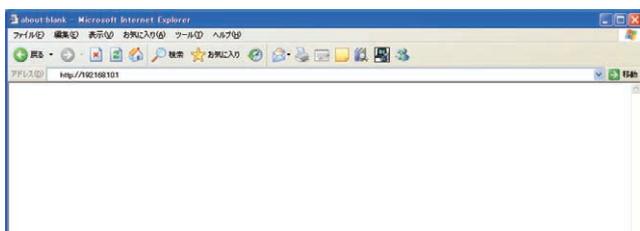
通信機器の設定などは通信機器のマニュアルに従ってください。（ご利用の環境のルータ、ファイアウォール等の設定によっては、通信に制限をおこなっている場合があります。事前にネットワーク管理者に確認してください。）

※使用するブラウザは、JavaScriptとフレームに対応したものでなければなりません。

- (1) WEBブラウザを起動します。アドレス欄に本機のIPアドレスを入力し、アクセスします。

(例 IPアドレス : 192.168.10.1)

HTTPポート番号を「80」（工場出荷時設定）に設定した場合  
http://192.168.10.1

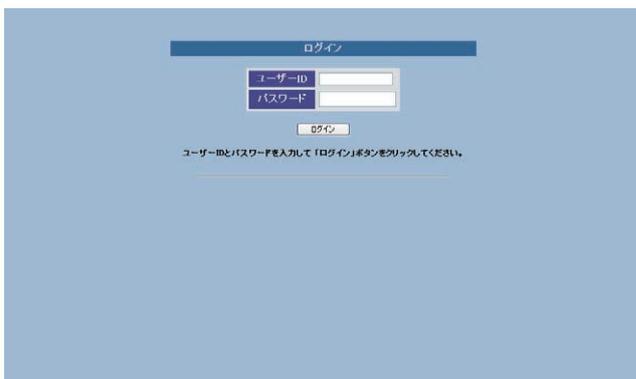


HTTPポート番号を「500」に設定した場合  
http://192.168.10.1:500



※HTTPポート番号の設定方法につきましては 5-5-3「通信設定」をご参照ください。

### ログイン画面



- (2) ログイン画面でユーザIDとパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

ユーザID : admin (工場出荷時設定)

パスワード : magic (工場出荷時設定)

5-5-2 セキュリティ設定でユーザID/パスワードの追加・変更をおこなった場合は、追加変更したユーザID、パスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックしてください。

## 5-3 状況表示項目

### 5-3-1 簡易情報表示

(1) 最初にログインした時、表示される画面です。他の画面からは、画面左にあるメニューリストの「簡易情報表示」をクリックして表示させます。

簡易状態表示画面



(2) 画面右上の「更新」ボタンをクリックすると、最新状態に更新されます。

	項目	内容	工場出荷時設定
①	No.	コンセント番号	
②	コンセント名称	コンセント名称を表示	
③	状態	現在の電源状態を表示	
④	機器名称	機器名称を表示	
⑤	レギュレータ	各レギュレータの状態を表示	
⑥	ユーザーID	接続しているユーザのユーザIDを表示	
⑦	ユーザー権限	接続しているユーザのユーザ権限 (Admin/Control/Ident) を表示	
⑧	IPアドレス	接続しているユーザのIPアドレスを表示	
⑨	温度状態	温度センサの利用を有効にしている場合、温度状態と測定温度を表示 温度センサの利用を有効にしている場合、「未設定」と表示	
⑩	更新	最新の情報を表示	

### 注意

- 「簡易情報表示画面」は現在の本装置の状態を表示する画面で、設定を変更したり実際に制御する操作はできません。

### 5-3-2 監視状態表示

(1) 画面左にあるメニューリストの「監視状態表示」をクリックしてください。

監視状態表示画面



(2) 画面右上の「更新」ボタンをクリックすると、最新状態に更新されます。

	項目	内容	工場出荷設定時
①	No.	コンセント番号	
②	電源	各コンセントの電力供給の状態を表示	
③	死活判定 温度判定	ping監視時：監視対象機器の状態判定結果を表示（正常/異常） 温度監視時：設定温度に基づく判断結果を表示（正常/実行中）	
④	実効数 現在温度	ping監視時：動作の実効数を表示 温度監視時：現在温度を表示	
⑤	送信数 動作設定	ping監視時：判定対象とする直近pingの回数を表示 温度監視時：動作設定を表示	
⑥	無応答 警報温度	ping監視時：直近ping送信数内で異常と判断する無応答数 温度監視時：警報温度を表示	

	項目	内容	工場出荷設定時
⑦	対象数 注意温度	ping監視時：最大4つの監視対象の中から、同時にいくつの監視対象から応答がなければ、無答とカウントするかの監視対象の数 温度監視時：注意温度を表示	
⑧	動作 Hys温度	ping監視時：異常と判定された場合の動作内容を表示 温度監視時：Hys温度を表示	
⑨	No.	コンセント番号	
⑩	状態	監視対象機器の状態を表示	
⑪	無応答数	ping無応答回数結果を表示	
⑫	No.	コンセント番号	
⑬	応答時間	ping応答時間を表示	
⑭	POPサーバ 接続障害回数	POPサーバとの接続障害回数を表示	
⑮	更新	最新の状態を表示	

### 5-3-3 電力計測表示

(1) 画面左にあるメニューリストの「電力計測表示」をクリックしてください。

電力計測表示

No.	電源	状態	電流 (A)	制御状態	警報値 (A)	注意値 (A)	Hys値 (A)	動作
1	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
2	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
3	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
4	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
5	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
6	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
7	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作
8	電源	正常	0.0	通常動作中	15	12	2	無動作

No.	電圧 (V)	有功電力 (W)	无功電力 (VA)	有功電力量 (kWh)	无功電力量 (kVAh)	CO2排出量 (kg)	力率
1	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.000
2	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.000
3	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	1.000
4	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	1.000
5	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	1.000
6	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	1.000
7	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	1.000
8	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	1.000

No.	コンセント名称	開始時間	終了時間	測定 DATA
1	Outlet1			CLR
2	Outlet2			CLR
3	Outlet3			CLR
4	Outlet4			CLR
5	Outlet5			CLR
6	Outlet6			CLR
7	Outlet7			CLR
8	Outlet8			CLR

A系統全体情報		
供給状態	正常	
電圧 (V)	0.0	
周波数 (Hz)	50	
CO2排出係数 (kg-CO2/kWh)	0.425	
電流状態	正常	
合計電流 (A)	0.0	
警報電流 (A)	15	
注意電流 (A)	12	
Hys値 (A)	2	

B系統全体情報		
供給状態	正常	
電圧 (V)	0.0	
周波数 (Hz)	50	
CO2排出係数 (kg-CO2/kWh)	0.425	
電流状態	正常	
合計電流 (A)	0.0	
警報電流 (A)	15	
注意電流 (A)	12	
Hys値 (A)	2	

	項目	内容	工場出荷設定時
①	No.	コンセント番号	
②	電源	各コンセントの電力供給の状態を表示	
③	状態	各コンセントの状態判定結果を表示（正常/異常/警報）	
④	電流	各コンセントの電流値を表示	
⑤	制御状態	各コンセントの制御状態を表示（通常動作中/制御中）	
⑥	警報値	警報値を表示	
⑦	注意値	注意値を表示	
⑧	Hys値	Hysを表示	
⑨	動作	警報と判定された場合の動作内容を表示	
⑩	No.	コンセント番号	
⑪	電流値 (A)	各コンセントの電流値を表示	
⑫	有効電力 (W)	各コンセントの有効電力を表示	
⑬	皮相電力 (VA)	各コンセントの皮相電力を表示	
⑭	有効電力量 (kWh)	各コンセントの有効電力量を表示	
⑮	皮相電力量 (kVAh)	各コンセントの皮相電力量を表示	
⑯	CO2排出量 (kg)	各コンセントのCO2排出量を表示	
⑰	力率	各コンセントの力率を表示	
⑱	No.	コンセント番号	
⑲	コンセント名称	コンセント名称を表示	
⑳	開始時間	電力測定開始時刻を表示	
㉑	経過時間	電力測定経過時間を表示	
㉒	CLR	経過時間をリセットします	
㉓	供給状態	各系統ごとの状態判定結果を表示（正常/異常/警報）	
㉔	電圧値 (V)	各系統ごとの電圧値を表示	
㉕	周波数 (Hz)	各系統ごとの周波数を表示	
㉖	“CO2排出係数 (kg-CO2/kWh)”	各系統ごとのCO2排出係数を表示	
㉗	電流状態	各系統ごとの電流状態を表示（正常/異常/警報）	
㉘	合計電流 (A)	各系統ごとの合計電流を表示	
㉙	警報電流 (A)	警報電流を表示	
㉚	注意電流 (A)	注意電流を表示	
㉛	Hys値 (A)	Hys値を表示	
㉜	戻る	前画面に戻る	
㉝	更新	最新の情報を表示	

### 5-3-4 ログ表示

(1) 画面左にあるメニューリストの「イベントログ表示」をクリックしてください。

ログ表示画面



(2) 画面右上の「更新」ボタンをクリックすると、最新状態に更新されます。

	項目	内容	工場出荷時設定
①	No.	イベントログの連番号を表示	
②	日時	NTPサーバ接続時：時刻情報を表示 yyyy/mm/dd hh:mm:ss NTPサーバ未接続時：記録開始からの経過（秒）を表示	
③	内容	イベント内容を表示	
④	情報	対象のIPアドレスやコンセント番号、変数名などを表示	
⑤	接続者	接続者のユーザIDを表示	
⑥	前ページ	表示されている前のページを表示	
⑦	次ページ	表示されている次のページを表示	
⑧	先頭ページ	先頭のページを表示	
⑨	最終ページ	最終のページを表示	
⑩	全ログクリア	すべてのログを消去	
⑪	更新	最新の情報を表示	

#### 注意

- イベントログの1ページは100項目です。最大で10ページ、1,000項目の表示ができます。
- イベントログ内容についての詳細は付録2「ログ変数一覧表」を参照ください。

(3) 画面左にあるメニューリストの「イベントログ表示」をクリックし右上にある「データログ」をクリックして下さい。

データログ表示画面



	項目	内容	工場出荷時設定
①	No.	データログの連番号を表示	
②	日時	NTPサーバ接続時：時刻情報を表示 yyyy/mm/dd hh:mm:ss NTPサーバ未接続時：記録開始からの経過（秒）を表示	
③	内容	電力状態の項目を表示	
④	情報	各系統、各コンセントの項目に対応する値を表示	
⑤	情報 2	経過時間を表示	
⑥	前ページ	表示されている前のページを表示	
⑦	次ページ	表示されている次のページを表示	
⑧	先頭ページ	先頭のページを表示	
⑨	最終ページ	最終のページを表示	
⑩	全ログクリア	すべてのログを消去	

**注 意**

- イベントログの1ページは100項目です。最大で10ページ、1,000項目の表示ができます。
- イベントログ内容についての詳細は付録2「ログ変数一覧表」を参照ください。

## 5-4 制御項目

### 5-4-1 電源制御

本体コンセント1～8に接続された各機器の電源を制御します。

- (1) 画面左にあるメニューリストの「電源制御」をクリックしてください。



- (2) 画面右上の「更新」ボタンをクリックすると、最新状態に更新されます。

項目	内容	工場出荷時設定
① No.	コンセント番号	
② コンセント名称	コンセント名称を表示	
③ 電源制御	各コンセントを制御 電源ON 指定コンセントの電源を供給 電源OFF 指定コンセントの電源を停止 リポート 指定コンセントの電源をリポート（再起動）	
④ 状態	現在の電源状態を表示	
⑤ 機器名称	機器名称を表示	
⑥ 更新	最新の情報を表示	

#### 注意

- 設定を変更する場合は、必ず「更新」ボタンをクリックして最新状態を確認してからおこなってください。
- 全コンセントをONにしたとき、個々のコンセントはデフォルトで1秒間隔でONになります。
- リポート時のOFF時間はデフォルトで10秒です。
- 電源制御の時間設定とOFF禁止設定などは、基本設定画面にて設定することができます。詳細は「5-5-1 基本設定」を参照ください。

### 5-4-2 仮想コンセント制御

仮想コンセント1～8に設定された各機器の電源を制御します。

(1) 画面左にあるメニューリストの「電源制御」をクリックし画面右上の「仮想コンセント制御」をクリックしてください。

仮想コンセント制御画面



#### 仮想コンセント

仮想コンセントとは、実際には存在しないコンセントであり、関連付けされたMACアドレスへマジックパケットを送出して、WakeOnLAN機能を実現させるためのものです。

(2) 画面右上の「更新」ボタンをクリックすると、最新状態に更新されます。

項目	内容
① No.	コンセント番号
② 仮想コンセント名称	仮想コンセント名称を表示
③ 電源制御	電源ON 指定仮想コンセントへマジックパケットを送信
④ 全仮想コンセント	電源ON 全仮想コンセントへマジックパケットを送信
⑤ 機器名称	機器名称を表示
⑥ 更新	最新の情報を表示

## 5-5 設定項目

### 5-5-1 基本設定

時間設定／ブザー音／機器設定

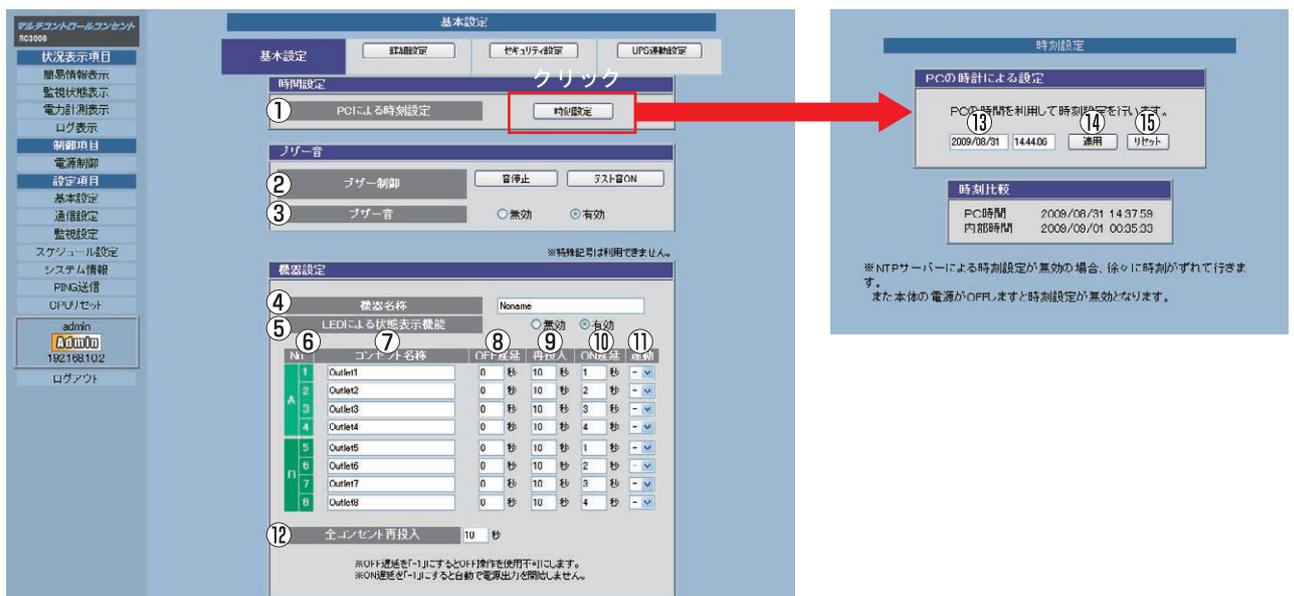
本装置の本体名称や、コンセントの名称を設定します。

コンセントのOFF、ONの可否設定、OFF、ON、リポートさせる際の遅延時間の設定などもおこなえます。

各項目を設定した後、「適用ボタン」をクリックしないと有効になりません。

- (1) 画面左にあるメニューリストの「基本設定」をクリックしてください。

基本設定画面



項目	内容	工場出荷時設定	
①	PCによる時刻設定	本体の時刻を接続しているパソコンの時刻に設定	
②	ブザー制御	テスト音ON ブザー音鳴る。 音停止 ブザー音の停止	
③	ブザー音	ブザー音の有効無効を選択	
④	機器名称	本体名称を設定 半角英数字19文字以内（任意）	Noname
⑤	LEDによる状態表示機能	各コンセント状態をLEDで表示	有効
⑥	No.	コンセント番号	
⑦	コンセント名称	コンセント名称を表示 半角英数字20文字以内（任意）	コンセント1 : Outlet1 コンセント2 : Outlet2 コンセント3 : Outlet3 コンセント4 : Outlet4 コンセント5 : Outlet5 コンセント6 : Outlet6 コンセント7 : Outlet7 コンセント8 : Outlet8

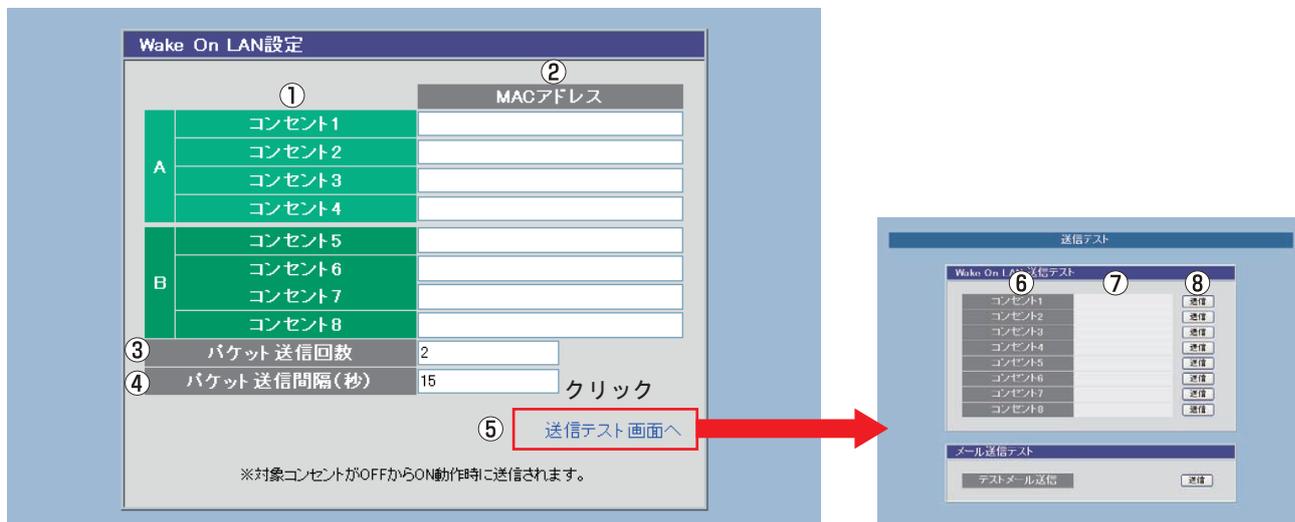
⑧	OFF遅延	<p>個々のコンセントの電源を停止する際、停止するまでの遅延時間を設定。この時間設定が適用されるのは以下の場合です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のコンセントをOFFにする</li> <li>・全コンセントをOFFにする</li> </ul> <p>設定可能値=-1~3600 (秒)</p> <p>-1 : コンセントをOFFにできないようにするが、再投入は可能 0 : 即座に電源を停止 1~3600 : 設定秒数後に電源を停止</p>	<p>コンセント1 : 0 コンセント2 : 0 コンセント3 : 0 コンセント4 : 0 コンセント5 : 0 コンセント6 : 0 コンセント7 : 0 コンセント8 : 0</p>
⑨	再投入	<p>個々のコンセントの電源をリポートする時間を設定 この時間設定が適用されるのは以下の場合です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のコンセントを再投入する</li> </ul> <p>設定可能値 = 8~3600 (秒)</p>	<p>コンセント1 : 10 コンセント2 : 10 コンセント3 : 10 コンセント4 : 10 コンセント5 : 10 コンセント6 : 10 コンセント7 : 10 コンセント8 : 10</p>
⑩	ON遅延	<p>個々のコンセントの電源を投入する際、開始するまでの遅延時間を設定。この時間設定が適用されるのは以下の場合です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本体電源投入時</li> <li>・全コンセントをONにする</li> <li>・全コンセントの再投入</li> </ul> <p>設定可能値=-1~3600 (秒)</p> <p>-1 : コンセントをONにできないようにする 0 : 即座に電源を投入 1~3600 : 設定秒数後に電源を投入</p>	<p>コンセント1 : 1 コンセント2 : 2 コンセント3 : 3 コンセント4 : 4 コンセント5 : 1 コンセント6 : 2 コンセント7 : 3 コンセント8 : 4</p>
⑪	連動	連動するコンセント番号を選択	
⑫	全コンセント再投入	<p>全コンセントの電源をリポートする時間を設定 この時間設定が適用されるのは以下の場合です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全コンセントを再投入する</li> </ul> <p>設定可能値 = 8~3600 (秒)</p>	全コンセント : 10
⑬		画面を表示しているパソコンに設定されている日付・時刻を表示	
⑭	適用	パソコンの日付・時刻を本体に設定	
⑮	リセット	設定クリア (キャンセル)	

### 注 意

- ルータやハブなどの通信機器の場合、電源を停止するとネットワークへアクセスできなくなることがあるため、電源が停止したままにならないようにしたい場合はOFF遅延の項目は「-1」に設定してください。
- 各項目を設定した後「適用」ボタンをクリックしないと、有効になりません。

### Wake On LAN設定

WakeOnLAN パケットを送信する宛先MAC アドレスを登録します。対象コンセントがOFFからON動作時にクライアントPC を再起動する場合に使用します。



	項目	内容	工場出荷設定時
①	コンセント	コンセント番号	
②	MACアドレス	宛先MACアドレスを入力	
③	パケット送信回数	パケット送信回数を入力	2
④	パケット送信間隔 (秒)	パケット送信間隔を入力	15
⑤	送信テスト画面へ	送信テスト画面を表示	
⑥	コンセント	コンセント番号	
⑦		対象MACアドレスを表示	
⑧	送信	WakeOnLANパケットを送信	

### 電力測定設定

測定する電力の周波数を選択します。

### データログ設定

データログの記録間隔を設定します。

### 温度センサー設定

温度センサーの基本設定を行います。

項目	内容	工場出荷時設定
① 周波数	電力測定時の周波数を選択（自動判定/50Hz/60Hz）	自動判定
② 記録間隔	ログ間隔（分）を設定	1
③ 温度センサー	温度センサー利用の有効/無効を設定。 有効時、温度センサーを利用して温度を測定・表示	無効
④ 温度記録	温度記録の有効/無効を設定	無効
⑤ 記録間隔	温度記録の間隔（秒）を設定	10
⑥ 適用	設定を保存	
⑦ リセット	設定クリア（キャンセル）	

### 5-5-2 詳細設定

シャットダウンスクリプトの設定と、仮想アウトレット設定、COMポート設定、連携機能設定を行います。各項目を設定した後、「適用ボタン」をクリックしないと有効になりません。

- (1) 画面左にあるメニューリストの「基本設定」をクリックし画面上部中央の「詳細設定」をクリックして下さい。

仮想コンセント設定画面

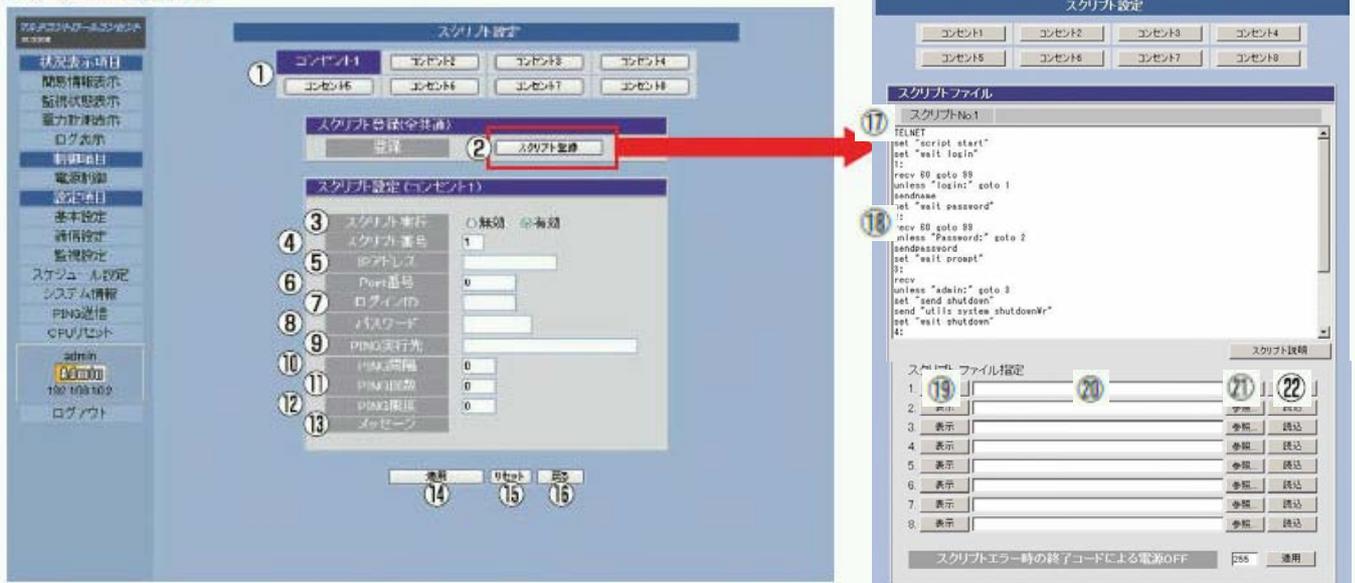
項目	内容	工場出荷時設定
① スクリプト設定	シャットダウンスクリプト設定画面に移動 ※詳細はシャットダウンスクリプトの設定を参照	
② No.	仮想アウトレットNo.	
③ 仮想アウトレット名称	送信先の情報（コンピュータ名など）を設定	
④ MACアドレス	WakeOnLANパケットの送信先MACアドレスを設定	
⑤ ON遅延	リブート時のOff状態を保持する時間を設定	
⑥ パケット送信回数	WakeOnLANパケットの送信回数を設定	
⑦ パケット送信間隔	WakeOnLANパケットの送信間隔を設定	

⑧	COM1通信速度	COM1ポートの通信速度を設定 9600bps、19200bps、38400bps	38400bps
⑨	COM1キャラクター長	COM1ポートのキャラクター長を設定 7bit、8bit	8bit
⑩	COM1ストップビット	COM1ポートのストップビットを設定 1bit、2bit	1bit
⑪	COM1パリティ	COM1ポートのパリティを設定 none、odd、even	none
⑫	動作設定	<p>〃COM2ポートに接続した他のRC3008との動作を選択 (連携無し/連携マスター/連携スレーブ) 二重化電源の両方の電源系統にUPSが利用されている場合を想定。 COM2でつながれた2台のRC3008が互いのUPS状態を共有し互いがシャットダウンを実行する状態になった時にはじめてシャットダウンを実行する機能。(命令やスケジュールなどによる電源制御時には影響しない) 連携マスター側がシャットダウンスクリプトの実行とPING確認を終えオフ遅延に入ったら連携スレーブ側に信号を送信し連携スレーブ側はオフ遅延を開始する。</p>	連携無し
⑬	無応答回数	<p>無応答回数を設定。 他のRC3008との連携時における相手側RC3008の互いの状態を定期的(1秒ごと)に監視し相手側からの無応答回数が設定数を超えた場合、相手側機器をダウンと判断して両方の状態表示STATUS LEDを点滅させブザーを鳴らします。</p>	5
⑭	適用	設定を保存	
⑮	リセット	設定クリア(キャンセル)	

### シャットダウンスクリプト設定

各コンセントがOFF命令を受け、シャットダウン遅延中にネットワーク上の機器に対してシャットダウンスクリプトを送信し機器のシャットダウンを行います。

#### スクリプト設定画面



項目	内容	工場出荷時設定
①	コンセント	設定するコンセントを選択
②	スクリプト登録	
③	スクリプト実効	スクリプト実効の有効/無効を選択
④	スクリプト番号	スクリプト番号を入力
⑤	IPアドレス	スクリプトシャットダウンを実行する機器のIPアドレスを設定
⑥	Port番号	スクリプトシャットダウンを実行するポート番号を設定
⑦	ログインID	ログインIDを設定
⑧	パスワード	パスワードを設定
⑨	PING実行先	PINGによるシャットダウン確認先のIPアドレスまたはドメイン名を設定
⑩	PING間隔	PING送信間隔を設定
⑪	PING回数	PING未応答連続回数を設定
⑫	PING限度	PING送信上限回数を設定
⑬	メッセージ	
⑭	適用	設定を保存
⑮	リセット	設定クリア (キャンセル)
⑯	戻る	詳細設定画面へ戻る
⑰	スクリプトNo.	スクリプトNo. を表示
⑱	スクリプト表示フィールド	スクリプトの内容を表示
⑲	表示	スクリプト表示フィールドにスクリプトの内容を表示
⑳		スクリプトのファイルパスを表示
㉑	参照	スクリプトのファイルパスを選択
㉒		スクリプトファイルを読み込む

### 5-5-3 セキュリティ設定

本体へログインするためのユーザIDとパスワードを設定します。

ユーザIDは本体にログインした後におこなえる内容によって、Admin、Control、Identの3種類に分かれます。

工場出荷時設定では、Admin権限を持つ、“admin”がユーザIDとして登録されています（パスワードは“magic”）。

各項目を設定した後、「適用ボタン」をクリックしないと有効になりません。

- (1) 画面左にあるメニューリストの「基本設定」をクリックし画面上部右の「セキュリティ設定」をクリックして下さい。

ユーザーアカウント設定画面

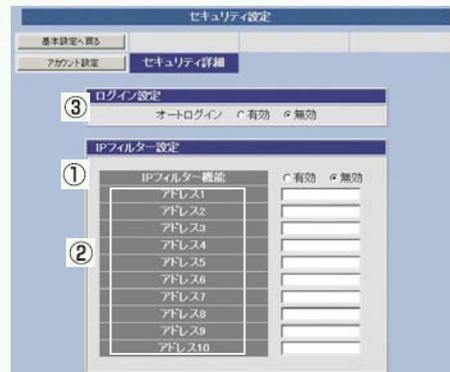


項目	内容	工場出荷時設定
① Ident ※最大10件まで登録可能	システム情報の取得が可能なユーザIDとパスワードを設定 ユーザID：半角英数字8文字以内（他のユーザIDと重複不可）@は使用不可 パスワード：半角英数字16文字以内（他のパスワードと重複可）@は使用不可	
② Control ※最大10件まで登録可能	システム情報の取得、電源制御のみが可能なユーザIDとパスワードを設定 ユーザID：半角英数字8文字以内（他のユーザIDと重複不可）@は使用不可 パスワード：半角英数字16文字以内（他のパスワードと重複可）@は使用不可	
③ Admin ※最大10件まで登録可能	システム情報の取得、電源制御、設定が可能なユーザIDとパスワードを設定 ユーザID：半角英数字8文字以内（他のユーザIDと重複不可）@は使用不可 パスワード：半角英数字16文字以内（他のパスワードと重複可）@は使用不可	ユーザID：admin パスワード：magic
④ 適用	設定を保存	
⑤ リセット	設定クリア（キャンセル）	

## セキュリティ詳細

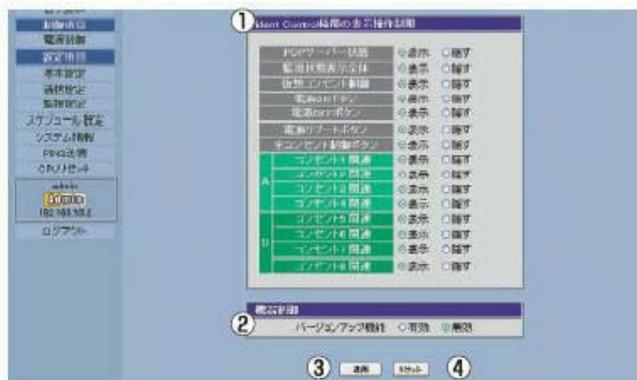
(2) 画面左にあるメニューリストの「基本設定」をクリックし画面上部右の「セキュリティ設定」をクリックした後、画面上部中央の「セキュリティ詳細設定」をクリックして下さい。

IPフィルター設定画面



項目	内容	工場出荷時設定
①	IPフィルター機能	IPフィルター機能の有効または無効を選択します。 無効
②	IPアドレス	RC3008に接続可能な機器のIPアドレスを入力します。
③	オートログイン	オートログイン機能の有効または無効を選択します。 無効

ident Control権限の表示操作制限設定、制御ユーティリティ用設定画面



項目	内容	工場出荷時設定
①		接続ユーザーのユーザー権限がident時、各項目の表示非表示を選択
②	機器制御	バージョンアップ機能 無効
③	適用	設定を保存
④	リセット	設定クリア (キャンセル)

## 5-5-4 UPS連動設定

UPS連動設定に関する項目を設定します。

各項目を設定した後、「適用ボタン」をクリックしないと有効になりません。

## (1) UPS連動設定

	項目	内容	工場出荷時設定
①	UPS名称	UPS名称を設定	
②	UPSモニタ時間間隔	UPSモニタ時間間隔を設定	
③	UPSシャットダウン開始時間	UPSシャットダウン開始時間を設定	
④	UPSシャットダウン有効化	UPSシャットダウン有効/無効を選択	無効
⑤	upsCommandEnabled	UPSとの連携、信号線/コマンドを選択	
⑥	upsOutletRange	UPSと接続されている本体コンセントを選択 A系統、B系統、AB系統	AB系統
⑦	upsOutputSource	UPSの給電状態を表示 商用/バッテリー/通信不可	
⑧	upsBatteryStatus	バッテリー状態を表示 正常/低下/通信不可	
⑨	upsInputLineBads	商用入力異常回数を表示	
⑩	入力電圧 (V)	入力電圧を表示	

⑪	出力電圧 (V)	出力電圧を表示	
⑫	接続容量 (%)	接続容量を表示	
⑬	入力周波数 (Hz)	入力周波数を表示	
⑭	バッテリー電圧 (V)	バッテリー電圧を表示	
⑮	UPS内部温度 (°C)	UPS内部温度を表示	
⑯	UPS状態	UPS状態を表示	
⑰	適用	設定を保存	
⑱	リセット	設定クリア (キャンセル)	
㉑	更新	最新の情報を表示	

(2) すべての設定が終了したら、「適用」ボタンをクリックしてください。

#### 注 意

- 各項目を設定した後「適用」ボタンをクリックしないと、有効になりません。

### 5-5-5 通信設定

本体のネットワークに関する項目を設定します。

#### (1) 通信基本設定

画面左にあるメニューリストの「通信設定」をクリックしてください。



項目	内容	工場出荷時設定
①   IPアドレス	本体のIPアドレスを設定	192.168.10.1
②   サブネットマスク	サブネットマスクを設定	255.255.255.0
③   デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定	0.0.0.0
④   DNSサーバアドレス	DNSサーバのIPアドレスを設定	0.0.0.0
⑤   DHC機能	DHCPクライアント機能の有効/無効を設定	無効
⑥   NTPサーバアドレス	NTPサーバのIPアドレスを設定	0.0.0.0
⑦   HTTP機能	HTTP (WEB) 接続の有効/無効を設定	有効
⑧   HTTPポート	HTTP接続を受け付けるポート番号を設定	80
⑨   TELNET機能	TELNET接続の有効/無効を設定	有効
⑩   TELNETポート	TELNET接続を受け付けるポート番号を設定	23
⑪   TELNET中継先IP	TELNET接続時、中継機能 (TELNETコマンド) を利用してTELNET接続する相手のIPアドレスを設定	0.0.0.0
⑫   TELNET中継先ポート	TELNET接続時、中継機能 (TELNETコマンド) を利用してTELNET接続する際に使用するポート番号を設定	23
⑬   リンク速度とDuplex	通信モードと通信速度を選択します	自動検知

#### 注 意

- ①～⑬のネットワーク設定は「適用」ボタンをクリックした後「CPUリセット」 (P. 33) 画面で「CPUリセット」ボタンをクリックして実行しないと、設定した内容が反映されません。
- 「CPUリセット」を実行するとイベントログの内容は消去されます。
- 「CPUリセット」を実行すると通信が切断されますが、コンセントの電源状態はそのまま維持されます。
- IPアドレスを変更した場合は、CPUリセットをおこなう前に設定したIPアドレスを必ず控えておいてください。

関連項目設定、PPPoE設定画面

	項目	内容	工場出荷時設定
①	無通信タイマー (秒)	HTTP (WEB) 接続で一定時間通信が行われなわれなかったとき、自動ログアウトするまでの時間を設定	600
②	WEB自動更新機能	WEBブラウザ表示の自動更新 有効/無効を設定	無効
③	WEB自動更新間隔(秒)	WEBブラウザ表示の自動更新間隔を設定	30
④	ダイレクトWEBコマンド	オートログイン機能の有効または無効を選択します。	無効
⑤	ISP名称	ISP名称を入力します (任意)	
⑥	PPPoE接続方法	コマンド接続/常時接続を設定	コマンド
⑦	PPPoEユーザID	インターネットサービスプロバイダから指定されたPPPoE接続ユーザIDを設定	
⑧	PPPoEパスワード	インターネットサービスプロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを設定 ※PPPSTATコマンドやLOGコマンドで接続状態を確認することができます。 PPPoEの詳細については第11章「PPPoEの使用」を参照ください。	
⑨	適用	設定を保存	
⑩	リセット	設定クリア (キャンセル)	

(2) すべての設定が終了したら、「適用」ボタンをクリックします。

(3) これらの設定を有効にするため、画面左にあるメニューリストの「CPUリセット」をクリックして、設定画面で「CPUリセット」ボタンをクリックしてください。

(4) 通信詳細設定

画面左にあるメニューリストの「通信設定」をクリックし、画面上部の「通信詳細設定」をクリックします。



項目	内容	工場出荷時設定
① SET GET設定	SNMPエージェント機能の有効無効を選択します。	無効
② SNMPアクセス条件	認証と暗号化の使用有無によって設定します。	制限無し
③ GETコミュニティ名	Getコミュニティ名は、SNMPマネージャがSNMPエージェント本機から情報を取得 (Get) するときに使う文字列です。	public
④ SETコミュニティ名	Setコミュニティ名は、SNMPマネージャがSNMPエージェント本機の情報変更 (Set) を指示するときに使う文字列です。	public
⑤ TRAPコミュニティ名	Trapコミュニティ名は、SNMPマネージャがSNMPエージェント本機から送られてくるトラップメッセージを受信するときに使う文字列です。	public
⑥ v3ユーザー名・v3パスワード	SNMPv3を使用する場合に設定してください。	
⑦ v3暗号コード	認証・暗号化の方法を選択します。	MD5/DES
⑧ マネージャーTrap	SNMPマネージャステータスを通知する機能の有効無効を選択します。	無効
⑨ Authen Trap	不正なコミュニティ名からのGET、SET要求があったことを通知する機能の有効無効を選択します。	無効
⑩ トラップIPアドレス	トラップ送付先となっているIPアドレスです。	

**注 意**

●SNMPフィルター機能を有効にすると、設定したIPアドレス以外のSNMPマネージャからのSET、GETを要求を受け付けなくなります。

SNMPフィルター設定

SNMPフィルター設定

① SNMPフィルター機能  有効  無効

	② フィルターIPアドレス	③ フィルターマスク
1		255.255.255.255
2		255.255.255.255
3		255.255.255.255
4		255.255.255.255
5		255.255.255.255
6		255.255.255.255
7		255.255.255.255
8		255.255.255.255
9		255.255.255.255
10		255.255.255.255

項目	内容	工場出荷時設定
① SNMPフィルター機能	SNMPフィルター機能の有効または無効を選択します。	無効
② フィルターIPアドレス	SNMPマネージャーのIPアドレスを設定します。	
③ フィルターマスク	SNMPマネージャーのネットマスク範囲を設定します。	255.255.255.255

状態通知機能画面

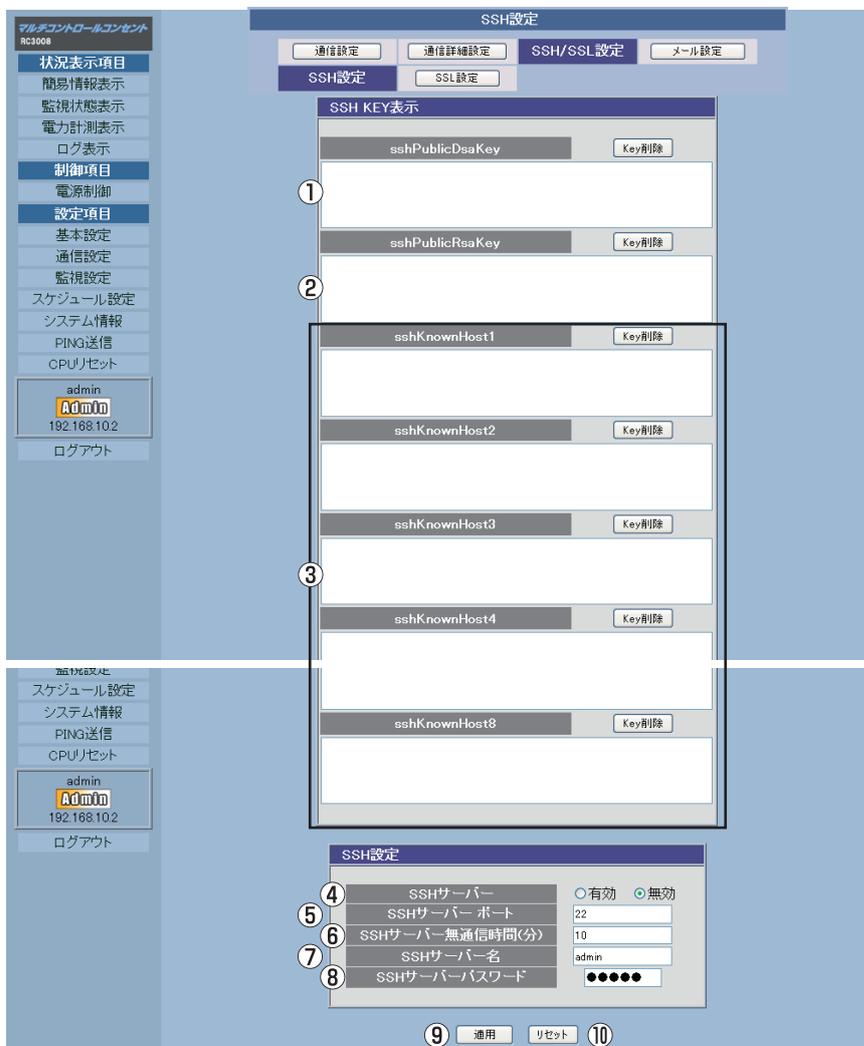


項目	内容	工場出荷時設定	
①	状態通知機能	状態通知機能の 無効/SYSLOG/MSRP を選択	無効
②	通知先センターアドレス	PRCコンダクターを使用するパソコンのIPアドレスを入力	
③	通知先センターポート	PRCコンダクターを使用するパソコンのポート番号を入力	5000
④	送信間隔	情報を送信する間隔を設定	300
⑤	適用	設定を保存	
⑥	リセット	設定クリア (キャンセル)	

(5) SSH設定

SSHサーバ機能の設定を行います。

画面左にあるメニューリストの通信設定をクリックし画面上部の「SSH/SSL設定」をクリックします。



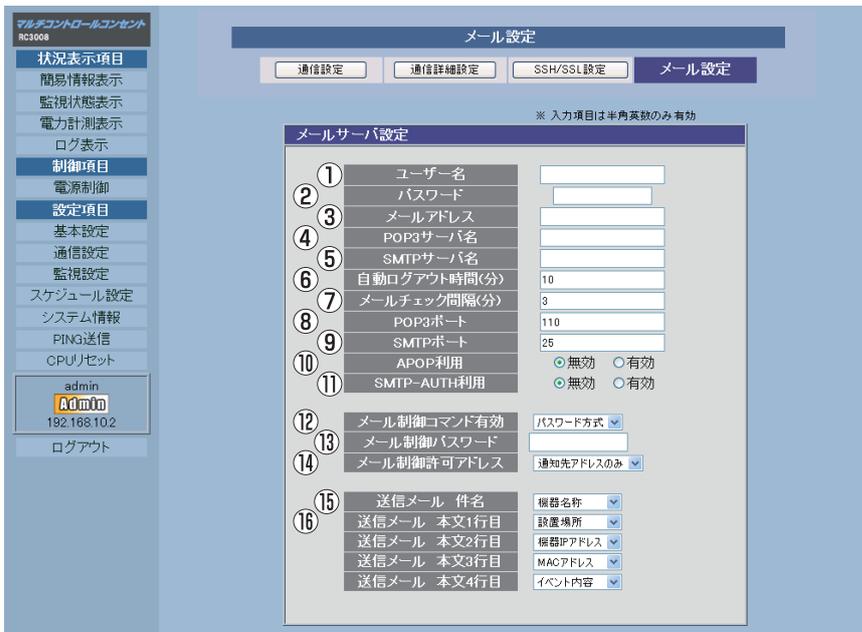
項目	内容	工場出荷時設定
①   sshPublicDsaKey	SSH-DSA公開鍵を設定	
②   sshPublicRsaKey	SSH-RSA公開鍵を設定	
③   sshKnownHost1～8	SSHクライアントとして接続したときにサーバーから受け取ったキー	
④   SSHサーバー	SSHサーバー機能の有効/無効を選択	無効
⑤   SSHサーバーのポート	SSHサーバーのポート番号を設定	22
⑥   SSHサーバー無通信時間 (分)	SSHサーバーの無通信時間を設定	10
⑦   SSHサーバー名	SSHサーバー名を設定	admin
⑧   SSHサーバーパスワード	SSHサーバーのパスワードを設定	
⑨   適用	設定を保存	
⑩   リセット	設定クリア (キャンセル)	

(6) メール設定

電源の異常時、復旧時にメールを送信するための設定をします。

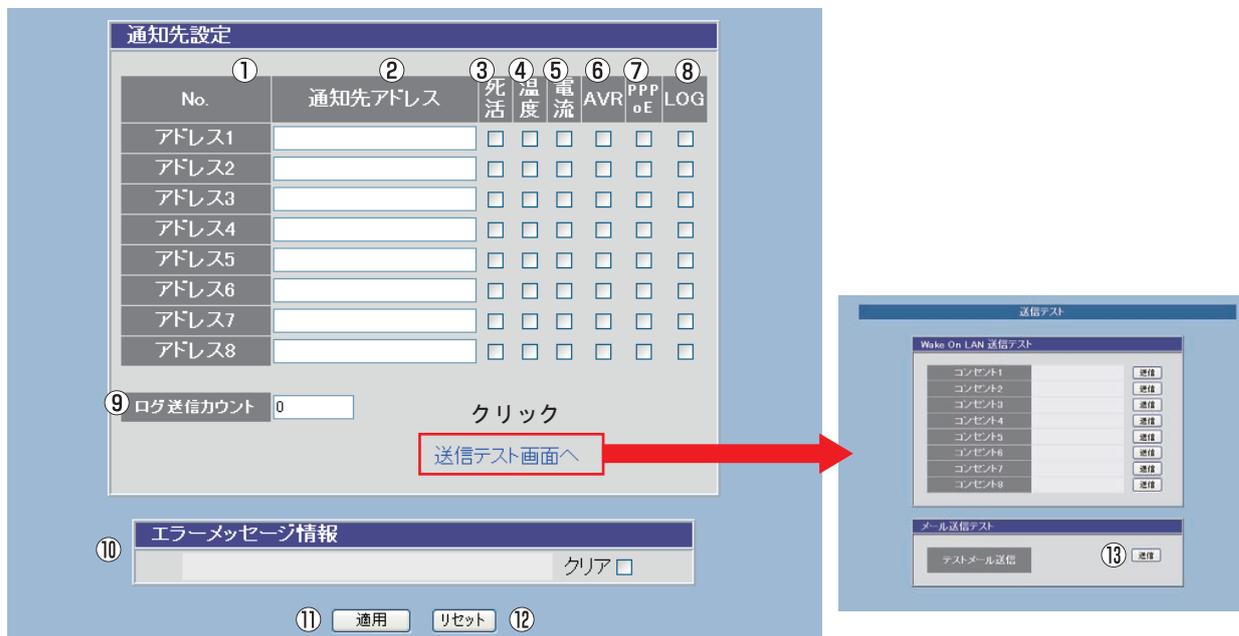
画面左にあるメニューリストの「通信設定」をクリックし画面上部右の「メール設定」をクリックします。

メール設定画面



項目	内容	工場出荷時設定
① ユーザー名	インターネットサービスプロバイダからのメール設定資料に基づき設定。(社内メールサーバでの運用の場合は、ご担当のネットワーク管理技術者へお問い合わせください。)	
② パスワード		
③ メールアドレス		
④ POP3サーバ名		
⑤ SMTPサーバ名		
⑥ 自動ログアウト時間 (分)	メールによる制御要求が無い場合の、ログアウト時間を設定。設定可能範囲1～60分	10分
⑦ メールチェック間隔 (分)	メールをチェックする間隔を設定。設定が短すぎると、メールサーバによってはエラーとなることがあります。設定可能範囲1～60分	3分
⑧ POP3ポート	POP, 10サーバへの宛先ポート番号を指定。	110
⑨ SMTPポート	SMTPサーバへの宛先ポート番号を指定。	25
⑩ APOP利用	有効に設定すると、パスワードを暗号化して送信するので安全性が向上します。インターネットサービスプロバイダ側がAPOPに対応している必要があります。(社内メールサーバでの運用の場合は、ご担当のネットワーク管理技術者へお問い合わせください)	無効
⑪ SMTP-AUTH利用	SMTPサーバにアクセスする際、SMTP-AUTH利用の有/無を設定。インターネットサービスプロバイダ側がSMTP-AUTHに対応している必要があります。(社内メールサーバでの運用の場合は、ご担当のネットワーク管理技術者へお問い合わせください)	無効
⑫ メール制御コマンド有効	無効、ログイン方式又はパスワード方式を選択。 ※メール制御コマンド使用方法は下記「メールによるコマンド制御」を参照して下さい。	無効
⑬ メール制御パスワード	メール制御コマンドで「パスワード方式」を選択した場合入力フィールドにパスワードを入力。	
⑭ メール制御許可アドレス	制限なし又は通知先アドレスのみを選択。	通知先アドレスのみ
⑮ 送信メール件名	表示なし、機器名称、設置場所、機器IPアドレス、MACアドレス、イベント内容から選択。	機器名称
⑯ 送信メール本文 1～4行目		

通知先設定、エラーメッセージ設定画面



	項目	内容	工場出荷時設定
①	NO.		
②	通知先アドレス	通知するメールアドレスを設定 最大8件設定	
③	死活	チェックをつけたアドレスにPING監視情報をメールします。 死活監視の判定が[警報]に変化するとメールを送信します。	
④	温度	チェックをつけたアドレスに温度監視情報をメールします。 温度状態の判定が[警報]に変化するとメールを送信します。	
⑤	電流	チェックをつけたアドレスに各コンセントごとの電流監視情報をメールします。 電流状態の判定が[警報]に変化するとメールを送信します。	
⑥	AVR	チェックをつけたアドレスに各系統ごとの電流監視情報をメールします。 電流状態の判定が[警報]に変化するとメールを送信します。	0
⑦	PPPoE	PPPoE接続で取得したIPアドレス情報を通知する機能です。	
⑧	LOG	チェックをつけたアドレスにイベントログ情報をメールします。 イベントログが発生するとメールを送信します。	
⑨	ログ送信カウント	ログが発生した時に、メールをを設定数送信します。(最大値20)	
⑩	エラーメッセージ情報	エラーメッセージの内容が表示されます。	
⑪	適用	設定を保存	
⑫	リセット	設定クリア (キャンセル)	
⑬	テストメール送信	テストメールを送信	



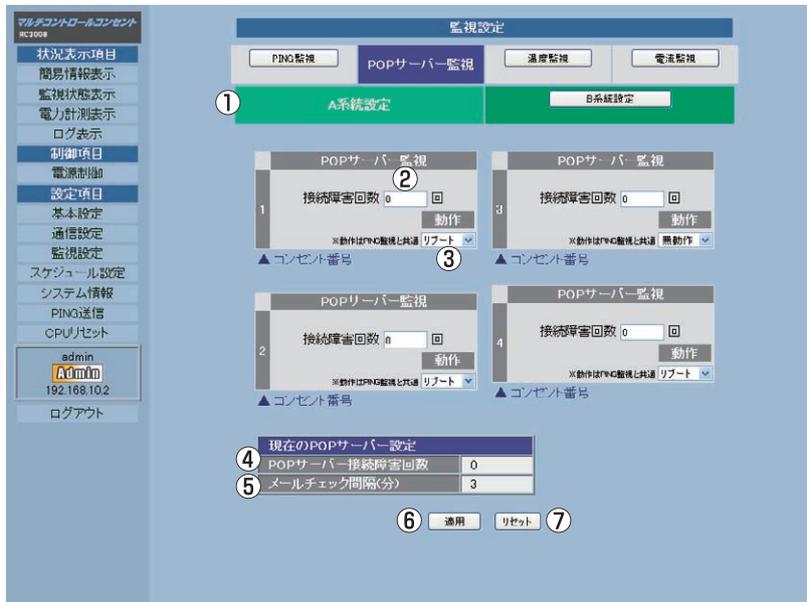
⑧	動作	無動作：PING監視を行わない レポート：異常と判断した場合レポート ログのみ：異常と判断した場合を記録	無動作
⑨	回数	レポート復旧しない場合再度レポートを行う回数を入力 回数を超えた後は1時間毎に動作を繰り返します。	
⑩	PING送信間隔（分）	PINGの送信間隔（分）を設定（1～60の整数）	1
⑪	死活監視レポートによる警告（回）	全コンセントのレポート回数が入力した回数を超えるとPILOT LEDが赤点灯します。	12
⑫	適用	設定を保存	
⑬	リセット	設定クリア（キャンセル）	

### 注 意

- 「送信」で設定するPINGの送信回数は、PINGによる死活判定をおこなう際の判定材料として、過去何回分のPING 送信の結果を採用するかを意味します。設定した回数のPINGを送信した後、PING送信を終了するという意味ではありません。
- 無応答が続いた場合、およそ1時間ごとに設定された動作を実行します。再び条件が成立した場合でも、設定された動作はおよそ1時間に1回しか実行しません。

5-5-6-2 POPサーバ監視

POPサーバ監視設定画面



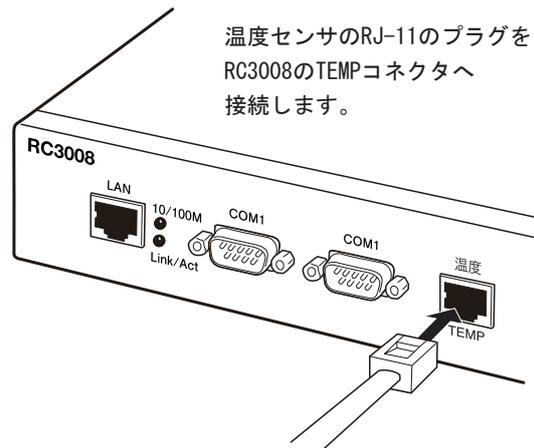
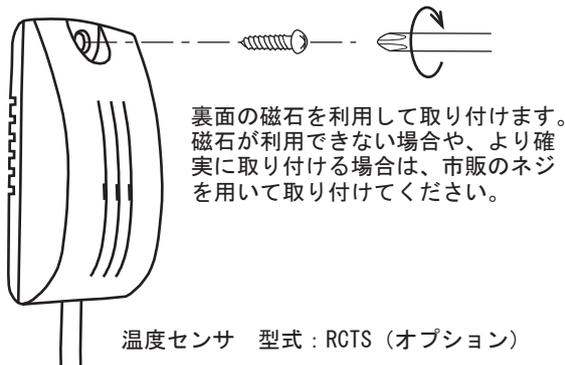
項目	内容	工場出荷時設定
① 系統	A系統またはB系統を選択	
② 接続障害回数	メール問合せ回数内で異常と判断する接続障害回数を設定（1～100の整数）	0
③ 動作	無動作：POPサーバ監視を行わない レポート：異常と判断した場合レポート ログのみ：異常と判定した場合を記録	無動作
④ POPサーバ接続障害回数	POPサーバ接続障害回数を表示	
⑤ メールチェック間隔	メールチェック間隔時間を表示	
⑥ 適用	設定を保存	
⑦ リセット	設定クリア（キャンセル）	

(1) すべての設定が終了したら、「適用」ボタンをクリックします。

5-5-6-3 温度による電源制御

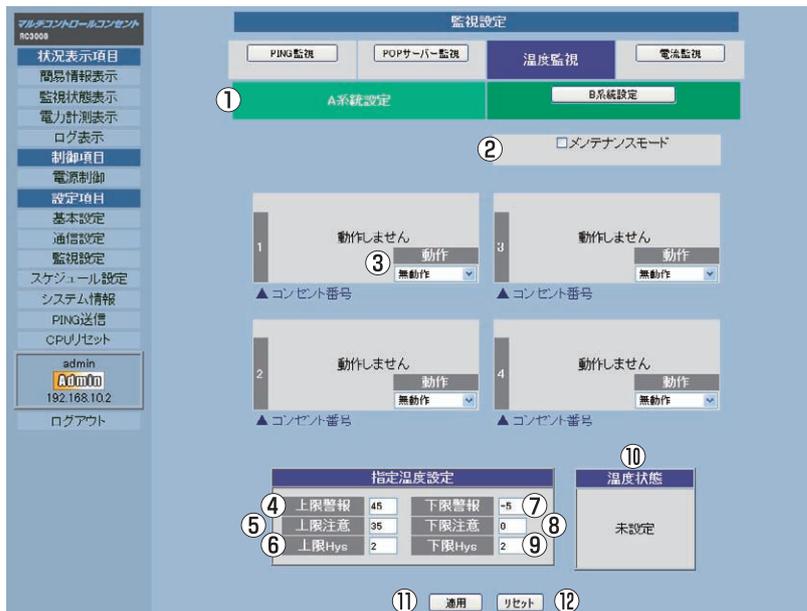
本体に接続された温度センサ（オプション）によって温度を監視し、測定温度が設定した上限または下限温度（閾値）を超えた場合、設定した「動作」を実行します。

- (1) 温度センサー（型式RCTC）を固定し、RC3008本体のTEMPコネクタに接続します。



- (2) 「監視設定」の「温度監視」ボタンをクリックします。

監視設定（温度監視）設定画面



- (3) 「温度センサを利用する」のチェックボックスをチェックし、「適用」ボタンをクリックします。

(4) 本装置と温度センサ（オプション）を温度センサ付属のケーブルで接続します。

	項目	内容	工場出荷時設定
①	系統	A系統またはB系統を選択	
②	メンテナンスモード	メンテナンスモードの有効/無効を設定 無効時、温度状態が変化しても電源制御をおこなわない	無効
③	動作	各コンセントごとに警報時の動作を設定 無動作：温度監視をおこなわない 上限警報ON：上限警報温度に達した場合電源ON 下限警報ON：下限警報温度に達した場合電源ON 上限警報OFF：上限警報温度に達した場合電源OFF 下限警報OFF：下限警報温度に達した場合電源OFF	無動作
④	上限警報	高温の警報温度を設定	45℃
⑤	上限注意	高温の注意温度を設定	35℃
⑥	上限Hys	高温のヒステリシス温度を設定	2℃
⑦	下限警報	低温の警報温度を設定	-5℃
⑧	下限注意	低温の注意温度を設定	0℃
⑨	下限Hys	低温のヒステリシス温度を設定	2℃
⑩	温度状態	温度センサの利用を有効にしている場合、 温度状態と測定温度を表示 温度センサの利用を無効にしている場合、 「未設定」と表示	

温度状態の判定基準

正常範囲：下限注意（+下限Hys）から 上限注意（-上限Hys）までの温度

注意範囲：上限注意（-上限Hys）から 上限警報（-上限Hys）までの温度

下限警報（+下限Hys）から 下限注意（+下限Hys）までの温度

異常範囲：上限警報（-上限Hys）以上の温度

下限警報（+下限Hys）以下の温度

ヒステリシス（下限Hysおよび上限Hys）について

ヒステリシス温度は、異常範囲から注意範囲、および注意範囲から正常範囲に温度が変化する場合のみ有効となります。温度変化が微小時に判定がふらつき、コンセント出力がチャタリングすることを防止する場合に設定します。

⑪	適用	設定を保存	
⑫	リセット	設定クリア（キャンセル）	

(4) すべての設定が終了したら「適用」ボタンをクリックします。

注意

●同一のコンセントで「PING監視」と「温度監視」を同時におこなうことはできません。

PING監視をおこなう場合は、上記(※)「動作」を「無動作」に設定してください。

●※温度センサの使用温度範囲内（-10～+70℃）で、下記となるように温度を設定してください。

下限警報+下限Hys < 下限注意 < 下限注意+下限Hys < 上限注意-上限Hys < 上限注意 < 上限警報-上限Hys

5-5-6-4 電流監視

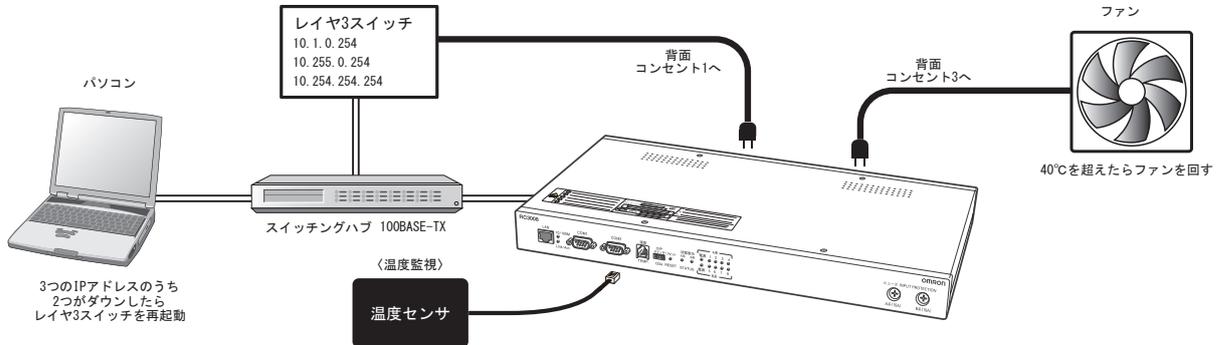


項目	内容	工場出荷時設定
① 系統	A系統またはB系統を選択	
② A/B系統 測定再スタート	A/B系統の積算データをクリアして測定再スタートする	
④ メンテナンスモード	メンテナンスモードの有効/無効を設定 無効時、電流状態が変化しても電源制御を行わない	無効
⑤ 警報値	警報値となる電流値を設定	
⑥ 注意値	注意値となる電流値を設定	
⑦ Hys値	Hys値となる電流値を設定	
⑧ 現在の電流値	現在の電流値を表示	
⑨ 動作	各コンセントごとに警報時の動作を設定 無動作：電流監視を行わない 上限警報ON：警報値に達した場合電源ON 上限警報OFF：達した場合電源OFF	
⑩ 警報値	A/B系統全体の警報値となる電流値を設定	
⑪ 注意値	A/B系統全体の注意値となる電流値を設定	
⑫ Hys値	A/B系統全体のHys値となる電流値を設定	
⑬ CO2排出係数	CO2排出係数を設定	
⑭ A/B系統 電流状態	電流状態を表示	
⑮ 適用	設定を保存	
⑯ リセット	設定クリア（キャンセル）	

※ 各監視機能をご使用いただく場合は、正しく設定できているかどうかをご確認のうえご使用ください。

### 監視設定例

例) ルータの死活を3つのIPアドレスでPING監視し、同時にラック内の温度が40°Cを超えた場合、ファンの電源をONする。



#### ●前提条件

接続	コンセント1：レイヤ3スイッチの電源を接続 コンセント3：ファンの電源を接続
PING監視条件	以下の3つのIPアドレスを監視する。 10.1.0.254 10.255.0.254 10.254.254.254 ・3つのIPアドレスのうち2つにおいて異常判定となった場合、接続デバイス（レイヤ3スイッチ）の異常とみなし、コンセント1をリポートする。 ・各IPアドレスにおいては、4回のPING送信のうち3回応答が無い場合、異常とする。 ・PINGは1分ごとに1回送信する。
温度監視条件	測定温度が40°C以上になったとき、コンセント3の電源をONし、その後測定温度が37°C以下になったらコンセント3の電源をOFFする。また、測定温度が36°C以上になったとき、注意表示する。

#### ●設定内容

##### PING監視設定

コンセント1	
監視先IPアドレス1	10.1.0.254
監視先IPアドレス2	10.255.0.254
監視先IPアドレス3	10.254.254.254
送信数	4
無答数	3
対象数	2
動作	リポート
PING送信間隔 (分)	1

##### 温度監視設定

温度センサを利用する	有効
コンセント3	動作： 上限警報ON
指定温度設定	上限警報 40    上限注意 36    上限Hys 3

5-5-7 スケジュール設定

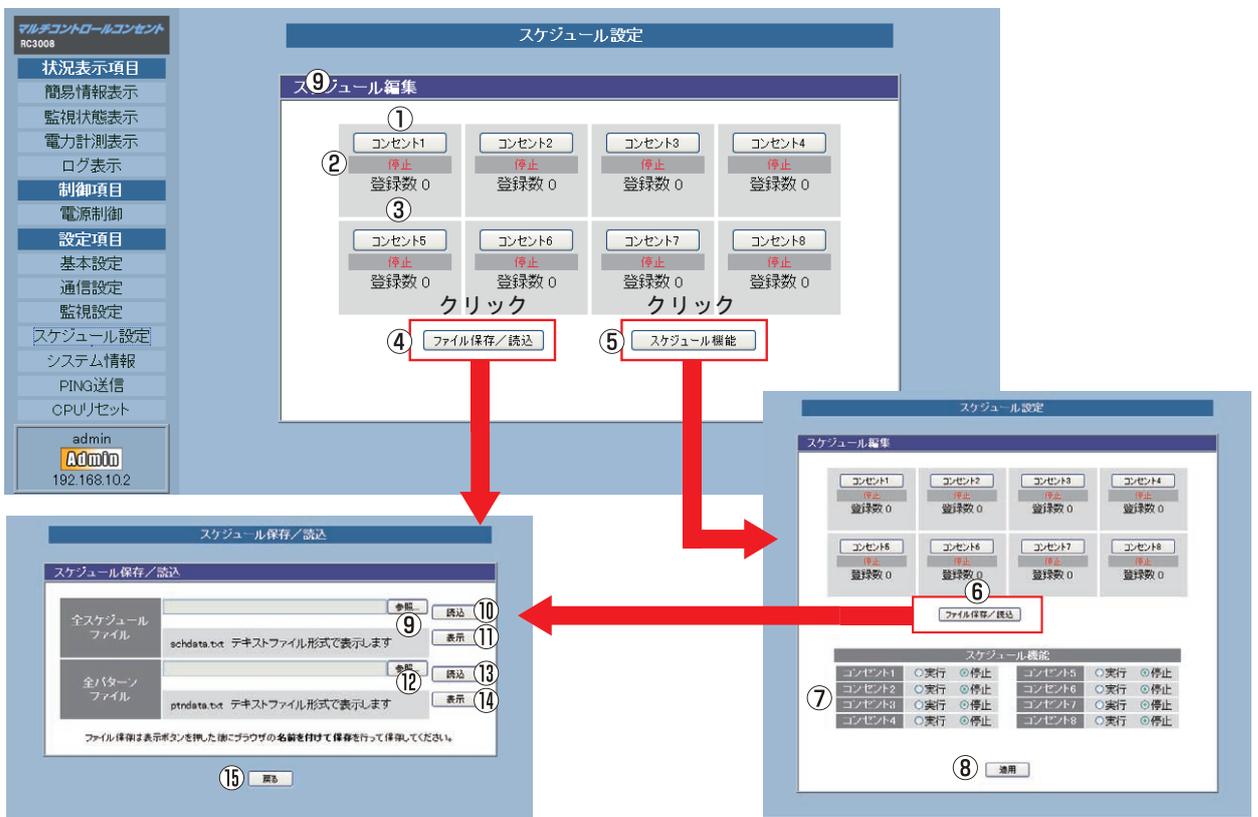
本体のスケジュールに関する項目を設定します。最大20件登録可能。

注意

- スケジュール設定する場合、NTP（時刻）サーバから時刻を取得する必要があります。
- 「基本設定画面」の「PCIによる時刻設定」機能を使って、本体にパソコンの時間を設定することでも、スケジュール機能は動作しますが、以下の理由によりお勧めしません。
  - (1) NTPサーバからの時刻の取得と比較して、時刻に狂いが生じやすくなります。

(1) 画面左にあるメニューリストの「スケジュール設定」をクリックしてください。

スケジュール設定画面



項目	内容	工場出荷時設定
①	コンセント	各コンセントのスケジュールリスト画面に移動
②	状態	コンセントスケジュール機能の 実行/停止 状態を表示
③	登録数	スケジュールの登録数を表示
④	ファイル保存/読込	スケジュール保存/読込画面へ移動
⑤	スケジュール機能	各コンセントのスケジュール機能の 実効/停止 選択画面を表示
⑥	ファイル保存/読込	スケジュール保存/読込画面へ移動

⑦	コンセント	各コンセントのスケジュール機能の 実効/停止 を選択	
⑧	適用	設定を保存	
⑨	参照	全スケジュールファイルのパスを選択	
⑩	読込	全スケジュールファイルを読み込む	
⑪	表示	全スケジュールファイルを表示	
⑫	参照	全パターンファイルのパスを選択	
⑬	読込	全パターンファイルを読み込む	
⑭	表示	全パターンファイルを表示	
⑮	戻る	スケジュール編集画面に戻る	

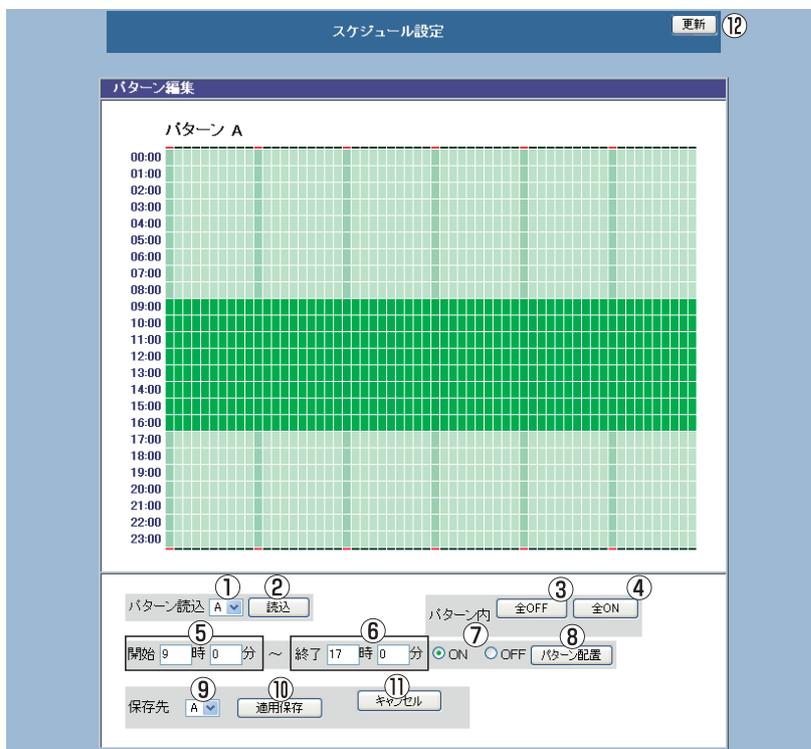
(2) すべての設定が終了したら、「適用」ボタンをクリックします。

スケジュールリスト画面



項目	内容	工場出荷時設定
①	<<先月	先月のスケジュール表示画面へ移動
②	翌月>>	翌月のスケジュール表示画面へ移動
③	年	表示したい年（西暦）を入力
④	月	表示したい月を入力
⑤	移動	③と④に入力したのちクリックすると入力した年月のスケジュールを表示
⑥	スケジュール編集	スケジュール編集画面を下部に表示
⑦	パターン編集	パターン編集画面に移動
⑧	キャンセル	前画面に戻る

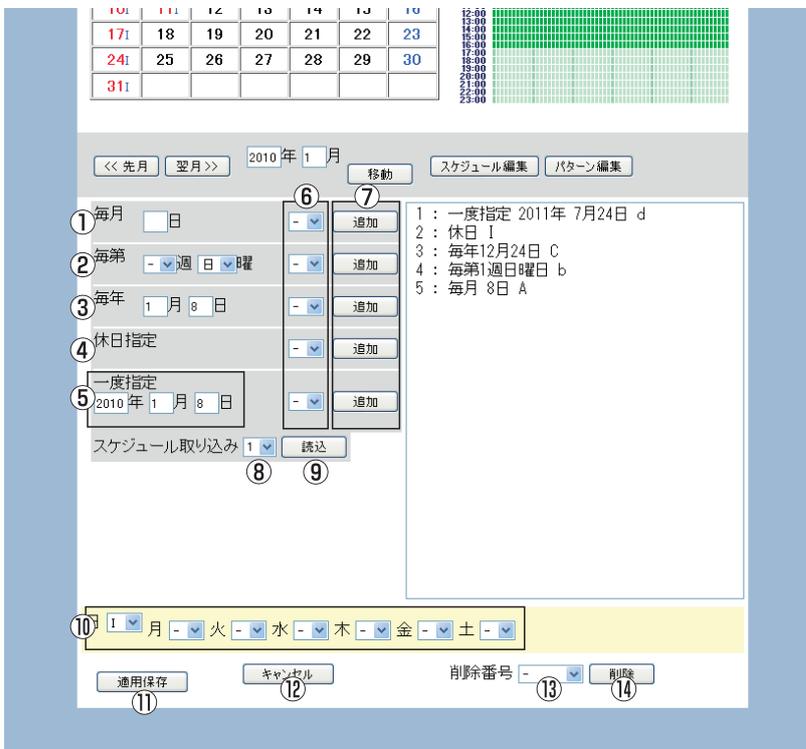
パターン編集画面



	項目	内容	工場出荷時設定
①	パターン読込	読み込むパターンをA~jの中から選択	
②	読込	選択したパターンを読み込む	
③	全OFF	パターン内を全てOFFに設定	
④	全ON	パターン内を全てONに設定	
⑤	開始	開始時刻を入力	
⑥	終了	終了時刻を入力	
⑦	ON / OFF	動作をON/OFFから選択	
⑧	パターン配置	⑤⑥⑦で設定したパターンを反映	
⑨	保存先	パターン2の保存先をA~jの中から選択	
⑩	適用保存	パターン2の設定を保存	
⑪	キャンセル	スケジュールリスト画面に戻る	
⑫	更新	最新の情報を表示	

合計で20個までのパターンを登録できます。

スケジュール編集画面



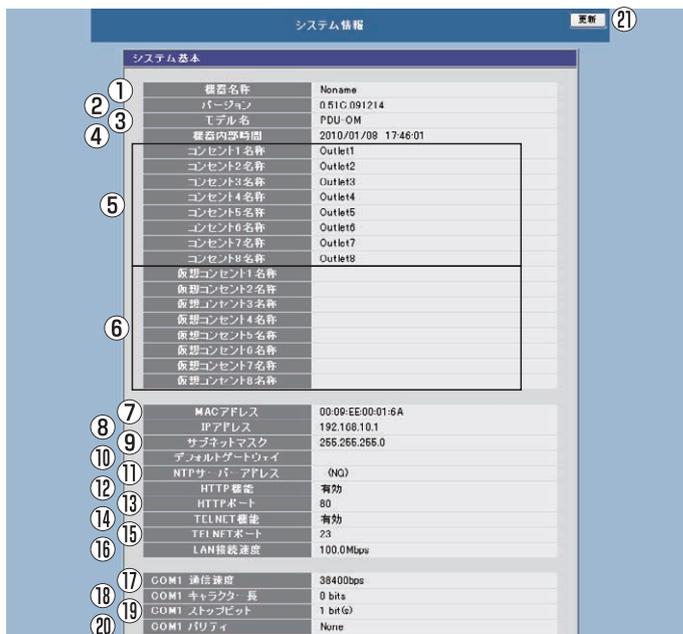
項目	内容	工場出荷時設定
① 毎月 * 日	毎月特定のスケジュールを実行する日を設定	
② 毎第 * 週 * 曜日	毎月特定のスケジュールを実行する週と曜日を設定	
③ 毎年 * 月 * 日	毎年特定のスケジュールを実行する月と日を設定	
④ 休日指定	休日に反映させるパターンを設定	
⑤ 一度指定	スケジュールを実行させる特定の年月日を設定	
⑥ パターン選択	①〜⑤に設定したスケジュールで実行させるパターンを選択	
⑦ 追加	①〜⑤で設定した内容を右のフィールドに反映	
⑧ スケジュール取り込み	スケジュールを取り込むコンセント番号を選択	
⑨ 読込	選択したコンセント番号からスケジュールを読み込む	
⑩ 日〜土	各曜日にA〜jのパターンを適用	
⑪ 適用保存	設定内容を保存	
⑫ キャンセル	スケジュール編集画面へ戻る	
⑬ 削除番号	削除する設定内容を上記フィールドから選択	
⑭ 削除	選択した設定内容を削除	

### 5-5-8 システム情報

本体に設定された各項目の内容を一覧表示します。

- (1) 画面左にあるメニューリストの「システム情報」をクリックしてください。

システム情報画面



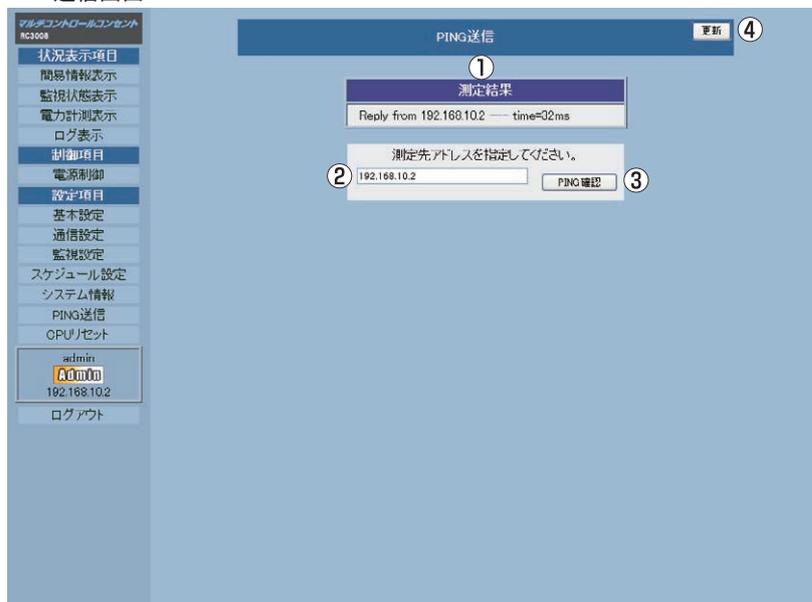
項目	内容	工場出荷時設定
① 本体名称	本体名称を表示	
② ファームウェアバージョン	ファームウェアバージョンを表示	
③ モデル名	モデル名 (RC3008) を表示	
④ 本体内部時間	本体内部時間を表示	
⑤ コンセント名称	個々のコンセント名称を表示	
⑥ 仮想コンセント名称	仮想コンセントの名称を表示	
⑦ MACアドレス	MACアドレスを表示	
⑧ IPアドレス	本体のIPアドレスを表示	
⑨ サブネットマスク	サブネットマスクを表示	
⑩ デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを表示	
⑪ NTPサーバアドレス	NTPサーバアドレスを表示 (OK) NTPサーバへの接続に成功している (NG) NTPサーバへの接続に失敗している	
⑫ HTTP機能	HTTP機能の有効/無効を表示	
⑬ HTTPポート	HTTPポートを表示	
⑭ TELNET機能	TELNET機能の有効/無効を表示	
⑮ TELNETポート	TELNETポートを表示	
⑯ LAN接続速度	LANの接続速度を表示します	
⑰ RS-232C 通信速度	RS-232C 通信速度を表示	
⑱ RS-232C キャラクタ長	RS-232C キャラクタ長を表示	
⑲ RS-232C ストップビット	RS-232C ストップビットを表示	
⑳ RS-232C パリティ	RS-232C パリティを表示	
㉑ 更新	最新の情報を表示	

### 5-5-9 PING送信

PINGを送信し応答を確認します。

(1) 画面左にあるメニューリストの「PING送信」をクリックして下さい。

PING送信画面



	項目	内容	工場出荷時設定
①	測定結果	測定結果を表示	
②	送信先アドレス	送信先のIPアドレスを入力	
③	PING確認	PINGを送信	
④	更新	最新の情報を表示	

### 5-5-10 CPUリセット

本体に設定した各項目の内容を有効にします。

- (1) 画面左にあるメニューリストの「CPUリセット」をクリックしてください。

CPUリセット画面



- (2) 「CPUリセット」ボタンをクリックしてください。

#### 注 意

- 「CPUリセット」ボタンをクリックして実行すると、5-5-3 通信設定のネットワーク設定が有効になります。
- 「CPUリセット」を実行するとイベントログの内容は消去されます。
- 「CPUリセット」を実行すると通信が切断されますが、コンセントの電源状態はそのまま維持されます。
- IPアドレスを変更した場合は、CPUリセットをおこなう前に設定したIPアドレスを必ず控えておいてください。

取扱説明書 詳細版

第6章

TELNETによる設定制御

## 6-1 設定制御用パソコンのネットワーク設定

本体のIPアドレスにあわせて設定制御に使用するパソコンの設定を変更します。

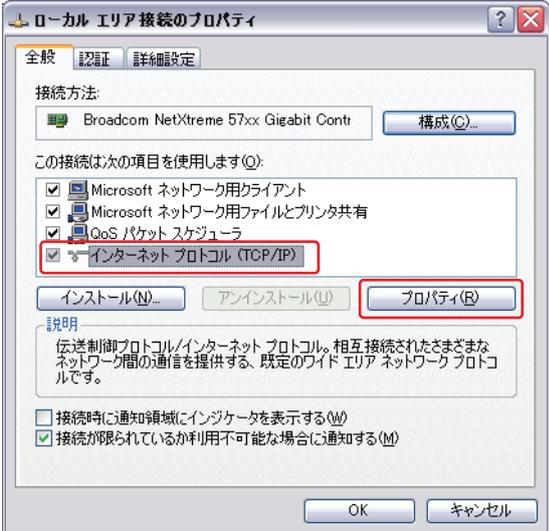
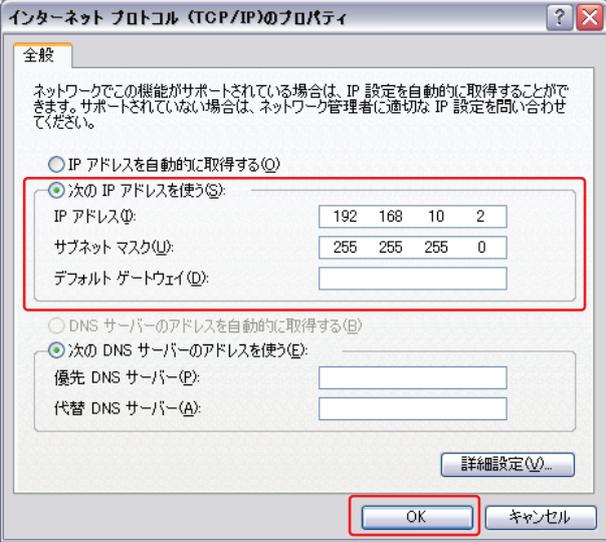
次回からは、7-2「TELNET接続による制御」から操作してください。

本例では、本体のIPアドレスが192.168.10.1、サブネットマスクを255.255.255.0に設定されているものとします。

(4章で本体のIPアドレスを変更した場合は、変更されたIPアドレスに読み替えてください)

### ●Windows XPでの設定

1	<p>[スタート] をクリックして、[接続] → [すべての接続の表示] をクリックします。</p>
2	<p>次に [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択してください。</p> <div data-bbox="389 792 1449 943" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p><b>注 意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [ローカルエリア接続] がない場合は、LANカード (アダプタ) がインストールされていません。LANカード (アダプタ) をインストールしてから、この操作をおこなってください。</li> </ul> </div>
3	<p>[全般] タブをクリックし、コンポーネントの一覧で [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていることを確認してください。</p> <div data-bbox="389 1106 1449 1317" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; background-color: #e6f2ff;"> <p><b>注 意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [インターネットプロトコル (TCP/IP)] がチェックされていない場合は、チェックしてください。</li> <li>● [インターネットプロトコル (TCP/IP)] が表示されていない場合は、[インストール] をクリックしてTCP/IPをインストールしてください。</li> </ul> </div> <div data-bbox="389 1368 938 1906" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>ローカル エリア接続のプロパティ</p> <p>全般 認証 詳細設定</p> <p>接続方法: Broadcom NetXtreme 57xx Gigabit Contr 構成(O)...</p> <p>この接続は次の項目を使用します(O):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク用クライアント</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> QoS パケット スケジューラ</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> インターネット プロトコル (TCP/IP)</li> </ul> <p>インストール(I)... アンインストール(U) プロパティ(P)</p> <p>説明 コンピュータが Microsoft ネットワーク上のリソースにアクセスできます。</p> <p><input type="checkbox"/> 接続時に通知領域にインジケータを表示する(M) <input checked="" type="checkbox"/> 接続が限られているか利用不可能な場合に通知する(M)</p> <p>OK キャンセル</p> </div>

<p>4</p>	<p>[インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択した後、[プロパティ] をクリックしてください。</p> 
<p>5</p>	<p>[次のIPアドレスを使う] をチェックしてください。IPアドレス欄、サブネットマスク欄を以下の通りに設定して [OK] をクリックします。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>IPアドレス : 192.168.10.2              ネットマスク : 255.255.255.0</p> </div> 
<p>6</p>	<p>設定後、OKをクリックしてローカルエリア接続のプロパティを閉じます。</p>

## 6-2 TELNET接続による制御

遠隔地から本体のTELNETサーバプログラムへアクセスして、電源制御したり状態情報を取得することが可能です。ただし、セキュリティ制御の設定がされている場合は、その制限内での操作のみとなります。

TELNETによるコマンド制御

- (1) 「スタート」をクリックして、「ファイルを指定して実行」を選択、テキストボックスを開きます。
- (2) 本体に設定したIPアドレスを以下のように入力し、[Enter] キーを押します。



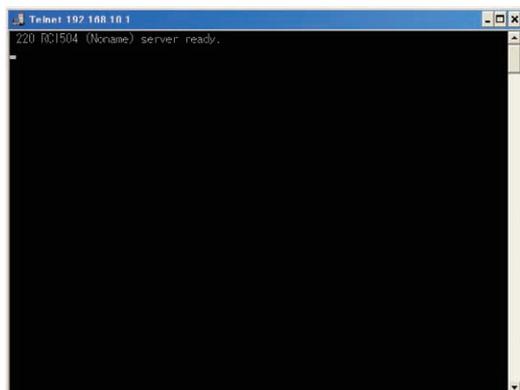
telnet\_192.168.10.1\_23

※は半角スペースです。

IPアドレス : 192.168.10.1 (工場出荷時設定)

TELNETポート番号 : 23 (工場出荷時設定)

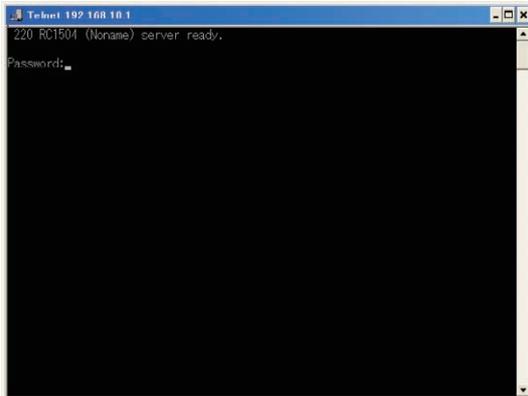
- (3) プログラムが起動し、下記の文字が表示されます。



220 PDU-OM (Noname) server ready.

[Enter] キーを押します。

- (4) パスワードを入力し [Enter] キーを押します。  
パスワード工場出荷時設定 : admin

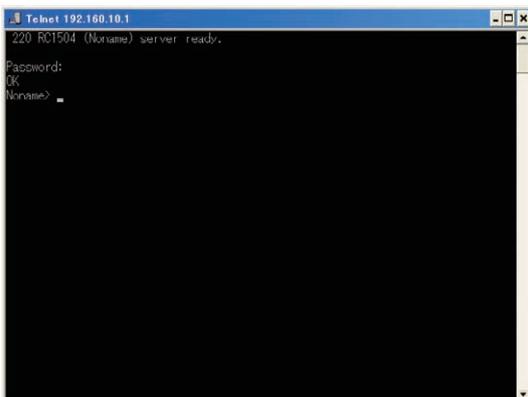


```

Password: ↵
OK
Noname>_

```

- (5) コマンドの入力が可能になりました。下記のコマンドが使用できます。実行には [Enter] キーを押してください。



#### ●制御コマンド一覧

コマンド	内容
MPON	全コンセントの電源出力開始
MPOF	全コンセントの電源出力停止
MPOR	全コンセントの電源リブート
PONn	指定したコンセントの電源出力開始 n=1~4
POFn	指定したコンセントの電源出力停止 n=1~4
PORn	指定したコンセントの電源リブート n=1~4
POS	全コンセントの電源状態取得 応答表示 : mmmm (左からコンセント1~4) m=0 : OFF、m=1 : ON

XPOS	<p>全コンセントの電源状態の詳細取得          応答表示 : ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX          (左からコンセント1~4)          A=0 : OFF A=1 : ON          B=0 : 電源出力停止遅延中 B=1 : 電源出力開始遅延中          XXXX=Bの遅延タイマの残り時間</p>
VER	バージョン表示
OLSn	<p>死活状態の表示 n=1~4          nを省略すると全コンセントを表示          Outlet No. コンセント番号 (1~4)          Power 電源状態 (0=OFF、1=ON)          Judge 判定 (1=正常、2=異常、3=回復中)          Action Count 動作実行回数          Last Ping1 アドレス1の最後の応答 (1=正常、2=異常)          No Echo Count1 アドレス1の未応答回数          Last Ping2 アドレス2の最後の応答 (1=正常、2=異常)          No Echo Count2 アドレス2の未応答回数          Last Ping3 アドレス3の最後の応答 (1=正常、2=異常)          No Echo Count3 アドレス3の未応答回数          Last Ping4 アドレス4の最後の応答 (1=正常、2=異常)          No Echo Count4 アドレス4の未応答回数          ※コンマで区切って表示</p>
PASS	<p>パスワードの変更 確認のため新しいパスワードを2回入力          ※正しく入力されないと変更しません。</p>
TELNET	<p>変数“IpAdTelnetT”のアドレス、変数“remoteTelnetPortT”のポートにTELNETクライアントとして接続。          discCharに設定した文字を入力すると切断、終了。          ※一度に受信するデータは40kバイト以下にしてください。</p>
SERIAL	<p>COMに接続された機器とシリアル通信をおこなう          通信パラメーターは下記のとおり          re232Port1Speed : 12、24、48、96、144、192、288、384          rs232Port1Bits : 7、8          rs232Port1Parity : 0 (無)、1 (奇数)、2 (偶数)          re232Port1Stop : 1、2          (工場出荷時設定は384/7/0/1)          DiscCharに設定した文字を入力すると切断、終了。          ※一度に受信するデータは40kバイト以下にしてください。</p>
DATE	年月日設定 : DATE yy.mm/dd yy=年 (05~99)、mm=月 (1~12)、dd=日 (1~31)
TIME	現在時刻設定 (秒は省略可) : TIME hh:mm:ss hh=時、mm=分、ss=秒
PING	PINGを4回送信 : PING [IPアドレス]
CPURESET	<p>CPUをリセット          ※コマンドを実行しても電源状態は変化しません。</p>

PROMPT=n	n=0 : プロンプト表示無、n=1 : “>” のプロンプト表示 n=2 : “機器名>” のプロンプト表示 ※変数 “promptMode” により接続直後のモードが決まります。
EXIT	回線切断 ※E、e、Q、qの一文字入力の場合はEXITと認識します。 ※シリアル通信の場合は“e221 Goodbye”とだけ表示します。 ※“XPOS”、“VER”、“PASS”など一部のコマンドはログイン時のみ有効です。
LOGDISP	ログ制御変数の表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット
LOGB	ログを新しいものから順に表示
LOG [n]	ログの表示（連番号順）  [n]指定で、最新のn個を表示する
WRITE	変数の設定をFROMに書き込む
?	
?xxxx	変数(xxxx)の値を表示
.xxxx=yyyy	変数(xxxx)を設定し、設定された値(yyyy)を表示
LIST	全ての変数の値を表示
&SAVE	設定された変数の待避・復元ができるデータを出力
LOGDISP=bbb	ログ制御変数を設定

## ●コマンドの一覧を表示

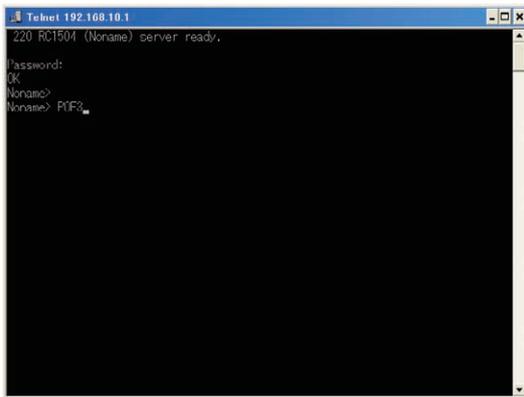
Command OK	正常受付
Unrecognized command	不正なコマンド
Last command is pending, Command faild.	前コマンド処理中のためコマンド実行せず

## 設定制御例1

コンセント3の出力をOFFにする場合。

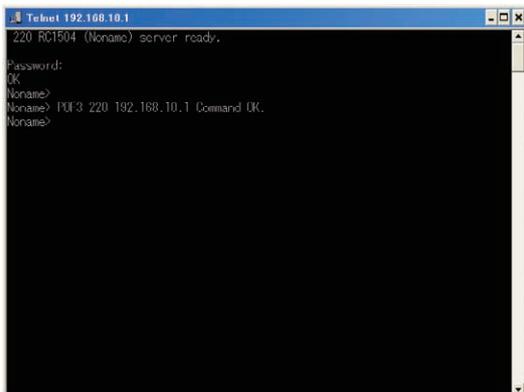
- (1) 以下のように入力しリターンキーを押します。

>POF3



```
.. Telnet 192.168.10.1
220 RC1504 (Noname) server ready.
Password:
OK
Noname>
Noname> POF3_
```

- (2) 本体のコンセント3の出力がOFFとなり、コマンドが正常に終了したことが画面に表示されます。



```
.. Telnet 192.168.10.1
220 RC1504 (Noname) server ready.
Password:
OK
Noname>
Noname> POF3 220 192.168.10.1 Command OK.
Noname>
```

## 設定制御例2

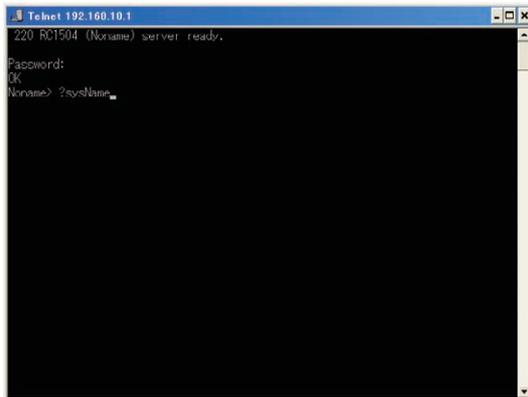
本体名称を設定する場合。

(本体名称はWEBや専用ユーティリティでも設定できます。5-5-1、6-5-1)

(1) “?” コマンドを使用し現在設定されている本体名称を調べます。

以下のように入力しリターンキーを押します。

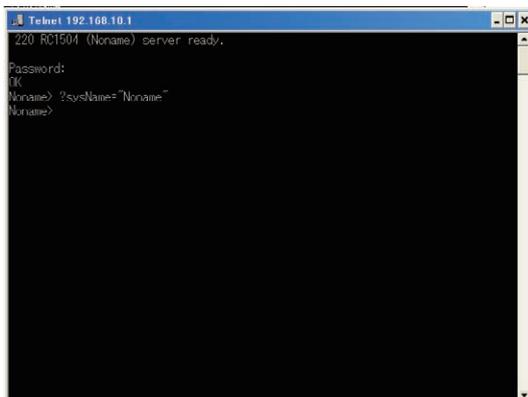
```
>?sysName
```



```
Telnet 192.168.10.1
Z20 RC1504 (Noname) server ready.
Password:
OK
Noname> ?sysName_
```

(2) 本体名称 (変数名 : sysName) に設定されている値が表示されます。

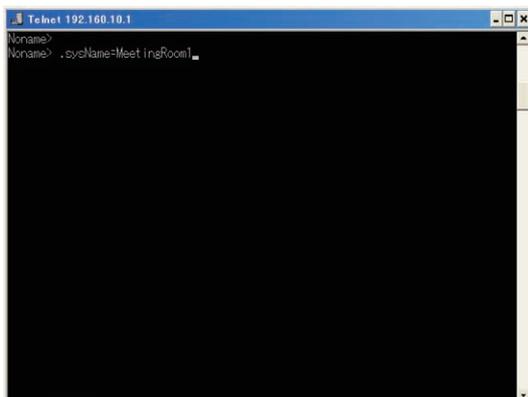
※変数につきましては、本書の「付録1 変数一覧表」をご参照ください。



```
Telnet 192.168.10.1
Z20 RC1504 (Noname) server ready.
Password:
OK
Noname> ?sysName="Noname"
Noname>
```

(3) “.” コマンドを使用し、新たな本体名称を設定します。

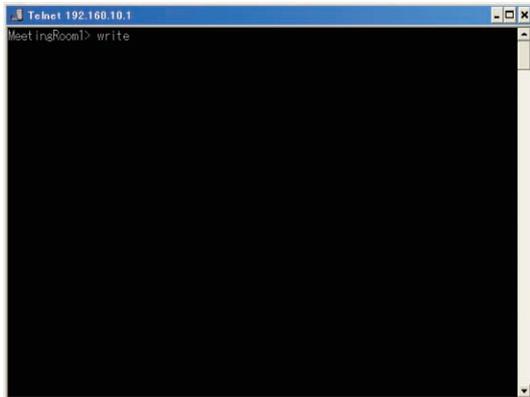
```
>. sysName=MeetingRoom1
```



```
Telnet 192.168.10.1
Noname>
Noname> .sysName=MeetingRoom1_
```

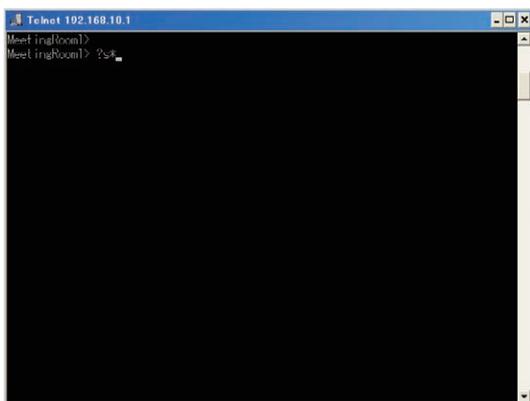
- (4) 変数をフラッシュメモリに書き込みます。

```
>write
```



- (5) “?” コマンドを使用し、本体名称が変更されているかを調べます。以下のように入力しリターンキーを押します。

```
>?s*
```



- (6) sで始まる変数と設定値が表示されます。?sysName=" MeetingRoom1" と表示され、本体名称が変更されたことが確認できます。①



取扱説明書 詳細版

第7章 ターミナルソフトによる設定制御

シリアル通信により、設定制御用パソコンからマルチコントロールコンセントの設定や電源制御をおこなうことができます。以下にMicrosoft Windowsに標準で添付されているシリアル通信ソフトウェア「ハイパーターミナル」を用いた設定制御例を示します。

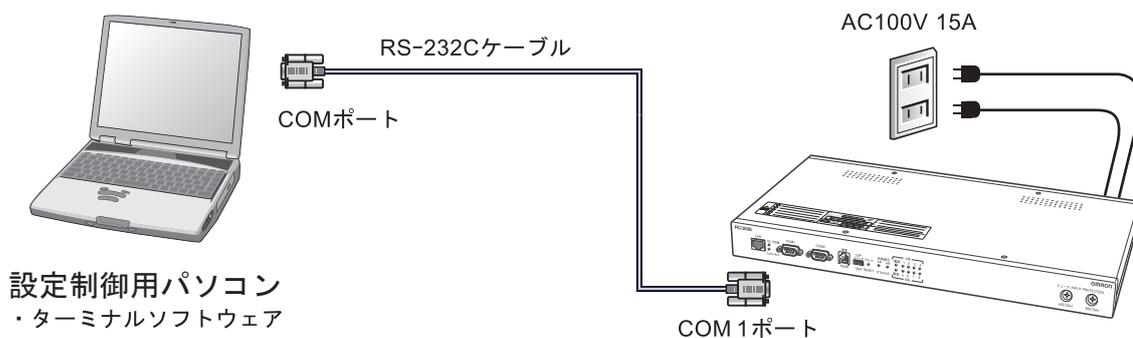
## 7-1 設定制御用パソコンのCOMポート設定とコマンド制御

ハイパーターミナルを起動し、設定制御用パソコンのCOMポートの設定を、マルチコントロールコンセント本体の設定と合わせます。

マルチコントロールコンセント本体には工場出荷時に以下の設定がされています。

通信速度 : 38400 ビット/秒  
データビット : 8 ビット  
パリティ : なし  
ストップビット : 1 ビット

- (1) マルチコントロールコンセント本体のCOMポートと設定制御用パソコンのCOMポートを専用のRS-232Cケーブルで接続します。



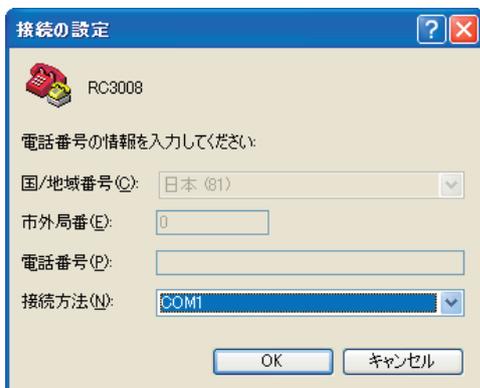
- (2) 「スタート」をクリックして、「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をクリックします。
- (3) 「接続の設定」画面が表示されるので、「名前」に任意の名称を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

接続の設定画面1



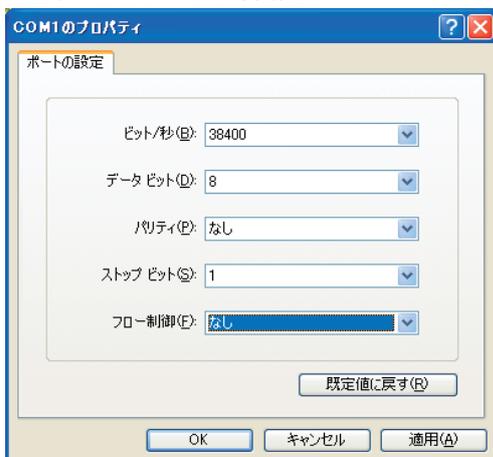
(4) 「接続方法」に、RC-232Cケーブルを接続したCOMポート名を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

接続の設定画面2



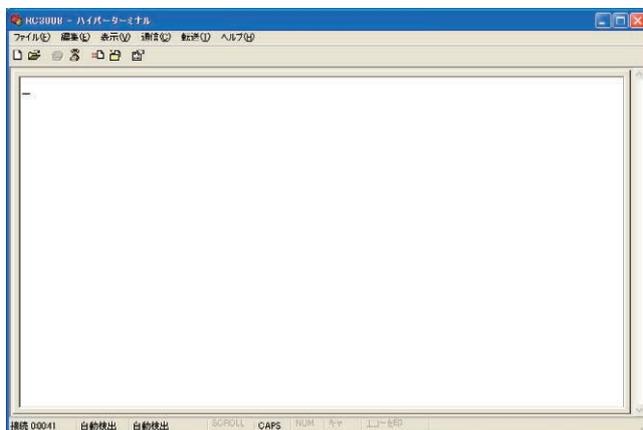
(5) 「COMポートのプロパティ」画面が表示されます。マルチコントロールコンセント本体の設定に合わせて設定してください。（下記の図は、マルチコントロールコンセント本体の設定が工場出荷時設定の場合の例です）

COMポートのプロパティ画面



① ビット/秒	38400
② データビット	8
③ パリティ	なし
④ ストップビット	1
⑤ フロー制御	なし

(6) 設定後、[OK] ボタンをクリックすると、以下の画面となりマルチコントロールコンセントに接続されます。



(7) コマンドの入力が可能になりました。下記のコマンドが使用できます。実行には [Enter] キーを押してください。

#### ●制御コマンド一覧

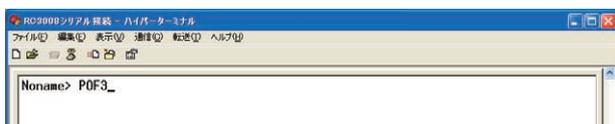
コマンド	内容
MPON	全コンセントの電源出力開始
MPOF	全コンセントの電源出力停止
MPOR	全コンセントの電源リブート
PONn	指定したコンセントの電源出力開始 n=1~8 (nはコンセント番号)
POFn	指定したコンセントの電源出力停止 n=1~8 (nはコンセント番号)
PORn	指定したコンセントの電源リブート n=1~8 (nはコンセント番号)
POS	全コンセントの電源状態取得 応答表示 : mmmm (左からコンセント1~8) m=0 : OFF、m=1 : ON
XPOS	全コンセントの電源状態の詳細取得 応答表示 : ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX (左からコンセント1~8) A=0 : OFF A=1 : ON B=0 : 電源出力停止遅延中 B=1 : 電源出力開始遅延中 XXXX=Bの遅延タイマの残り時間
VER	バージョン表示
OLSn	死活状態の表示 n=1~8 (nはコンセント番号) nを省略すると全コンセントを表示 応答表示・A・B・C・D・E・F・G・H・I・J・K・L A コンセント番号 (1~8) B アウトレット電源出力状態 (0=OFF、1=ON)

	<p>C : PING監視判定 (1=正常、2=異常、3=回復中)  D : 動作実行回数  E : PING監視IPアドレス1の最後の応答 (1=正常、2=異常)  F : PING監視IPアドレス1の未応答回数  G : PING監視IPアドレス2の最後の応答 (1=正常、2=異常)  H : PING監視IPアドレス2の未応答回数  I : PING監視IPアドレス3の最後の応答 (1=正常、2=異常)  J : PING監視IPアドレス3の未応答回数  K : PING監視IPアドレス4の最後の応答 (1=正常、2=異常)  L : PING監視IPアドレス4の未応答回数</p>
DATE	年月日設定 : DATE yy/mm/dd yy=年 (05~99)、mm=月 (1~12)、dd=日 (1~31)
TIME	<p>現在時刻設定 (秒は省略可) : TIME hh:mm:ss hh=時、mm=分、ss=秒  ※現在時刻設定は、先に年月日 (DATE) が設定されている必要があります。  PING PINGを4回送信 : PING [IPアドレス]</p>
CPURESET	<p>CPUをリセット  ※コマンドを実行してもコンセント1~4の電源出力状態は変化しません。</p>
EXIT	<p>回線切断  ※E、e、Q、qの一文字入力の場合はEXITと認識します。  ※シリアル通信の場合は“e221 Goodbye”とだけ表示します。</p>
?xxxx	<p>変数 (xxxx) の値を表示  . xxxx=yyyy 変数 (xxxx) に、値 (yyyy) を設定</p>
WRITE	変数の設定をFROMに書き込む
&SAVE	設定された変数の退避・復元ができるデータを出力
LIST	全ての変数の値を表示
LOG[n]	<p>ログを古いものから順に表示  [n]指定で、最新のn個を古いものから順に表示</p>
LOGB	ログを新しいものから順に表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット
LOGDISP	<p>ログ表示モードのログ制御変数の表示  (ログ制御変数につきましては10-2 「ログ制御変数のビット構成」を参照ください)</p>
LOGDISP=bbb	<p>ログ表示モードのログ制御変数を設定  (ログ制御変数につきましては10-2 「ログ制御変数のビット構成」を参照ください)</p>
PASS	パスワードを変更します。
?	コマンドの一覧を表示します。
TCP	現在のTCPの状態を表示します。
MENU	メニュー設定画面より本装置の設定を行います。
IPCONFIG	LANの通信設定を表示します。

## 設定制御例1

コンセント3の出力をOFFにする場合。

- (1) 以下のように入力しリターンキーを押します。



- (2) 本体のコンセント3の出力がOFFとなり、コマンドが正常に終了したことが画面に表示されます。



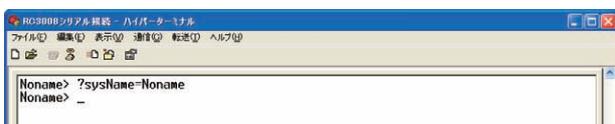
## 設定制御例2

本体名称を設定する場合。(本体名称はWEBや専用ユーティリティでも設定できます。5-5-1、6-5-1)

- (1) “?” コマンドを使用し現在設定されている本体名称を調べます。以下のように入力しリターンキーを押します。



- (2) 本体名称 (変数名 : sysName) に設定されている値が表示されます。  
※変数につきましては、本書の「付録1 変数一覧表」をご参照ください。  
?sysName=Noname



- (3) “.” コマンドを使用し、新たな本体名称を設定します。  
sysName=MeetingRoom1



- (4) 変数をフラッシュメモリに書き込みます。

```
write
```

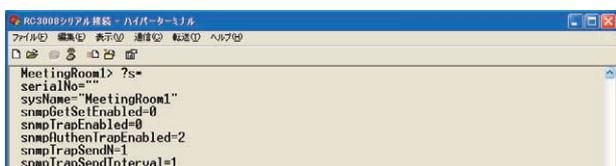


- (5) “?” コマンドを使用し、本体名称が変更されているかを調べます。以下のように入力しリターンキーを押します。

```
?s*
```

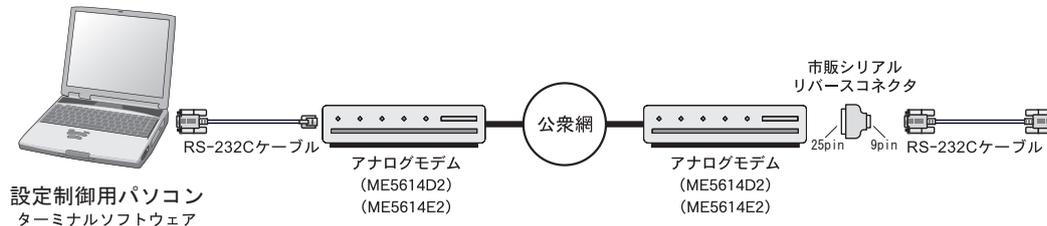


- (6) sで始まる変数と設定値が表示されます。?sysName=" MeetingRoom1" と表示され、本体名称が変更されたことが確認できます。①



## 7-2 モデム経由によるコマンド制御

ターミナルソフトを用いて、モデム経由でマルチコントロールコンセントの設定や電源制御をおこなうことができます。

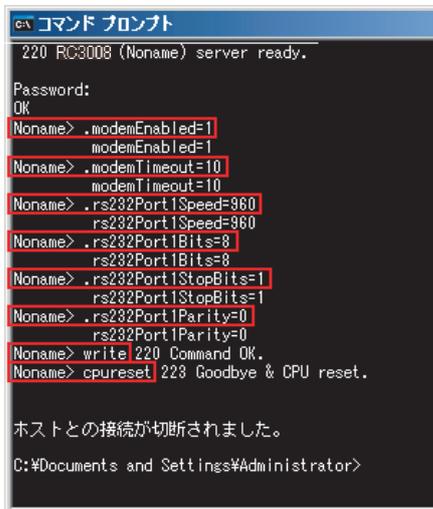


- (1) 本体前面のRS-232Cポートを、接続するモデムに合わせて設定します。  
(次ページご参照)
- (2) 本体前面のRS-232Cポートとモデムを接続します。(上図参照)
- (3) 遠隔地のモデムからアクセスします。(次ページ参照)
- (4) 接続されるとパスワードを要求されます。パスワードには「TELNETパスワード」を入力してください。  
工場出荷設定 TELNET パスワード:magic
- (5) 入力したパスワードが正しければ、コマンド入力待ちの状態になります。
- (6) 以下のコマンドが使用できます。

コマンド	内容
PONn	指定したコンセントの電源出力開始 n=1~8 (nはコンセント番号)
POFn	指定したコンセントの電源出力停止 n=1~8 (nはコンセント番号)
PORn	指定したコンセントの電源リブート n=1~8 (nはコンセント番号)
MPON	全コンセントの電源出力開始
MPOF	全コンセントの電源出力停止
MPOR	全コンセントの電源リブート
POS	全コンセントの電源状態取 応答表示: mmmm (左からコンセント1~8) m=0: OFF、m=1: ON
XPOS	全コンセントの電源状態の詳細取得 応答表示: ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX (左からコンセント1~8) A=0: OFF A=1: ON B=0: 電源出力停止遅延中 B=1: 電源出力開始遅延中 XXXX: Bの遅延タイマの残り時間
OLS[n]	PING監視状態の表示 n=1~8 (nはコンセント番号) nを省略すると全コンセントの状態を表示 応答表示: A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L A: コンセント番号 (1~8) B: アウトレット電源出力状態 (0=OFF、1=ON) C: PING監視判定 (1=正常、2=異常、3=回復中) D: 動作実行回数 E: PING監視IPアドレス1の最後の応答 (1=正常、2=異常) F: PING監視IPアドレス1の未応答回数 G: PING監視IPアドレス2の最後の応答 (1=正常、2=異常) H: PING監視IPアドレス2の未応答回数 I: PING監視IPアドレス3の最後の応答 (1=正常、2=異常) J: PING監視IPアドレス3の未応答回数 K: PING監視IPアドレス4の最後の応答 (1=正常、2=異常) L: PING監視IPアドレス4の未応答回数

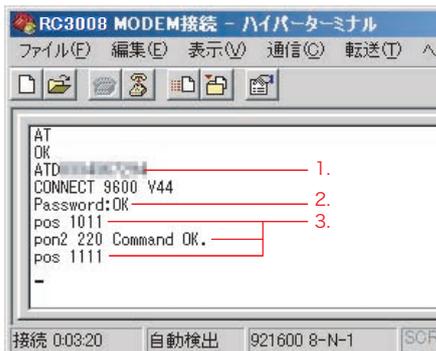
コマンド	内容
VER	バージョン表示
?	コマンドのヘルプを表示
?xxxx変数	(xxxx)の値を表示
WRITE	変数の設定をFROMIに書き込む
.xxxx=yyyy	変数(.xxxx)に、値(yyyy)を設定
CPURESET	CPUをリセット ※コマンドを実行しても、各コンセントの電源出力状態は変化しません。
LOG [n]	ログを古いものから順に表示 [n]指定で、最新のn個を古いものから順に表示
LOGB	ログを新しいものから順に表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット
LOGDISP	ログ表示モードのログ制御変数の表示 (ログ制御変数につきましては10-2「ログ制御変数のビット構成」を参照ください)
LOGDISP=bbb	ログ表示モードのログ制御変数を設定 (ログ制御変数につきましては10-2「ログ制御変数のビット構成」を参照ください)
DATE [yy/mm/dd]	年月日設定 : DATE yy.mm/dd yy=年(05~99)、mm=月(1~12)、dd=日(1~31)
TIME [hh:mm:ss]	現在時刻設定(秒は省略可) : TIME hh:mm:ss hh=時、mm=分、ss=秒
PING addr	PINGを4回送信 : PING [IPアドレス]

### 7-3 モデム接続時のRC3008シリアルポートの設定



- 接続するモデムに合わせて、RC3008に以下の変数を設定します。  
変数の設定は .変数名=設定値 で設定します。
- 項目説明
- .modemEnabled=1  
モデム有効化ビットを1(有効)に設定します。
- .modemTimeout=10  
モデム接続のタイムアウト時間を設定します。
- .rs232Port1Speed=960  
COMポートの通信速度を9600bpsに設定します。(x100bps)
- .rs232Port1Bits=8  
データ長を8ビットに設定します。
- .rs232Port1StopBits=1  
ストップビットを1ビットに設定します。
- .rs232Port1Parity=0  
パリティを0(無し)に設定します。
- write コマンドで設定をRC3008本体のフラッシュメモリに書き込みます。
- cpureset コマンドでRC3008本体のCPUを再起動し設定を有効にします。
- 本設定はTELNETもしくは、制御ユーティリティのコマンド通信機能を用いて設定してください。

### 7-4 ターミナルソフトによる接続例



- <画面の説明>
1. 制御用パソコンのターミナルソフトウェアから、RC3008が接続されているアナログモデムの電話番号に対してダイヤルします。  
(あらかじめモデムに自動着信の設定をしておいてください。)
  2. 接続されるとパスワードを要求されます。  
パスワードを入力してリターンキーを押してください。  
注意 : パスワードは、TELNETパスワードとなります。
  3. 例として  
POS 全てのコンセントの電源状態を確認するコマンド  
PON2 コンセント番号2を“ON”にするコマンド  
を入力しています。

取扱説明書 詳細版

第8章

メールによる制御

## メールによるコマンド制御

(1) E-mailでアクセスし制御コマンド使って電源制御できます。以下Outlook Expressによる例を示します。

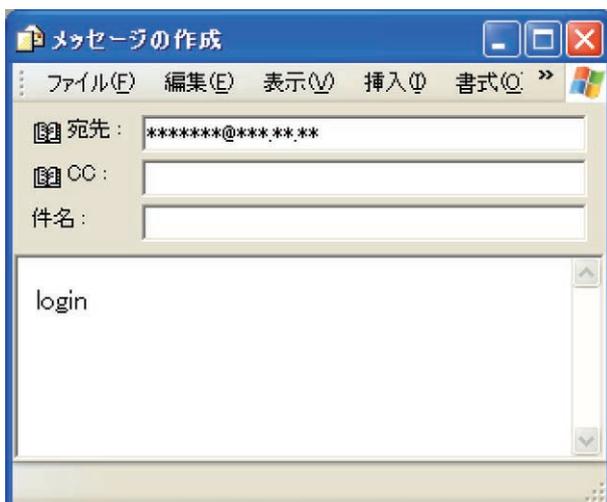
ログイン方式方式方式

「メール制御コマンド有効」のプルダウンメニューから「ログイン方式」を選択した場合。

ログインIDの取得

以下のようにログインID要求メールを送信します。

- ①宛先：前項で本体に設定したメールアドレス
- ②件名：空欄
- ③本文：login



しばらくすると※、件名が「年月日 時刻 ID No.」、本文に「ID No.」が書かれた下記のメールが返信されてきます。  
※最大で前項で設定したメールチェック間隔時間がかかります。

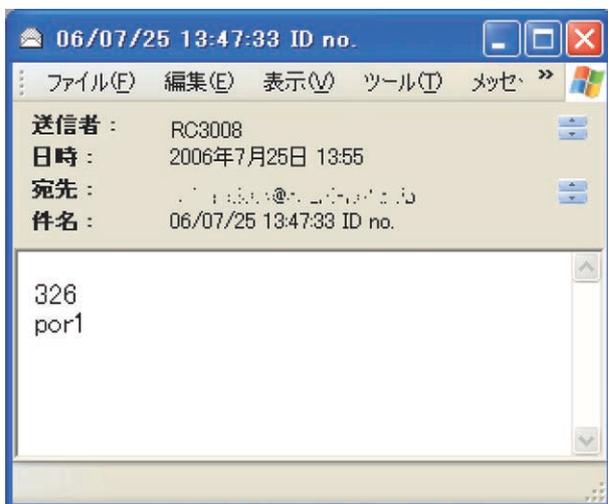


## (2) メールによるコマンド制御

コンセント1をリポートする場合

ログイン方式：本文の1行目に「ID No.」、2行目に「コマンド」を入力しメールを送信します。

パスワード方式：本文の1行目に「パスワード」、2行目に「コマンド」を入力しメールを送信します。



(3) 本体のコンセント1の出力がリポートし、コマンドが正常に終了したことを示すメールが返信されます。



(4) ログアウトするには、メールの本文に“QUIT”と入力して送信します。“Q”または“E”の一文字だけでもログアウトできます。

(5) メール制御で使用できるコマンド一覧 以下のコマンドが使用できます。

コマンド	内容
?xxxx	変数 (xxxx) の値を表示
MPON	全コンセントの電源出力開始
MPOF	全コンセントの電源出力停止
MPOR	全コンセントの電源リポート
PONn	指定したコンセントの電源出力開始 n=1~4
POFn	指定したコンセントの電源出力停止 n=1~4
PORn	指定したコンセントの電源リポート n=1~4

POS	全コンセントの電源状態取得 応答表示 : mmmm (左からコンセント1~4) m=0 : OFF、m=1 : ON
XPOS	全コンセントの電源状態の詳細取得 応答表示 : ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX, ABXXXX (左からコンセント1~4) A=0 : OFF A=1 : ON B=0 : 電源出力停止遅延中 B=1 : 電源出力開始遅延中 XXXX=Bの遅延タイマの残り時間
VER	バージョン表示
OLSn	死活状態の表示 n=1~4 nを省略すると全コンセントを表示 Outlet No. コンセント番号 (1~4) Power 電源状態 (0=OFF、1=ON) Judge 判定 (1=正常、2=異常、3=回復中) Action Count 動作実行回数 Last Ping1 アドレス1の最後の応答 (1=正常、2=異常) No Echo Count1 アドレス1の未応答回数 Last Ping2 アドレス2の最後の応答 (1=正常、2=異常) No Echo Count2 アドレス2の未応答回数 Last Ping3 アドレス3の最後の応答 (1=正常、2=異常) No Echo Count3 アドレス3の未応答回数 Last Ping4 アドレス4の最後の応答 (1=正常、2=異常) No Echo Count4 アドレス4の未応答回数 ※コンマで区切って表示
DATE	年月日設定 : DATE yy.mm/dd yy=年 (05~99)、mm=月 (1~12)、dd=日 (1~31)
TIME	現在時刻設定 (秒は省略可) : TIME hh:mm:ss hh=時、mm=分、ss=秒
EXIT	回線切断 ※E、e、Q、qの一文字入力の場合はEXITと認識します。 ※シリアル通信の場合は“e221 Goodbye”とだけ表示します。 ※“XPOS”、“VER”、“PASS”など一部のコマンドはログイン時のみ有効です。
LOG	ログの表示 (連番号順)
LOG n	ログの表示 (最新n個)
LOGTIME	e=t : ログ開始からの経過秒=現在時刻 w0=t0 : NTP接続までの経過秒=最初の取得時刻 ※NTPが無効の場合はeのみ表示

取扱説明書 詳細版

第9章

ロギング機能の設定・表示

本体に接続した機器の監視やその他のイベントログを1,000件まで記録します。1,000件を超えた場合は古いログから消去し、新しいログを記録します。記録されたログは以下のコマンドで表示し、確認することができます。

### 注 意

本体の電源がOFFにされたり、本体前面のリセットスイッチが押されると、記録されたログは消去されます。

## 9-1 TELNETまたはターミナルソフトによる設定・表示

TELNETまたはターミナルソフトで本体にログインし、制御します。記録モード/表示モードの設定と、記録されたログの表示には、以下のコマンドを入力し、[Enter] キーで実行します。

### ①記録モードの変数名とコマンド

変数名 : logMode  
コマンド : .logMode

### ②表示モードの変数名とコマンド

変数名 : logDisp  
コマンド : .logDisp

### ③接続中の表示のみを変更するコマンド

(通信が終了すると“logDisp”の値にもどります)  
コマンド : LOGDISP

## 9-2 ログ制御変数のビット構成

変数の値は、最下位を0ビットとした19ビットの構成になっています。

ビット	内容	ビット	内容
18	温度状態変化	8	メール不正アクセス
17	変数設定、write	7	ユーティリティログイン/ログアウト
16	PPPoE関連	6	ユーティリティ接続/切断
15	モデムログイン/ログアウト	5	電源障害等
14	モデム接続/切断	4	電源制御コマンド
13	TELNETログイン/ログアウト	3	拡張ビット
12	TELNET接続/切断	2	ping監視によるイベント
11	WEBログイン/ログアウト	1	ping無応答
10	WEB接続	0	ping送信
9	メールログイン/ログアウト		

各ビットの値 0=無、1=有

TELNET接続による設定例

工場出荷時設定 111 1111 1111 1111 0100

●ping監視によるイベント、電源制御コマンド、電源障害のログを記録する場合

```
. logMode=00000000000000110100
      ↑      ↑
      18ビット 10ビット
```

●すべて表示する場合

```
. logDisp=11111111111111111111 (工場出荷時設定)
```

●接続中に「温度状態変化」と「変数設定」だけ表示する場合

```
LOGDISP=110000000000000000
```

## 9-3 ログ表示コマンド

コマンド	内容
LOG	ログの表示（連番号順）
LOG n	ログの表示（最新n個）
LOGTIME	e=t : ログ開始からの経過秒=現在時刻 w0=t0 : NTP接続までの経過秒=最初の取得時刻 ※NTPが無効の場合はeのみ表示
LOGCLEAR	ログのクリア
LOGCLEAR T	ログのクリア及び記録時間のリセット

### 注意

- 一度に表示できるログは20項目までです。[Enter] キーを押すと、次の20項目が表示されます。
- TELNETなどでの複数の同時アクセスは、誤作動や誤表示の原因となりますのでお止めください。

## 9-4 ログの表示形式

nnn ttt a b xxxxxxxx c または、nnn yy.mm.dd hh:mm:ss a b xxxxxxxx c

nnn	: 連番号
ttt	: NTPサーバに接続していない時、記録開始からの時間
yy.mm.dd hh:mm:ss	: NTPサーバに接続している時、年月日時分秒
a	: コンセント番号
b	: PING送信先番号 (1~4)
xxxxxxx	: イベント
c	: IPアドレス

## 9-5 記録ログ一覧表

監視設定に基づくイベント (記録・表示のモード設定あり)	
Ping	ping送信
No Echo	Echo ping無応答
監視設定 (Action) に基づくイベント	
No Action	処理なし
Outlet Reboot	電源リポート
Outlet On	電源ON
Outlet Off	電源OFF
※スケジュールの場合は「by Schedule」、温度の場合は「by Temperature」と表示されます。	
電源制御によるイベント	
MPON	全コンセントの電源出力開始
MPOF	全コンセントの電源出力停止
MPOR	全コンセントの電源リポート
PON	指定したコンセントの電源出力開始
POF	指定したコンセントの電源出力停止
POR	指定したコンセントの電源リポート
アクセスによるイベント (接続先IDを表示)	
--> Uty	ユーティリティ接続
==> Uty	ユーティリティログイン
<== Uty	ユーティリティログオフ (切断)
<-- Uty	ログインしないで切断
※MAIL、TELNET、MODEMの接続・ログインなどもこれに準じます。	
modeに関係ない表示	
Mail Error	メール送信エラー
NTP Sercer Access Error	NTPサーバ接続エラー (3回続けて失敗した場合)
NTP --- hh:mm:ss	NTPサーバ接続

取扱説明書 詳細版

第10章

PPPoEの使用

## 10-1 PPPoEについて

本機はPPPoEを搭載していますので、通信事業者のPPPoEサーバに対しPPPoEクライアントとして利用することができます。

## 10-2 設定について

以下の変数を使ってPPPoEを設定することが可能です。接続操作時は「制御について」のコマンドを使います。

★pppMode	1=常時接続モード、0=コマンド接続モード（工場出荷時設定0）
★pppUserId	ユーザID
★pppPassword	パスワード
pppMyMrU	自局側MRU（工場出荷時設定1454）
pppNoReplyInterval	無応答判定時間（秒、工場出荷時設定2）
pppConnectInterval	常時接続リトライ間隔（秒、工場出荷時設定30）
pppReconnectInterval	自動再接続間隔（秒、工場出荷時設定5：フレッツ仕様では5以上）
pppLcpEchoInterval	LCPのエコー送信間隔（秒、工場出荷時設定30）
pppLcpEchoCount	LCPリンク解放までの無応答回数（工場出荷時設定10）
pppIcmpEchoInterval	ICMPのエコー送信間隔（秒、工場出荷時設定0）
pppIcmpEchoCount	IPリンク解放までの無応答回数（工場出荷時設定5）
pppLogMode	1=接続・解放等のログを記録、0=記録しない（工場出荷時設定1）

★の変数はブラウザでも設定・変更することができます。

## 10-3 制御について

以下のコマンドが利用可能です。

PPPCONN	接続動作を開始 pppUserIdとpppPasswordが設定されていて、なおかつ初期状態なら動作を開始し、“Command OK”と表示。それ以外は“Command failed”と表示
PPPDISC	切断動作を開始 常に“Command OK”と表示。初期状態では何もしない
PPPSTAT	状態表示 常時接続モードでもコマンド使用可能

## 10-4 動作について

PPPoE機能利用時の本機の動作を説明します。

常時接続モード (pppMode=1)

- 起動時にpppUserIdとpppPasswordが設定されていれば、自動的に接続動作を開始します。接続できない場合、pppConnectIntervalの間隔でリトライを続けます。
- 接続後、通信中に切断された場合、pppReconnectInterval後に接続をリトライします。
- PPPDISCコマンドによって切断した場合、PPPCONNコマンドを実行しない限り接続動作をしません。また、このPPPCONNコマンドによる接続が失敗しても、リトライはしません。

リセット時の動作

- 接続している時にCPUリセット (ウォームスタート) をおこなうと、自動的に切断します。常時接続モードに設定されている時は、その後あらためて接続動作を開始します。

DNSサーバアドレス取得

- IPCP接続手順で取得したアドレスを、自動的に変数ipAdDnsServerに設定します。

LEDの表示

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| ●ケーブル抜け状態         | 0.25秒点灯して、0.25秒消灯 |
| ●PPPoE接続、通常状態     | 2秒点灯して、0.5秒消灯     |
| ●PPPoE接続、障害または復旧中 | 0.5秒点灯して、0.5秒消灯   |
| ●その他の状態           | 1秒点灯して、1秒消灯       |

状態表示

- PPPSTATコマンドでは、フェーズ (p) とサブフェーズ (s) を、p-sと表示します。  
(例) モデムの電源が入っていない時、接続動作を開始すると、DiscoveryフェーズでPADO待ちになる。PPPSTAT 1-1  
(例) タイムアウトとリトライを繰り返した後、初期フェーズにもどる時の状態表示はPPPSTAT 0, 1-1となる。  
これは1-1の状態で接続に失敗し、初期フェーズになったことを表します。
- 1-3と3-3は、状態として存在しません。PPPSTAT 0, の後に続く表示としてのみ用いられます。たとえば、PPPSTAT 0, 3-3と表示された時は、認証失敗を表します。
- 接続フェーズでは、等号 “=” に続けてIPアドレスも表示します。

## 各状態の説明

フェーズとサブフェーズの組み合わせで状態を表示します。

## フェーズ

- 0: 初期フェーズ
- 1: Discoveryフェーズ
- 2: LCPフェーズ
- 3: CHAPフェーズ
- 4: IPCPフェーズ
- 5: 接続フェーズ
- 6: 切断フェーズ

## サブフェーズ

各フェーズごとに定義されます。(初期フェーズと切断フェーズには存在しません)

## Discoveryフェーズ

- 0: 初期
- 1: PADI送信、PADO待ち
- 2: PADR送信、PADS待ち
- 3: PADSエラー
- 4: リンク確立

## LCPフェーズ、IPCPフェーズ

- 0: 初期
- 4: Closing
- 6: Req-Sent Config-Req送信、Config-Ack待ち、Config-Req待ち
- 7: Ack-Rcvd Config-Req送信、Config-Ack受信、Config-Req待ち
- 8: Ack-Sent Config-Req送信、Config-Req受信、Config-Ack送信、Config-Ack待ち
- 9: リンク確立

## CHAPフェーズ

- 0: 初期
- 1: Challenge待ち
- 2: Result待ち
- 3: エラーResult
- 4: OK

## 接続フェーズ

- 0: 通常
- 1: 障害
- 2: 復旧中

### モデム・回線の監視

モデムの状態は以下のとおりです。

- ノットレディ（電源OFF、または投入直後）
- 初期
- 接続
- IPリンク解放

通常、モデムは初期状態または接続状態にあります。接続状態中に通信ができなくなることがあります。このような場合は、接続手順に従って再接続をおこないます。また、接続状態中にモデムの電源をOFFにし、再びONにすると、接続状態にもどると初期状態になる時があります（OFFの時間が長いと初期状態になります）。

### 無応答判定

無応答判定時間（変数pppNoReplyInterval）は、以下の状態の時に適用します。

- PADIに対するPADO待ち
- PADRに対するPADS待ち
- LCP、IPCPでConfig-Reqに対するConfig-Ack, Config-Nak待ち
- LCP、IPCPでConfig-Req待ち
- LCP、IPCPでTerm-Reqに対するTerm-Ack待ち
- LCPでEcho-Reqに対するEcho-Reply待ち
- CHAPチャレンジ待ち
- CHAPリザルト待ち

接続中は、変数pppLcpEchoIntervalの間隔でLCPエコー要求を送って、ノットレディでないか監視しています。変数pppNoReplyInterval以内に応答がない場合、その時点で再送信します。無応答が変数pppLcpEchoCountの回数に達するとノットレディと判定します。

ノットレディと判定すると、接続手順を開始できるか（レディになったか）をチェックします。接続手順を開始できるようになった時（具体的にはPADIにPADOが返ってきた時）、あらためてLCPエコー要求を送ります。応答があれば接続状態にもどると判定します。応答がなければ接続手順を開始し再接続します（ただし常時接続モードでなければ再接続はしません）。

接続中に変数pppIcmpEchoIntervalの間隔でICMPエコー要求を送って、IPリンクが解放されていないか監視できます。無応答が変数pppIcmpEchoCountの回数に達するとIPリンク解放と判定し、常時接続モードなら再接続をおこないます。工場出荷時設定は変数pppIcmpEchoIntervalが0なので、ICMPエコー要求は送りません。

LCPエコーとICMPエコーを除いて、リトライ回数は3に設定されています。

### ログ記録

変数pppLogMode=1の場合は、以下のものがログに記録されます。

PPPoE Connect	接続した。IPアドレスも表示
PPPoE Disconnect	切断した
PPPoE Disconnected	切断された
PPPoE Modem Down	ノットレディになった
PPPoE Modem Up	レディになった
PPPoE Continue	接続状態に戻った
PPPoE IP Link Release	IPリンクが解放された

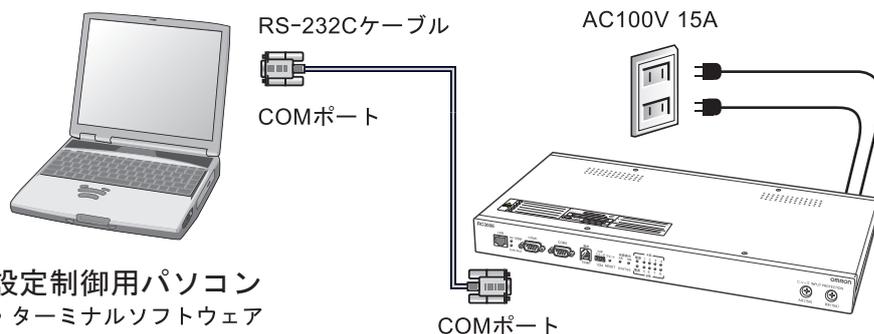
取扱説明書 詳細版

第11章 困ったときには？

本装置の動作や、設定、制御の接続に問題がある場合の対策や各種ご要望などについて説明いたします。本章に記載されている対策でも解決できない場合は、当社カスタマサポートセンター（TEL：0120-77-4717）へお問い合わせください。

## 工場出荷 状態へ戻す

- ① 本体の電源コードを抜いた状態で本体前面のDIPスイッチの1と3をON（下側）にします。
- ② 電源コードをコンセントに接続して電源を供給しますと本体前面のLINKが5秒間点灯しますので点灯中に本体前面のRESETスイッチを押します。
- ③ 本体の電源コードを抜きDIPスイッチを全てOFFにします。
- ④ 設定制御用パソコンと本体を付属のRS232Cケーブルで接続します。

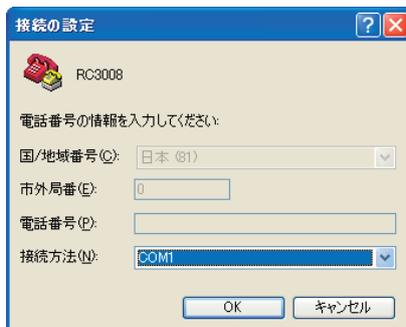


### 設定制御用パソコン ・ターミナルソフトウェア

- ⑤ 設定制御用のパソコンのシリアル通信ソフトウェアを起動します。  
以下にMicrosoft Windowsに標準で添付されているシリアル通信ソフトウェア「ハイパーターミナル」を用いた例を示します。
- ⑥ 「スタート」をクリックして、「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」をクリックします。
- ⑦ 「接続の設定」画面が表示されるので、「名前」に任意の名称を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

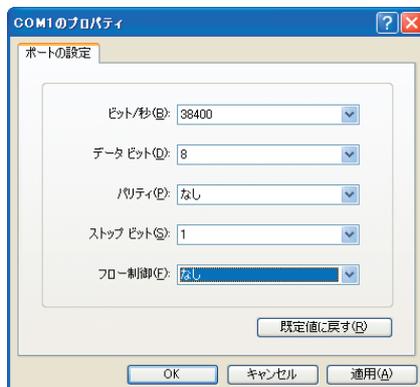


- ⑧ 「接続方法」に、RC-232Cケーブルを接続したCOMポート名を選択し、[OK] ボタンをクリックします。

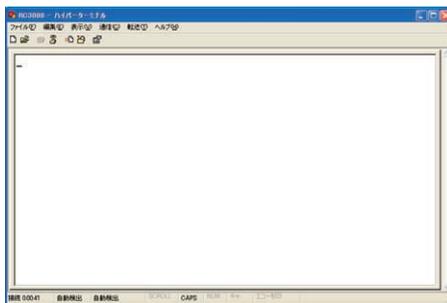


工場出荷  
状態へ戻す（つづき）

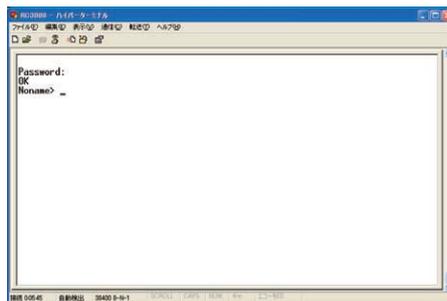
⑨ 「COMポートのプロパティ」画面が表示されます。ネットワークPDU本体の設定に合わせて設定してください。（下記の図は、マルチコントロールコンセントPDU本体の設定が工場出荷時設定の場合の例です）



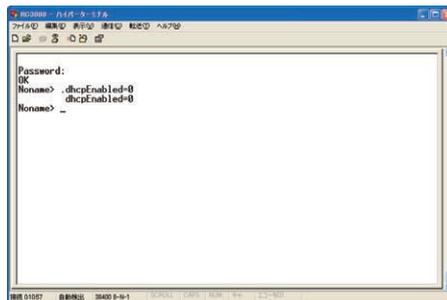
⑩ 設定後、「OK」ボタンをクリックすると以下の画面となります。



⑪ [Enter]キーを押し、password:magicを入力して再度[Enter]キーを押します。パスワードを正しく入力すると下図のようになります。

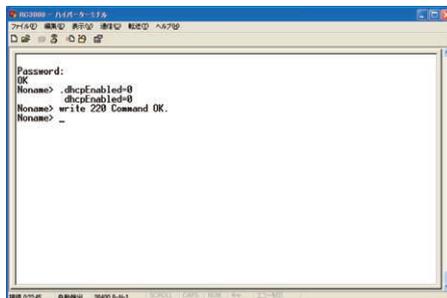


⑫ . dhcpEnabled=0コマンドでDHCPクライアント機能をOFFにします。



### 工場出荷 状態へ戻す（つづき）

- ⑬ ライトコマンドを入力します  
writeを入力し[Enter]キーを押します。  
ライトが成功すると下図のように表示されます。



以上で工場出荷時の状態となります。

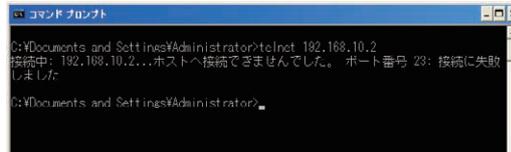
### 本体へブラウザから 接続できない

#### ログイン画面が表示されない場合

- LANケーブルが本体の100BASE-TXコネクタに正しく接続されていること、およびLANケーブルが接続設定用パソコンに正しく接続されていることを確認してください。
  - 本体の電源が入っていること（電源LEDが緑色に点灯）を確認してください。
  - 設定制御用パソコンにインターネットプロトコル（TCP/IP）がインストールされていることを確認してください。
  - 設定制御用パソコンのIPアドレス、サブネットマスクが正しく設定されていること確認してください。
  - ブラウザのローカルエリアネットワーク（LAN）の設定が正しく設定されていることを確認してください。
  - ブラウザのアドレスバーに本体の正しいIPアドレスとポート番号が入力されていることを確認してください。ログイン画面が表示されることを確認します。
- TELNETで接続しようとする、しばらくして下図のように「接続に失敗しました。」と表示される。

### 本体へTELNETから 接続できない

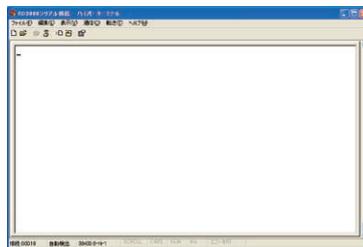
TELNETで接続しようとする、しばらくして下図のように「接続に失敗しました。」と表示される。



- LANケーブルが本体の10BASE-TXコネクタに正しく接続されていること、およびLANケーブルが接続設定用パソコンに正しく接続されていることを確認してください。
- 本体の電源が入っていること（電源LEDが緑色に点灯）を確認してください。
- 設定制御用パソコンにインターネットプロトコル（TCP/IP）がインストールされていることを確認してください。
- 設定制御用パソコンのIPアドレス、サブネットマスクが正しく設定されていること確認してください。
- TELNETの接続IPアドレス、ポート番号が正しく入力されていることを確認してください。

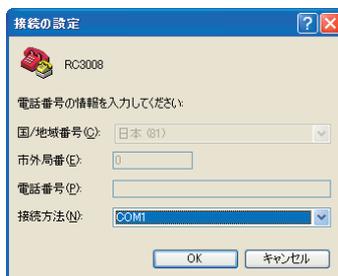
①ハイパーターミナルの「ファイル」→「プロパティ」をクリックします。

### 本体へターミナル ソフトから接続できない

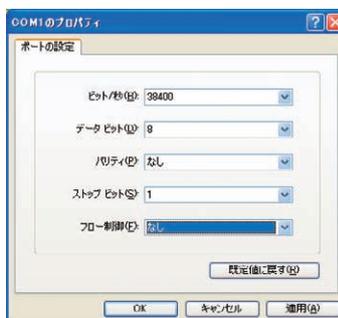


本体へターミナル  
ソフトから接続できない  
(つづき)

② 「接続の設定」タブで接続方法にてCOMポートの確認をお願いします。



③ 「モデムの構成」タブをクリックすると「COMポートのプロパティ」画面が表示されます。ネットワークPDU本体の設定に合わせて設定してください。(下記の図は、ネットワークPDU本体の設定が工場出荷時設定の場合の例です)



コマンドが  
リポート完了したことが  
わからない

POR n コマンドでコンセントをリポートした場合、プロンプトが戻ってきてもまだリポート実行中の場合があります。  
リポート完了したことを知りたい場合はPOSコマンドを実行して、コンセントの状態を取得してください。

リモート電源制御装置 **RC3008**

取扱説明書 詳細版

付 録

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
ipAdEntAddr	192.168.10.1	IP アドレス	
ifPhysAddress	(機器毎)	MAC アドレス(ReadOnly)	
serialNo		未使用	
keyCode		キーコード:自動生成	
keyCheck	0	キーチェック 0:無効 1:有効	
sysName	Noname	機器名称	全角9文字 半角英数字19文字以内
snmpGetSetEnabled	0	SNMP のSET、GET の有効化	0:無効 1:有効
snmpTrapEnabled	0	SNMP TRAP の有効化	0:無効 1:有効
snmpAuthenTrapEnabled	2	SNMP 不正アクセス時のTRAP	通知 1:有効 2:無効
snmpTrapSendN	1	TRAP 送信回数	1~9
snmpTrapSendInterval	1	TRAP 送信間隔(秒)	1~9
snmpTrapAddr		TRAP 送信先アドレス	","区切りで8箇所以内
snmpFilterEnabled	0	SNMP 用フィルタの有効化	0:無効 1:有効
snmpFilterAddr		フィルタ有効時許可するアドレス	","区切りで10箇所以内
snmpFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	フィルタ有効時のMask	10箇所
getCommunity	public	SNMP GET コミュニティ名	
setCommunity	public	SNMP SET コミュニティ名	
trapCommunity	public	SNMP TRAP コミュニティ名	
sysContact	omron_support@omron.co.jp	連絡先	
sysLocation	Nowhere	設置場所	全角31文字 半角英数字63文字以内
ipAdEntNetMask	255.255.255.0	ネットマスク	
ipRouteDest		デフォルトゲートウェイ	
netBootpRetry	0	BOOTP リトライ回数	
netRarpRetry	0	RARP リトライ回数	
telnetEnabled1	1	TELNET の有効化	0:無効 1:有効
telnetPort	23	TELNET のポート番号	
utilityPort	9000	UTY のポート番号	
loadPort	9100	ファームウェアローダーのポート番号	
fileLoadPort	9200	HTML ファイルをロードするポート	
httpEnabled1	1	HTTP の有効化	0:無効 1:有効
httpPort	80	HTTP のポート番号	
httpRefreshInterval	30	HTTP 自動更新間隔(秒)	
httpRefreshEnabled	0	HTTP 自動更新の有効化	0:無効 1:有効
httpCommandEnabled	0	HTTP コマンドの有効化	0:無効 1:有効
dhcpEnabled	0	DHCP の有効化	0:無効 1:有効
ipFilterEnabled	0	IP フィルタの有効化	0:無効 1:有効
ipFilterAddr		IP フィルタアドレス	","区切りで10箇所以内
ipFilterMask	255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255, 255.255.255.255	IP フィルタマスク	10箇所
model	PDU-OM	モデル名(ReadOnly)	

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
com1Speed	3	シリアル通信速度	1: 9600Bps 2: 19200Bps 3: 38400Bps
com1DataBits	8	シリアル通信ビット	7,8
com1StopBits	1	シリアル通信ストップビット	1,2
com1Parity	0	シリアル通信パリティ	0: 無 1: 奇 2: 偶
version		バージョン表示 (ReadOnly)	
debTcpInactiveTimer	10	TELNET 通信時の無通信タイマ(分)	
autoLogin	0	オートログインの有効化	0: 無効 1: 有効
userLoginTimeout	600	HTTP 自動ログアウト時間	
debMasterRebootTime	10	全アウトレットリブート時のOFF 時間(秒)	8~3600 の整数
debOIStartMode	3	電源投入時のアウトレット制御を指定	1: 電源断時の状態 2: 通常制御 3: スケジュール制御
debOIMaster	1,2,3,4,5,6,7,8	マスターのアウトレット番号	
debOIPowerOnTime	1,2,3,4,5,6,7,8	各アウトレットのON 時間	-1~3600 の整数
debOIShutdownTime	0,0,0,0,0,0,0	各アウトレットのOFF 時間	-1~3600 の整数
debOIRebootTime	10,10,10,10,10,10,10,10	各アウトレットのREBOOT 時間	8~3600 の整数
debOIWdogAddr		監視先IP アドレス	"/" 区切りで8 箇所以内
debOIWdogSendMax	10,10,10,10,10,10,10,10	PING 監視 送信回数	1~100 の整数
debOIWdogNoResMax	10,10,10,10,10,10,10,10	PING 監視 無応答回数	1~100 の整数
debOIWdogActCond	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 監視対象数	1~4(整数)
debOIWdogAction	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 Action	0: noPing 1: noAction 2: Reboot 3: On 4: Off
debOIWdogActCount	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 Action 回数 (ReadOnly)	
debOIWdogStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視判断 (ReadOnly)	0: 未設定 1: 正常 2: 異常 3: 回復中
debOIRebootCount	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 再Reboot 回数	1~100
debOIRebootInterval	1,1,1,1,1,1,1,1	PING 監視 再Reboot 間隔(分)	1~60
debOIPopErrorMax	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 POP サーバーへの 連続アクセス異常回数	0: 機能無効
debOIWdogLastStatus	0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 最終応答 (ReadOnly)	0: 未設定 1: 正常 2: 異常
debOIWdogDefGateway	0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 デフォルトゲートウェイ	0: 無効 1: 有効
debOINoResCount	0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 無応答回数 (ReadOnly)	
debOIRespTime	0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0 0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 IP アドレスからの応答時間(ms)	0: 未設定 1: PING 応答の最小値
debOIActionMax	12	PING 監視 異常回数	
debOINoEchoInterval	5	PING 監視 無応答検出時間(秒)	5~60 の整数
debOIPingInterval	1	PING 監視 送信間隔(分)	1~60 の整数
pingInterval2	0,0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 送信間隔個毎(分)	未設定時は上段値 0~60 の整数
debOIName	Outlet1,Outlet2, Outlet3,Outlet4, Outlet5,Outlet6, Outlet7,Outlet8	アウトレット名	全角10 文字 半角英数字20 文字以内
debOINameV		仮想アウトレットの名称	全角10 文字 半角英数字20 文字以内
debOIPowerOnTimeV	0,0,0,0,0,0,0,0	仮想アウトレット用のON 遅延時間	-1~3600 の整数
debOIShutdownAddr		シャットダウンスクリプトの IP アドレス	
debOIShutdownPort	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPort 番号	

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
debOIShutdownScrip	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのスクリプト番号	
debOIShutdownEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの有効化	0:無効 1:有効
debOIShutdownName		シャットダウンスクリプトのサーバー名(ID)	
debOIShutdownPassword		シャットダウンスクリプトのパスワード	
debOIShutdownMsg		シャットダウンスクリプトの成功、失敗ログ	
debOIShutdownExit	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトの成功、失敗変数	
debOIShutdownPingAddr		シャットダウンスクリプトのPING 実行先	
debOIShutdownPingInterval	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPING 間隔	
debOIShutdownPingCount	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトのPING 回数	
debOIShutdownPingMax	0,0,0,0,0,0,0,0	シャットダウンスクリプトPING 限度	
debOIShutdownDebug	0	シャットダウンスクリプトのエラー処理	0:無効 1:有効
debOIShutdownOffMax	255	シャットダウンスクリプトの電源OFF 制限	
script1		スクリプト1の内容	
script2		スクリプト2の内容	
script3		スクリプト3の内容	
script4		スクリプト4の内容	
script5		スクリプト5の内容	
script6		スクリプト6の内容	
script7		スクリプト7の内容	
script8		スクリプト8の内容	
tempEnabled	1	温度監視の有効化	0:無効 1:有効
tempTestMode	0	温度テストモードの有効化	0:無効 1:有効
tempSimMode	0	温度シミュレーションモード	0:無効 1:有効
tempLowerA	-5	下限警報閾値	少数点以下は0.25の倍数となる
tempLowerW	0	下限注意閾値	
tempLowerH	2	下限ヒステリシス	
tempLowerOff	1	低温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempUpperA	45	上限警報閾値	少数点以下は0.25の倍数となる
tempUpperW	35	上限注意閾値	
tempUpperH	2	上限ヒステリシス	
tempUpperOff	1	高温アウトレット解除	0:無効 1:有効
tempOIControl	0,0,0,0,0,0,0,0	温度によるアウトレット動作	0:対象外 1:上限警報で動作 2:下限警報で動作
tempStatus	0	温度状態	0:正常 1:上限注意 2:上限警報 3:下限注意 4:下限警報
tempActionStatus	0	温度による動作状態	0:正常(解除済) 1:上限警報実行 2:下限警報実行
tempDegree		温度測定値(°C)	
tempLogNumber	20	温度ログの記録件数	
tempLogClock	0	温度ログの起動からの経過時間(秒)	
tempLogValue		温度ログの温度データ(数値表示用)	
tempLogGraphValue		温度ログの温度データ(グラフ表示用)	
tempLogTime		温度ログの取得日時	
schEnabled	0,0,0,0,0,0,0,0	スケジュールの有効化	0:無効 1:有効
schOI(n)1Sch(文字列) (n): 1~8 (文字列): Kind,Year,Month, Day,Nth,WeekDay,PatNo		スケジュールデータ(ReadOnly)	
schCalCurrentYear		現在表示中のカレンダーの年	
schCalCurrentMonth		現在表示中のカレンダーの月	
schCalCurrentDay		現在表示中のカレンダーの日	
schRegNum	0,0,0,0,0,0,0,0	各アウトレットのスケジュール登録個数	
schUITimeout	60	アップロードのタイムアウト時間(秒)	
schUICrcEnabled	1	アップロードのCRC チェックの有効化	0:無効 1:有効

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
schDlCrcEnabled	1	ダウンロードのCRC チェックの有効化	0:無効 1:有効
ipAdDnsServer		DNS サーバアドレス	
mailUserName		メール ユーザー名	半角英数字63 文字以内
mailPassword		メール パスワード	半角英数字63 文字以内
mailCommandPassword		メール コマンドパスワード	半角英数字63 文字以内
mailLastEvent		最新のイベント内容を保管	
mailContent	sysName, sysLocation, ipAdEntAddr, ifPhysAddress, mailLastEvent	通知メールの内容	
mailAddr		メールアドレス	
extMailAddr		送信先メールアドレス	8 個
mailInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0	PING 監視 メール送信有効化	0:無効 1:有効
mailTempInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0	温度監視 メール送信有効化	0:無効 1:有効
mailPppInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0	POPサーバ監視 メールの有効化	0:無効 1:有効
mailPowerInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0	電流監視 メール送信有効化	0:無効 1:有効
mailAvrInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0	AVR監視 メール送信有効化	0:無効 1:有効
mailOverInfoFlag	0,0,0,0,0,0,0	ログをメールで送信する設定 (送信数は、mailLogCount 値毎となる)	0:無効 1:有効
mailCommandEnabled	0	メールコマンドの有効化	0:無効 1:有効(ログイン) 2:有効(パスワード方式)
mailCommandAddrEnabled	1	メールコマンドアドレスの有効化	0:無効 1:有効
mailLogoutTime	10	メールログアウト時間(分)	1~60 の整数
mailCheckInterval	3	メールチェック間隔(分)	1~60 の整数
mailApopEnabled	0	APOP の有効化	0:無効 1:有効
mailSmtAuthEnabled	0	SMTPAUTHの有効化	0:無効 1:有効
promptMode	2	TELNET プロンプトモード	0:無し 1:「>」の表示 2:「機器名>」の表示
modemEnabled	0	モデムの有効化	0:無効 1:有効
modemTimeout	10	モデムタイムアウト時間(分)	
logMode	1111 1111 1111 1111 1111 1111 0100	ログ記録モード(28 ビット)	0:無効 1:有効
logDisp	1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	ログ表示モード(28 ビット)	0:無効 1:有効
mailLogCount	0	メールで送信する更新されたログの数	0:無効 1~20:閾値
mailLogMode	1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	メールで送信するログモード(28 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdNtpServer		NTP サーバのIP アドレス	
ntpInterval	6	NTP サーバへのアクセス間隔(×10 分)	
syslogEnabled	0	状態通知の有効化	0:無効 1:有効
syslogLogMode	1111 1111 1111 1111 1111 1111 1111	sysLog で送信するログモード(28 ビット)	0:無効 1:有効
ipAdCenter		sysLog 送信先IP アドレス(8 箇所)	
centerPort	5000,5000,5000, 5000,5000,5000, 5000,5000	sysLog 送信先ポート番号	
terminalId	0	監視情報用ID 番号	0~9999
centerSendTimer	300	監視情報送信間隔(秒)	
centerChangeSendTimer	10	状態変化時の送信間隔(×100 ミリ秒)	
centerChangeSendCount	3	状態変化時の送信回数	
ipAdTelnetT		TELNET からのTELNET 中継先アドレス	
ipAdTelnetU		UTY からのTELNET 中継アドレス	
remoteTelnetPortT	23	TELNET からのTELNET 中継先ポート	
remoteTelnetPortU	23	UTY からのTELNET 中継ポート	
discChar		中継中の通信切断キャラクタ	

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
beepEnabled	1	ブザー音の有効化	0:無効 1:有効
pppMode	0	PPPoE 常時接続モード	0:無効 1:有効
pppUserId		PPPoE ユーザーID	
pppPassword		PPPoE パスワード	
pppMyMru	1454	自局側MRU	
pppNoReplyInterval	2	無応答判定時間(秒)	
pppConnectInterval	30	常時接続リトライ間隔(秒)	
pppReconnectInterval	5	自動再接続間隔(秒)	
pppLcpEchoInterval	30	LCP のエコ送信間隔(秒)	
pppLcpEchoCount	10	LCP のリンク解放までの無応答回数	
pppIcmpEchoInterval	0	ICMP のエコ送信間隔(秒)	
pppIcmpEchoCount	5	IP リンク解放までの無応答回数	
pppStat	0,0,0	PPPoE の状態(ReadOnly)	
pppAddress		PPPoE IP アドレス	
pppConnTime	0:00:00	接続後の経過時間(秒)	0:無接続
ispName		ISP の名称	全角31 文字 半角英数字63 文字以内
upsIdentName		UPS 名称	
upsMonitorInterval	10	UPS モニタ時間間隔(秒)	0~60、0 は1 と見なす。
debMasterUpsAlarmWaitTime	120	UPS シャットダウン開始待機時間(秒)	-1~300 -1の場合はシャットダウン無効
upsSignalLevel	15	UPS 論理(4ビット)	
debMasterEnableUpsShut	2	UPS シャットダウン有効化	1:有効 2:無効
upsOutputSource	0	給電状態	0, 1: 未設定 3: 正常 5: バックアップ
upsBatteryStatus	0	バッテリー状態	0, 1: 未設定 2: 正常 3: 低電圧
upsInputLineBads	0	商用入力異常回数	
shutdownDualCount	5	RC3008冗長構成時に相手方の死活を判断する無応答回数	
shutdownSerialEnabled	1	UPS連携のモード	0:信号線 1:コマンド
omUpsInVoltage		UPSの電圧値情報	
omUpsInFaultVoltage		UPSのFaultVoltage情報	
omUpsOutVoltage		UPSの出力電圧情報	
omUpsOutLoad		UPSの接続負荷情報	
omUpsInFrequency		UPSの周波数情報	
omUpsBatVoltage		UPSのバッテリー電圧情報	
omUpsTemp		UPSの温度情報	
omUpsStatus		UPSの状態情報	bit7が1なら、停電検知 bit6またはbit1が1なら、 ローバッテリー検知
debWakeupPhysAddr	WOL用MACアドレス		“,” 区切りで8 箇所以内
debWakeupMaxCount	2	マジックパケット送信回数	
debWakeupInterval	15	マジックパケット送信間隔(秒)	
debWakeupPhysAddrV		仮想アウトレット用のWOL 設定	“,” 区切りで8 箇所以内
popPort	110	POP3 ポート	0~65535
smtpPort	25	SMTP ポート	0~65535
mailRetryCount	3	メールリトライ回数	1~99
mailRetryInterval	10	メールリトライ間隔(秒)	1~999
ipAdPopServer		POP3サーバアドレス	
ipAdSmtServer		SMTP サーバアドレス	
etherSpeed	2	LAN接続速度	0: 接続していない 1: 10.0Mbps 2: 100.0Mbps
nttcpBufferMax	10000	バッファサイズの最大値	64~300000
nttcpOpt_l	4096	バッファサイズ(-l)の省略値	64~300000
nttcpOpt_n	2048	バッファ数(-n)の省略値	1~999999999
nttcpOpt_g	0	送信間隔(-g)の省略値(マイクロ秒)	0~9999999
nttcpOpt_T	0	タイトル表示(-T)の省略値	0: 無し、1: 有り

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
nttcpOpt_f	文字列3	出力書式(-f)の省略値	
nttcpSvIpAddr		サーバのIP アドレスの省略値	
nttcpSvPort	5037	サーバのポート番号(-p)の省略値	0~65535
nttcpDataPort	5038	データのポート番号	0~65535
nttcpMcPhAddr	01:00:5E:11:32:25	マルチキャストのMAC アドレス	
nttcpMcIpAddr	224.17.50.37	マルチキャストのIP アドレス(-m)の省略値	
nttcpMcPort	5047	マルチキャストのポート番号の省略値	0~65535
nttcpSumCheck	0	サムチェック制御	0: 無し 1: データ比較有りなら無し 2: 有り
nttcpTimeout	30	タイムアウト時間(秒)	3~999
nttcpAutoStart	0	サーバモードでの自動立ち上げ指定	0: 無し、1: 有り
pingPktSize	16	PING パケットのデータ長	16~1472
resetCause	1	リセット原因表示	
popErrorCount	0	PING 監視 POP サーバーへのアクセスエラー回数	0: 表示のみ
ledBlinkEnabled	1	LED の点滅の有効化	0: 無効 1: 有効
clock		起動後の経過時間(秒)	
broadGroup	0	一斉電源制御の有効化	0: 無効 1~8: グループ
broadPhysAddr		一斉電源制御側MAC アドレス	
powerEnabled	1	電力測定の有効化	0: 無効 1: 有効
powerTestMode	0	電力テストモードの有効化	0: 無効 1: 有効
powerUpperA	15,15,15,15, 15,15,15,15	電流 上限警報閾値	
powerUpperW	12,12,12,12, 12,12,12,12	電流 上限注意閾値	
powerUpperH	2,2,2,2,2,2,2,2	電流 上限ヒステリシス	
powerUpperAA 7	15	A系統毎の電流に対する警報の閾値	
powerUpperWA 5	12	A系統毎の電流に対する注意の閾値	
powerUpperHA 2	2	A系統毎の電流に対するヒステリシス	
powerUpperAB 7	15	B系統毎の電流に対する警報の閾値	
powerUpperWB 5	12	B系統毎の電流に対する注意の閾値	
powerUpperHB 2	2	B系統毎の電流に対するヒステリシス	
powerLineFreqMode	0	周波数測定	0: 自動 1: 50Hz 2: 60Hz
powerLineFrequency	1,1,1,1,1,1,1,1	入力電源周波数	1: 50Hz 2: 60Hz
powerOIControl	0,0,0,0,0,0,0,0	電流監視電源制御設定	0: 無動作 1: reverse 動作 (On 動作) 2: 無効 (設定しないで下さい) 3: normal 動作 (Off 動作)
powerStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	電流監視状態	0: 正常 1: 注意 2: 警報
powerSysStatus	0,0	電流監視状態	0: 正常 1: 注意 2: 警報
powerActionStatus	0,0,0,0,0,0,0,0	電源制御状態	0: 通常動作中 1: 制御中
powerCurrent		電流値(A)	"," 区切りで8 箇所
powerVoltage		電圧値(V)	"," 区切りで8 箇所
powerActPower		有効電力値(W)	"," 区切りで8 箇所
powerAppPower		皮相電力値(VA)	"," 区切りで8 箇所
powerAccActPower		有効電力量(kVAh)	"," 区切りで8 箇所
powerAccAppPower		皮相電力量(kVAh)	"," 区切りで8 箇所
powerCo2Emission		CO2 排出量(kg)	"," 区切りで8 箇所
powerStartDate		電力測定開始時間	"," 区切りで8 箇所
powerElapsedTime		電力測定経過時間	"," 区切りで8 箇所
powerCurrentA	0	A系統の合計電流値(A)	
powerCurrentB	0	B系統の合計電流値(A)	
powerCO2CoeffA	0.425	A系統の電力からの換算係数	0.000~9.999
powerCO2CoeffB	0.425	B系統の電力からの換算係数	0.000~9.999
powerPF	1.000,1.000,1.000, 1.000,1.000,1.000, 1.000,1.000	アウトレットごとの力率	"," 区切りで8 箇所

## 付録1 ■ 変数一覧表

変数名	初期値	内容	備考
regulatorStatusA	1	A系統のレギュレーター状態	1:正常 2:異常 3:断
regulatorStatusB	1	B系統のレギュレーター状態	1:正常 2:異常 3:断
sshServerEnabled	0	SSH サーバーの有効化	0:無効 1:有効
sshServerPort	22	SSH サーバーのTCP ポート番号	
sshServerTimeout	10	SSH サーバーへのタイムアウト時間(秒)	
sshServerName	admin	SSH サーバーへの接続ID	8 文字以内
sshServerPassword	magic	SSH サーバーへの接続パスワード	16 文字以内
logLevel	2	SSH 使用中の表示メッセージレベル	通常は初期値で使用
sshPublicDsaKey		KEYGEN コマンドで生成するSSH キー	
sshPublicRsaKey		KEYGEN コマンドで生成するSSH キー	
sshKnownHost1		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost2		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost3		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost4		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost5		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost6		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost7		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
sshKnownHost8		SSH プロトコルでシャットダウンするときの アウトレットごとのキー	
datalogLogMode	0000 0000 0000 0000 0001 1111 1111	データログ記録モード	0:無効 1:有効
datalogLogDisp	0000 0000 0000 0000 0001 1111 1111	データログ表示モード	0:無効 1:有効
datalogLogInterval	10	データログ記録間隔(分)	
errorN	0	シャットダウンスクリプト中の検出エラー数	
versionupEnabled	0	バージョンアップの有効化	0:無効 1:有効

## 付録2 ■ ログ変数一覧表

内容	情報	ログでの表記
ログ開始		Log Start
PING送信	outlet no. IPaddr no.	ping
PING無応答	outlet no. IPaddr no.	No Echo
死活判定（無動作）	コンセント no.	No Action
死活判定（リブート）	コンセント no.	Outlet Reboot
死活判定（コンセントON）	コンセント no.	Outlet On
死活判定（コンセントOFF）	コンセント no.	Outlet Off
正常／回復中	コンセント no.	Outlet Recovered
スケジュール（リブート）	コンセント no.	Outlet Reboot by Schedule
スケジュール（コンセントON）	コンセント no.	Outlet On by Schedule
スケジュール（コンセントOFF）	コンセント no.	Outlet Off by Schedule
温度監視（リブート）	コンセント no.	Outlet Reboot by Temperature
温度監視（コンセントON）	コンセント no.	Outlet On by Temperature
温度監視（コンセントOFF）	コンセント no.	Outlet Off by Temperature
全コンセントON	コンセントALL ID（IDは接続者）	M PON
全コンセントOFF	コンセントOFF	M POF
全コンセントリブート	コンセントALL ID（IDは接続者）	M POR
コンセントON	コンセント no. ID（IDは接続者）	P ON
コンセントOFF	コンセント no. ID（IDは接続者）	P OF
コンセントリブート	コンセント no. ID（IDは接続者）	P OR
UTY接続	IPaddr	==> Uty
UTYログインせず切断	IPaddr	<== Uty
UTYログイン	IPaddr ID（IDは接続者）	==> Uty
UTYログアウト	IPaddr ID（IDは接続者）	<== Uty
メールログイン要求	IPaddr no. (no. は設定番号)	==> Mail
メールログイン	IPaddr no. (no. は設定番号)	==> Mail
メールログアウト	IPaddr no. (no. は設定番号)	<== Mail
TELNET接続	IPaddr --> Telnet	
TELNETログインせず切断	IPaddr <-- Telnet	
TELNET多重超接続	IPaddr >>x Telnet	
TELNETログイン	IPaddr ==> Telnet	
TELNETログアウト	IPaddr <== Telnet	

## 付録2 ■ ログ変数一覧表

内容	情報	ログでの表記
WEB接続		==> Web
WEBログイン		==> Web
WEBログアウト		<== Web
モデム接続		==> Modem
モデムログインせず切断		<== Modem
モデムログイン		==> Modem
モデムログアウト		<== Modem
PPPoE 接続した	IPaddr PPPoE Connect	
PPPoE 切断した		PPPoE Disconnect
PPPoE 切断された		PPPoE Disconnected
PPPoE ノットレディになった		PPPoE Modem Down
PPPoE レディになった		PPPoE Modem Up
PPPoE 接続状態に戻った		PPPoE Continue
PPPoE IPリンクが解放された		PPPoE IP Link Release
設定変更	[変数名] ID (IDは接続者)	variable set (xxxxx)
設定書込(WRITE) ID (IDは接続者)	write to FROM	
温度状態変化	正常、℃	Temperature Normal
温度状態変化	上限注意、℃	Temperature High Warning
温度状態変化	上限警報、℃	Temperature High Alarm
温度状態変化	下限注意、℃	Temperature Low Warning
温度状態変化	下限警報、℃	Temperature Low Alarm
NTPサーバ接続	hour minute second NTP --- hh:mm:ss	
NTPサーバ接続エラー		NTP Server Access Error
メールエラー		Mail Error

付録3 ■ 仕様一覧表

ソフトウェア仕様	通信仕様	対応プロトコル	ARP、BOOTP、DHCP、TCP/IP、UDP/IP、ICMP、HTTP、TELNET、SMTP、POP3、APOP、NTP、PPPoE、SSH、SSL、SNMP、WOL
		制御方法	専用ユーティリティソフトウェア
			ブラウザ
			TELNET
			ターミナルソフトウェア
	機能	電源制御/管理	コンセント電源ON
			コンセント電源OFF
			コンセント電源リブート
			コンセント電源状態取得
			遅延制御
			グループ制御
		スケジュール機能	年間スケジュール機能
			RTC(Real Time Clock)による時刻保持
			NTPによる時刻同期機能 (※1)
			スケジュールON/OFF機能
状態監視	電力監視機能		
	死活監視機能(PING使用)		
	温度監視(※2)		
	UPS監視機能		
通知機能	レギュレータ監視機能		
	SNMP		
	SYSlog		
	E-mail通知		
	MSRP通知		
セキュリティ	シャットダウンスクリプト		
セキュリティ	MD5(専用ユーティリティソフトウェア使用時)		
ハードウェア仕様	インターフェース	100BASE-TX、10BASE-T(RJ-45) × 1	
		RS-232C × 2	
		温度センサ用(RJ-11) × 1	
		コンセント(2極アース付 ツイストロック) × 8	
	表示	通信部LED × 2	
		本体出力LED(PILOT) × 2	
		電力警報LED(AMP) × 2	
		アウトレット出力LED × 8	
	操作	ディップスイッチ(4P) × 1	
		サーキットブレーカー × 2	
	定格	最大制御出力	最大制御容量 合計3000W 入力系統毎 最大1500W(各アウトレットとも1500W MAX)
		消費電力	約7.0W(最大時)
		入力電源	2本
		入力電源電圧	AC100V ± 10% (50/60Hz)
		使用環境	温度
湿度			20 ~ 85% (ただし結露なきこと)
本体外形寸法		445(W) × 200(D) × 43.4(H) mm (突起含まず)	
本体質量	4.2kg		
規格等	電気用品安全法	特定電気用品認証品(PSE)	
	電波障害自主規制	VCCIクラス(※3)	
	電気通信事業法	端末機器の技術基準適合認定	
	RoHS指令	RoHS指令準拠	

(※1) NTPサーバへの接続が必要です。

(※2) 温度センサ(形式:RCTS)が必要となります。

(※3) 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラス A情報技術装置です。

この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策で講ずるよう要求されることがあります。

リモート電源制御装置 **RC3008**

取扱説明書 詳細版

修理・お問い合わせ

## ■修理のご案内

修理を希望される場合の依頼方法は 2つあります。

- ・ お買い上げ店に持ち込んでいただく方法
- ・ 商品を当社電子機器修理センターへ直送していただく方法  
(出張修理サービスはおこなっておりません。ご了承ください。)

## ■電子機器修理センターへ直送していただく方法

修理依頼手順

- (1) 「修理依頼票」をコピーしてください。
- (2) 「修理依頼票」に必要事項をすべて記入してください。  
故障内容や発生頻度などを詳しく記入してください。
- (3) 製造番号／発送日／発送時の送り状 No. を控えとして以下に記入してください。  
修理品のお問い合わせ時に必要です。

製造番号	
発送日	年 月 日
発送業者	
送り状 No.	

- (4) 「修理依頼票」を修理品に同梱し、下記宛先に発送してください。  
(送料はお客様負担にてお願いします。)

〒822-0006  
 福岡県直方市上境飛熊2770番地  
 オムロン直方株式会社内  
 オムロン電子機器修理センター宛  
 TEL : 03-6718-3636  
 (発送される際、宅配便等の伝票には  
 この電話番号をご記入ください)

## ■修理期間

おおむね 3～4週間

※故障状況によっては、1ヶ月以上要する場合がありますのでご了承ください。

## ■修理代金お支払い方法（有償修理の場合）

有償での修理代金は、代金引換または銀行振込にてお支払いください。

- ・ 代金引換……ヤマト運輸株式会社のコレクトサービスを利用します。
- ・ 先行銀行振込……振り込み確認後、修理品を発送させていただきます。



## オムロンカスタマサポートセンター行き

TEL : ☎ 0120-77-4717 FAX番号 : 03-3436-7059

- お客様が当社カスタマサポートセンターにお問い合わせいただくときに本票をご利用ください。
- お問い合わせの前に、CD-ROMに納められている取扱説明書「困ったときには？」の項をご一読ください。
- ※ 本製品に貼られている製造番号をご記入ください。

お問い合わせ票  
(RC3008)

※本紙をコピーしてご利用ください。

お名前			
電話番号	FAX番号		
E-mail			
ご住所	〒		
購入日/台数	年	月	日/台
	製造番号		
パソコン	メーカー名 :		型式名 :
	OS名 (例 : Windows XP) :		
具体的な内容 (エラーメッセージ/詳しい症状/発生頻度/配線図をお書きください)			

## ■各種お問い合わせのご案内

技術的なお問い合わせは 電子機器カスタマサポートセンタ まで。

オムロン株式会社

電子機器カスタマサポートセンタ

TEL : 0120-77-4717 (携帯電話/ PHSからもご利用いただけます)

FAX : 03-6718-3632

メールアドレス : omron\_support@omron.co.jp

受付時間 : 月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30 (12:00 ～ 13:00 を除く)

\* 祝祭日、当社の休日を除く

住所 : 〒108-0075 東京都品川区港南2-3-13 品川フロントビル7F

修理に関するお問い合わせは 電子機器周辺機器修理センタ まで。

オムロン株式会社

電子機器修理センタ

TEL : 03-6718-3636

FAX : 03-6718-3640

メールアドレス : omron\_syuri@omron.co.jp

受付時間 : 月曜日～金曜日 9:30 ～ 17:00 (12:00 ～ 13:00 を除く)

\* 祝祭日、当社の休日を除く

住所 : 〒822-0006 福岡県直方市上境飛熊2770番地

オムロン直方株式会社内 オムロン電子機器修理センタ

通信販売に関するお問い合わせは オムロンダイレクト まで。

オムロン株式会社

電子機器オムロンダイレクト

TEL : 03-6718-3635

FAX : 03-6718-3640

メールアドレス : omron\_direct@omron.co.jp

受付時間 : 月曜日～金曜日 9:30 ～ 17:00 (12:00 ～ 13:00 を除く)

\* 祝祭日、当社の休日を除く

住所 : 〒108-0075 東京都品川区港南2-3-13 品川フロントビル7F

オムロン電子機器商品はインターネットでもお買い求めいただけます。

ホームページアドレス <http://www.omron.co.jp/ese/ups/direct/index.html>

RC3008 取扱説明書 詳細版

発行日 2012年 7月

第3版 K1N-D-10003C

発行責任 : オムロン株式会社

- ・本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
- ・本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
- ・本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、弊社はその責を負いません。
- ・落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。